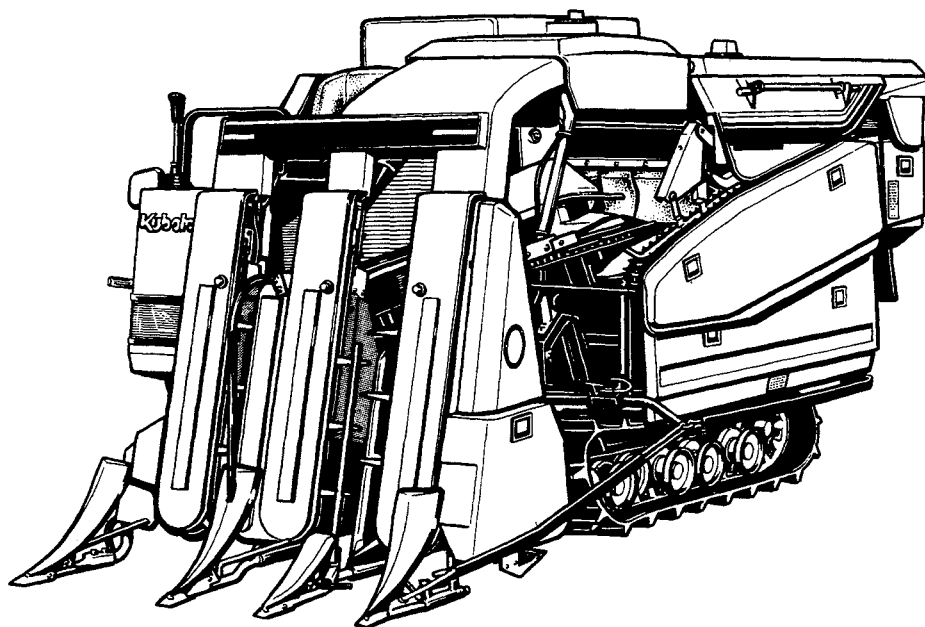


クボタコンバイン

取扱説明書

スカイロード エース

R1-211A



M-5181



安全はクボタの願い

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

操作装置のシンボルマーク

運転操作および保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。これらの表示に従って誤操作のないようご使用ください。

 ₁ ヘッドライト

 ₂ ヘッドライトと作業灯

 ホーン

 ウインカの操作方向

 ウインカランプの作動を点滅で示す

 エンジン油圧

 バッテリー充電

 エンジン予熱

 エンジン回転数低速

 エンジン回転数高速

 2 番スクリー

 排わらチェーン

専門用語の説明

- グロー……………エンジンの始動を容易にするための予熱
- パワーステアリングレバー…油圧式の操向操作レバーと刈取り部昇降レバー
- デバイダ……………穀穂を分けすくい上げる部分
- ドレーン(プラグ)……………エンジンオイル、トランスミッションオイルの排油栓、ラジエータの水を抜く栓
- イージチェッカ……………詰りなどのトラブルの箇所を表示する部分
- スローブローヒューズ……………バッテリー近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ
- グレンホッパ……………精選された穀粒を袋詰めするまで一時貯蔵するもみタンク
- アンローダ……………グレンタンクから“もみ”を排出する筒
- 1 番スクリー……………精選された穀粒を横搬送するスクリーコンベア
- 2 番スクリー……………粗選された穀粒やワラクズを横搬送するスクリーコンベア
- トウミ……………選別風を発生させるファン
- こぎ胴……………脱こくするドラム
- フィードチェーン……………稲を挟持搬送するチェーンコンベア
- 縦スクリー……………精選された穀粒を縦搬送するスクリーコンベア
- フルアップこぎ胴……………こぎ胴を上にする機構
- 揺動板(シーブケース)……………揺動運動して穀粒を選別する装置

はじめに

このたびはクボタ製品をお買いあげいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただき十分理解され、お買上げの製品が秀れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになった後必ず大切に保存し、分からないことがあったときには取出してお読みください。なお、製品の仕様変更などにより、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

▲ 安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた▲の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、▲表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■ 注意事項について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。



警告

…注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うおそれがあるものを示します。



注意

…注意事項を守らないと、けがを負うおそれのあるものを示します。

重要

…注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足

…その他、使用上役立つ補足説明を示します。

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確めのうえ、お間違いのないようお願いいたします。

なお、説明はR₁-211AのHD仕様を基本とし、R₁-211AのHD仕様と取扱いが異なる場合はその都度追加説明してあります。

- 自動こぎ深さ制御装置付き
 - マイコン装置付き
 - 集中注油装置付き
 - 自動方向制御装置付き
 - ホッパ自動シャッタ装置付き
 - 防じんカバー付き
 - 自動脱こく制御装置付き
 - ワイドクローラ付き……………「W仕様」
 - 作物条件によって
- 【1ばん刈仕様】 ……「V仕様」

目次

△安全に作業するために	△-1
サービスと保証について.....	1
装置の知識について.....	3
スイッチとメータ.....3	自動装置.....8
運転装置.....5	
コンバイン使用前の点検について.....	16
上手な運転のしかた.....	18
エンジンの始動と停止について.....18	自動車への積降ろし.....22
路上走行について.....20	トラックでの輸送.....23
停車について.....22	
上手な収穫作業のしかた.....	24
コンバイン作業ができる作物とほ場の条件.....24	ほ場内での回行のしかた.....32
作物の条件.....24	刈取り作業のしかた.....32
ほ場の条件.....24	刈取り作業中の注意事項.....33
コンバイン作業前の準備.....25	手こぎ作業のしかた.....34
ほ場の手刈り(枕刈り).....25	カッタの取扱いについて.....35
作業前の各部の準備.....25	カッタの取付け方.....35
コンバイン作業について.....27	カッタ作業とバラ落し作業の切換え.....36
作業中の注意事項.....27	カッタの開閉のしかた.....37
オーバーヒート時の注意事項.....27	カッタ刃の交換のしかた.....37
刈取り部の操作のしかた.....28	排ワラチェーン部、切断部の点検・掃除のしかた.....40
脱こく部の操作のしかた.....30	排ワラ切換えワイヤの調整.....40
走行部の操作のしかた.....31	切断長切換えのしかた.....40
刈取り部の条合せのしかた.....32	
コンバインの簡単な手入れと処置.....	41
各部の点検と交換.....41	バッテリーの点検と交換.....44
注・給油(水)一覧表.....41	刈刃ギヤーケースのオイル.....45
ラジエータの冷却水の点検と交換.....42	こぎ胴ケースのオイル.....46
エンジンオイルの点検と交換.....43	フィードチェーン駆動ケースのオイル.....46
トランスミッションケースのオイル.....44	各部グリースの補給.....46
油圧オイルタンクのオイル.....44	毎作業前注油箇所.....47

メンテナンス 48

定期点検と処置.....	48	カッタ刃の調整・交換.....	58
定期点検一覧表.....	49	刈刃の調整・交換.....	58
エアークリーナの清掃.....	50	ワラ切刃の交換.....	60
パイプ・ホース類の点検.....	50	各部開閉のしかた.....	60
エンジンオイルフィルタカートリッジの交換.....	51	エンジンルームのフルオープン.....	60
燃料フィルタの清掃.....	51	フルアップこぎ胴.....	61
ラジエータ吸気部の清掃.....	52	こぎ胴受アミの脱着.....	61
電気配線の点検, ヒューズの交換.....	52	シープケースの脱着.....	62
ワイヤハーネス, バッテリ⊕コードの点検・交換.....	53	機内の掃除のしかた.....	64
各部の調整.....	53	掃除口の箇所.....	65
トルクリミッタの調整.....	54	長期格納のしかた.....	66
各部ベルトの張り調整.....	55	使用者が行なってはいけない修理.....	66
各部チェーンの張り調整.....	57	使用済の資材の処分について.....	66

コンバインの不調と処置 67

付 表 75

主要諸元表.....	75	主な消耗部品一覧表.....	78
付属部品.....	76	クボタ純オイル.....	84
特別付属品(別売).....	77	ラットガード.....	85

安全に作業するために

必ず読んで
ください。

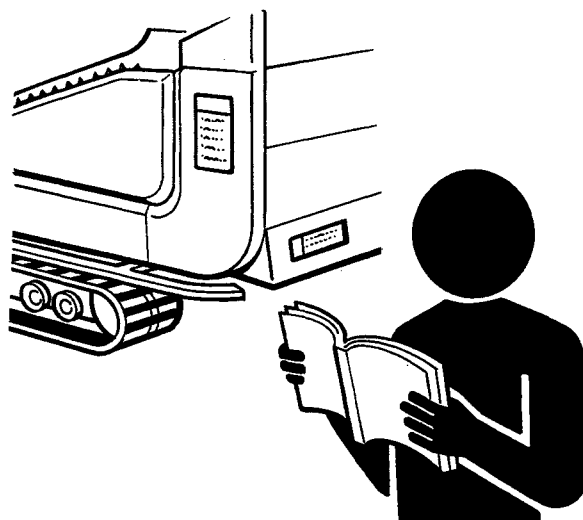
本機をご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文の中で  **警告**、 **注意**、**重要**、**補足** としてそのつど取上げています。

1. 安全作業をするため次のことがらを必ず守ってください。

安全指示順守

■本書および機械の警告ラベルをよく読み理解してください。

- 警告ラベルはいつもきれいにしておいてください。
- 破損・紛失したときは、注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転、作業法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性を損ったり、機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても、安全には細心の注意を払ってください。



適確者運転

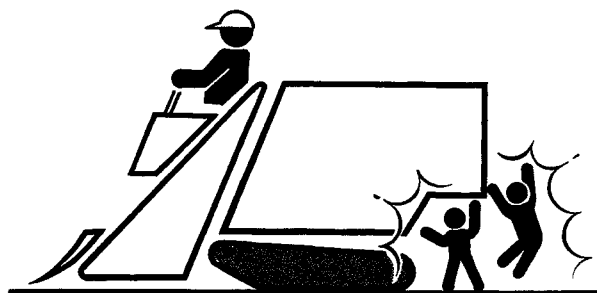
■運転操作には高度な技能が必要です。

- 病氣中、飲酒中の人、16才未満の人は運転操作しないでください。
- 初めて運転する人は、操作に慣れるまで低速で運転してください。



子供が近づくのは危険

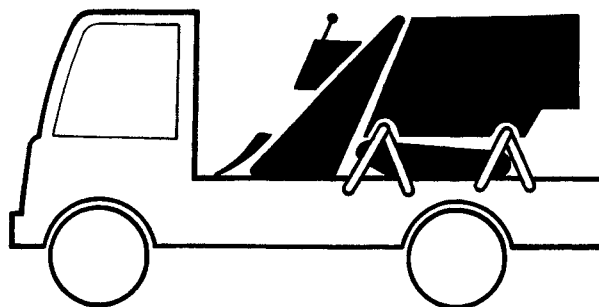
■点検・整備中および収穫作業中機械に子供を近づけないでください。見えないところでコンバインにさわったり、かくれたりして危険です。



安全に作業するために

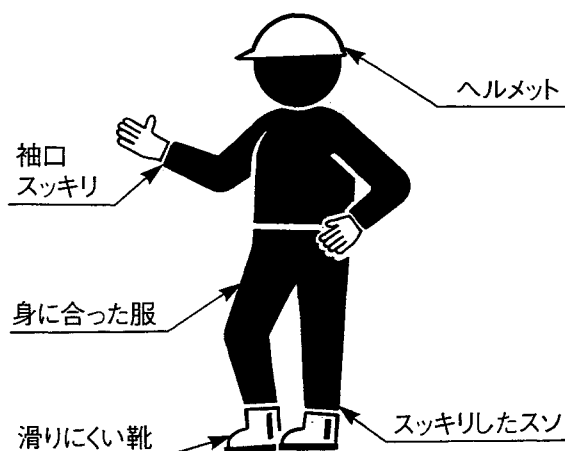
道路走行の注意

- このコンバインは“道路運送車両法”により公道を走ることができません。移動するときはトラック輸送（22,23ページ参照）してください。



安全な服装

- 運転者・補助者とも作業に合った服を着用してください。
- レバーや作動部に誤って引掛け、傷害を起すことがありますのでだぶだぶの服は着用しないでください。また、袖口はきっちりと止めてください。



排気ガスに注意

- エンジンの排気ガスは有毒です。
- 屋内で運転するときは、適切な換気をしてください。
- 排気管を屋外に延長するか、ドアや窓を開け、外気が十分入るようにしてください。



燃料の取扱いは安全に一火気厳禁

■燃料は非常に燃えやすく危険です。

取扱いには注意してください。

- 燃料補給するときはエンジンを必ず止めてください。
- 燃料補給中は火気を近づけないでください。禁煙です。
- 燃料やオイルをこぼしたときは、きれいにふきとってください。

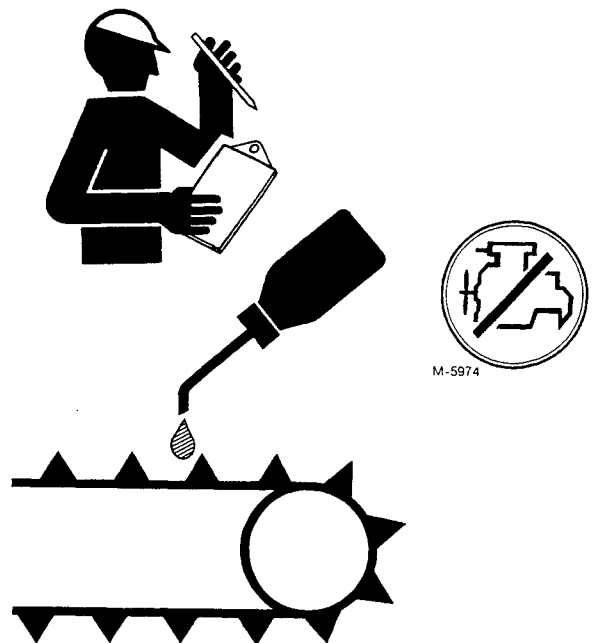


作業前点検（日常点検）の実施

■運転の前には41,42ページの点検項目の点検をしてください。異常があれば直してから運転してください。

■点検・調整・掃除・給油・グリースアップするときはエンジンを必ず止めてください。

- 脱こくクラッチ・刈取クラッチは“切”り駐車ブレーキをかけてください。
- マフラ部周辺・ベルトカバー内・配線部・バッテリー周辺にわら屑がたまっていると火災の原因となります。きれいに取除いてください。
- 燃料・オイル・グリースは指定のものを使ってください。
- 取外した安全カバー、保護カバーは必ず取り付けて作業してください。



機械を動かす場合は安全に注意

■機械を動かす場合は周囲の安全に気をつけてください。

- エンジンを始動するときは、変速レバーを“中立”にし各クラッチを“切”りホーンを鳴らすなどの合図をしてください。
- 機械の発進や各クラッチを入れるときは、ホーンを鳴らすなどの合図をして、人を機械に近付けないうでください。
- 後進・旋回するときは、必ず周囲の安全を確かめてください。



安全に作業するために

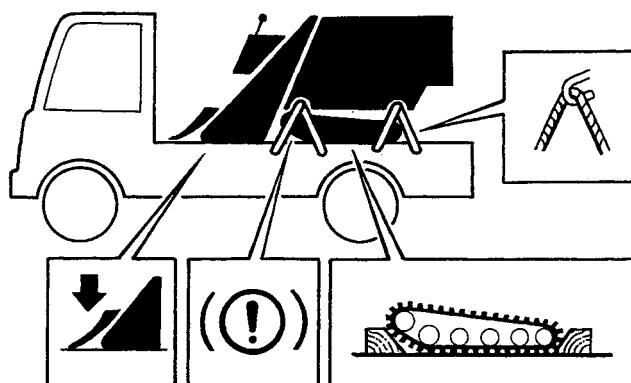
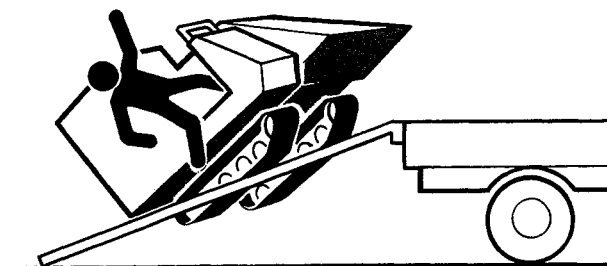
安全なトラック輸送

■あゆみ板で、トラックへの積み降ろしは、平地を選び低速で行ってください。

- あゆみ板は十分強く、すべり止めがあつて段差の4倍以上の長さの丈夫なあゆみ板を使ってください。
- あゆみ板の安定・平行をたしかめてください。
- 積み込みは前進で、降ろすときは後進で行ってください。
- あゆみ板の途中で走行クラッチ・変速レバー・パワーステアリングレバーを操作すると機械が急降下し、落下する危険がありますので操作しないこと。方向を変えるときは、いったん地上に降りて向きを正し、再度上り直してください。

■トラックの上では刈取部を床まで降ろし駐車ブレーキをかけ、ロープでしっかり床に固定します。

- カバー類が開いていると風圧で破損・脱落のおそれがありますので、必ずロック位置まで閉じること。
- 輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは荷動きが生じ危険ですから、絶対しないでください。



安全な路上走行

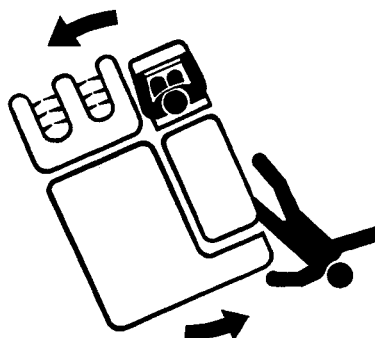
■補助デッキ・左分草桿を収納して機体幅をせまくしてください。

- 刈取部の先にバンパを取付けてください。
- 各作業クラッチを切り、運転者以外乗らないでください。

高速走行の場合の注意

■高速走行するときは、パワーステアリングレバーを強く押すと急旋回し危険です。

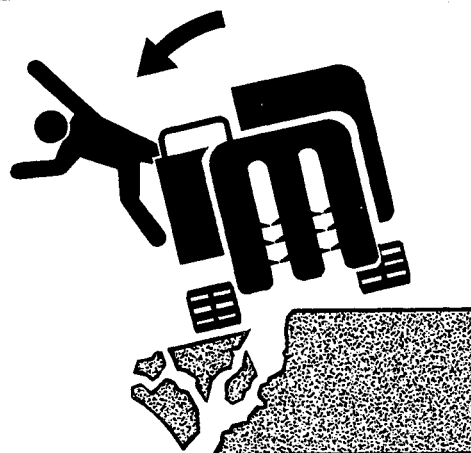
- 方向を変えるときは速度を低速にしてください。



転倒・転落注意

■転倒・転落は重大事故になります。

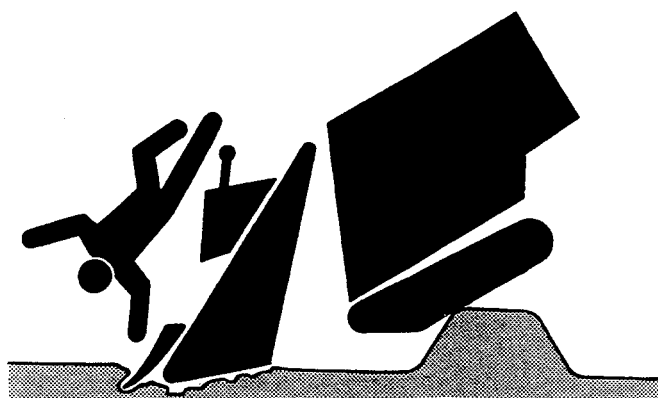
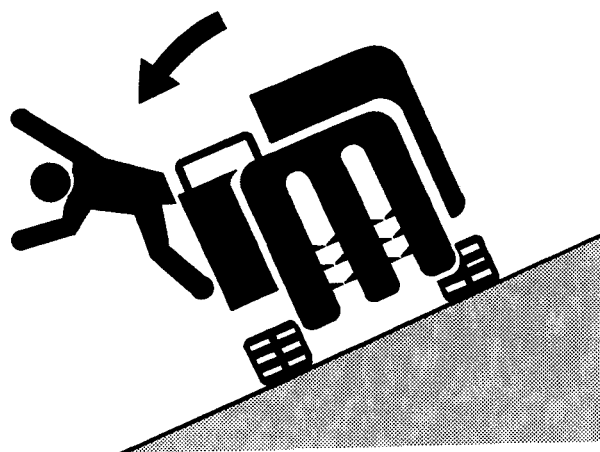
- 溝・穴・土手の近くは路肩が弱いことがあります、コンバインの重みでくずれ場合がありますので、走行しないでください。
- 道幅に余裕がなく高所にある道路（土手）で運転を誤ると、転落して死亡事故になることがありますので走行しないでください。



転倒・転落注意

■坂道走行・ほ場の出入口・傾斜地作業は転倒・転落の危険があります。注意しましょう。

- 坂道の途中や傾斜地では速度を落とし走行クラッチ・変速レバー・パワーステアリングレバーを操作しないでください。
- 坂道・傾斜地で旋回はしないでください。
- 10cm以上の段差のあるところでは、段差の4倍以上の長さで丈夫なあゆみ板を使ってください。
- 低速で段差に直角に進入してください。
- 途中でパワーステアリングの操作はしないでください。



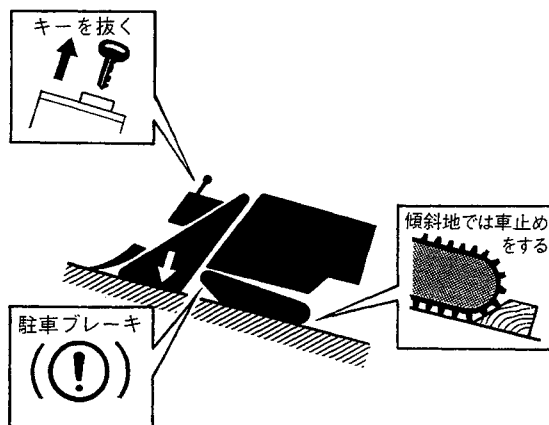


安全に作業するために

安全な駐車の方法

■駐車するとき(運転席を離れるとき)は、駐車ブレーキをかけ、刈取部を地面に当るまで降ろしキーを抜いてください。

- 傾斜地に駐車するときは、車止めをしてください。



運転者以外の搭乗禁止

■運転者以外の人を乗せて運転しないでください。

- 搭乗者がふり落とされたり、障害物にぶつかったりすることがあり危険です。
- 運転者は動いているコンバインにとび乗ったり、とび降りたりしないでください。

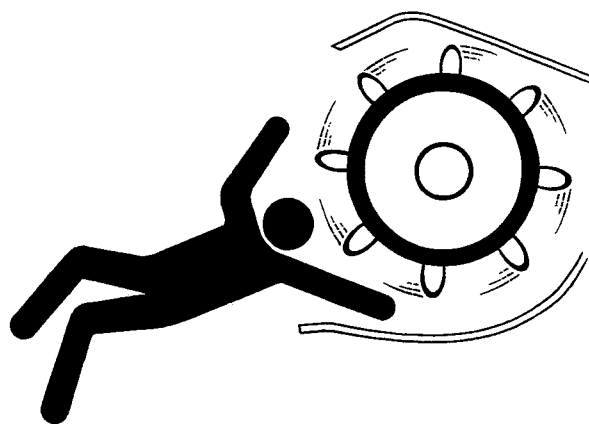
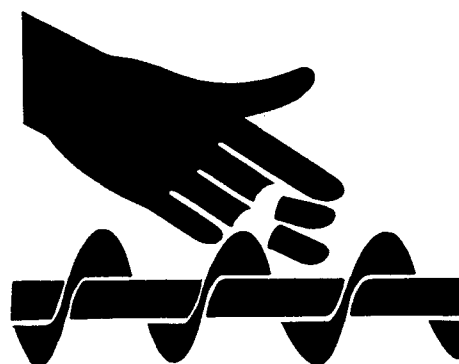
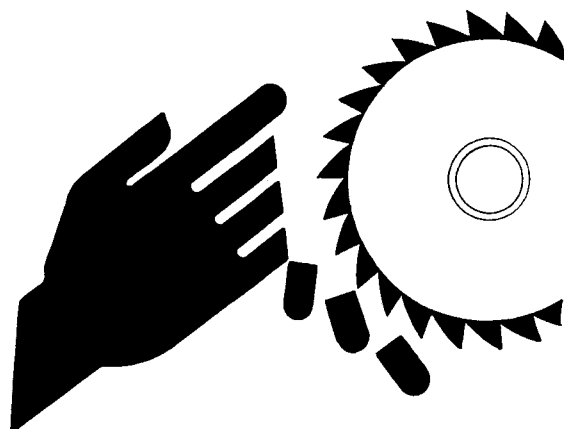


安全な収穫作業

■異常に気づいたらすぐエンジンを止めてください。

- 危険な作動部が多くにあります。作動中にわらの巻付きや詰りを取除くことはしないでください。エンジンを必ず止めて処置してください。
- カッタや結束機にわらが詰ったときは、すぐ各クラッチを切りエンジンを止めて処置してください。
- ベルトカバー・チェーンカバーなどの内部には危険な回転物があります。カバーの下に手を入れたり、カバーを外したままで作動させないでください。
- 各部の掃除口、点検窓の内部には高速回転物があり危険です。掃除口や点検窓を開けるときはエンジンを止めてください。

■こぎ胴をオープン・エンジンルームをオープン・カッタをオープンしたままエンジン・脱こく機・カッタを回転させると非常に危険です。各部をオープンしたままエンジンを始動してはいけません。また、エンジン回転中は各部をオープンしてはいけません。

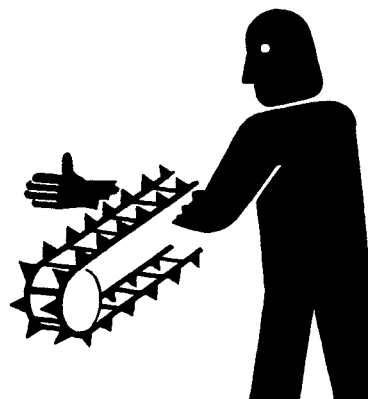




安全に作業するために

安全な手こぎ作業

- コンバインの走行部・刈取部を止めて手と腕をチェーンの外側に位置させ、わらを少量ずつ送り込むこと。
- 袖口がスッカリした服で、手袋は使用しないでください。



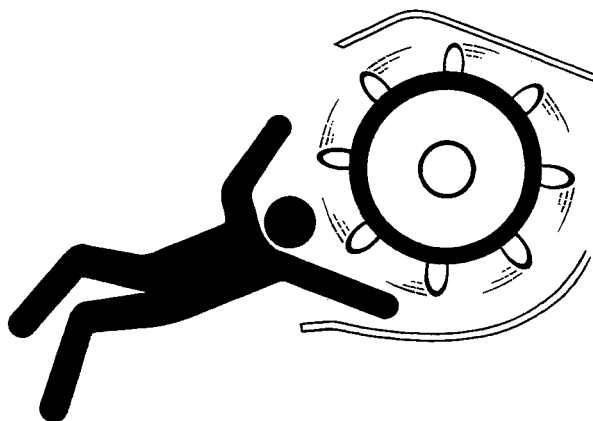
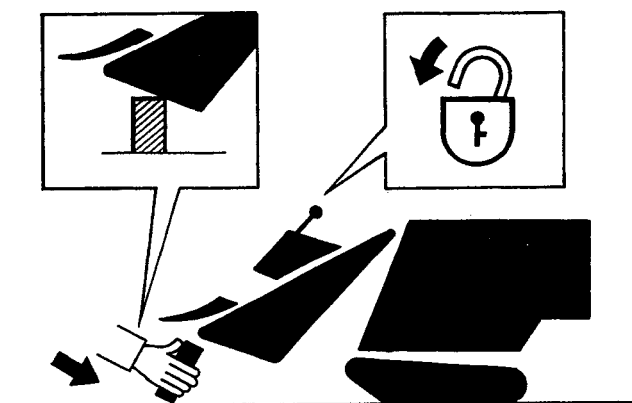
共同作業の安全確保

- 補助者は運転席から見えにくい位置にすることがあります。補助者の安全にも配慮してください。
- エンジン始動時、各クラッチを入れるときはホーンで合図し、補助者のOKをもらってください。
- 補助者がコンバインに近づくときは、運転者に知らせることを徹底させてください。



安全な点検・整備

- 水平で平坦な場所で行ってください。
- エンジンをかけたままでの点検・整備・清掃は危険です。エンジンを必ず止めて、駐車ブレーキをかけてください。
- 刈取部を上げて点検・調整・清掃をするとき、昇降をロックするとともに、落下防止の歯止めをしてください。
- こぎ胴をオープン・エンジンルームをオープン・カッタをオープンしたままエンジン・脱こく機・カッタを回転させると非常に危険です。各部をオープンしたままエンジンを始動してはいけません。また、エンジン回転中は各部をオープンしてはいけません。





安全に作業するために

爆発・火災防止

■バッテリーのガスは爆発するおそれがあります。

- バッテリーの近くでスパークさせたり、マッチを点火したり、裸火を近付けたりしないでください。
- バッテリーの充電は機械より取外して行ってください。

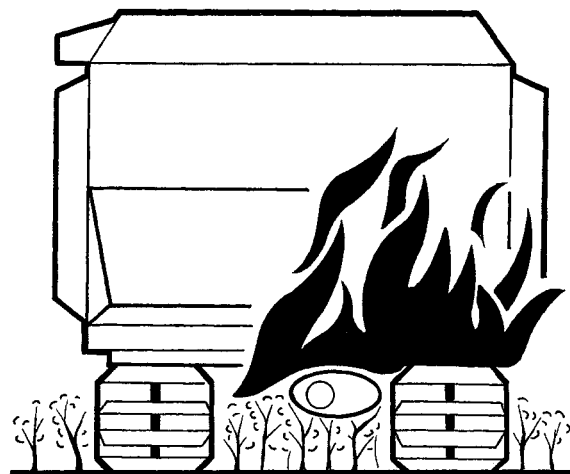
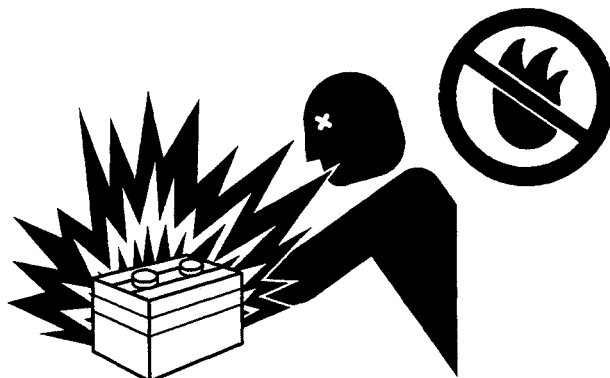
■わら屑は燃えやすく注意が必要です。

- エンジン本体・マフラ周辺・ベルトカバー内側配線部・バッテリー周辺にわら屑がたまっていると危険です。作業前、作業後に点検しきれいに取除いてください。

- 運転後わら屑の上や枯れた雑草の上に停車すると、火災のおそれがありますのでさけてください。

■機体にカバー（おおい）をかけるときは、エンジン・マフラが冷えてからかけてください。停止直後にカバーをかけると火災のおそれがあります。

■電気配線の被覆が破れるとショートして火災のおそれがあります。点検をして破れている部分は修理が必要です。



ヤケド防止

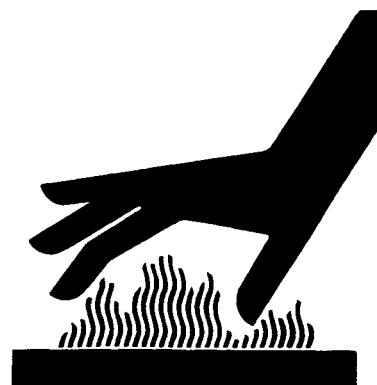
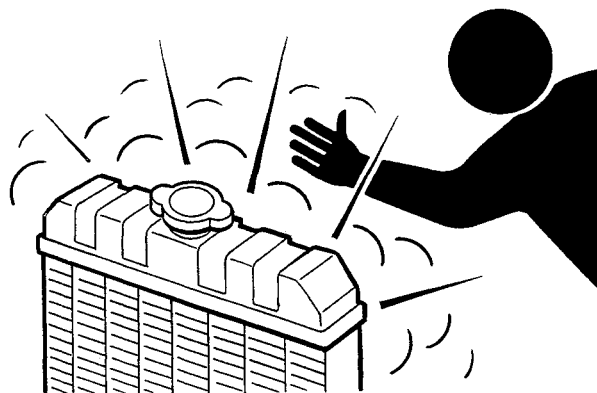
■高温の冷却水あるいは蒸気が皮膚に触れるとヤケドします。

- 運転後はエンジン冷却水は、高温であるとともに加圧されています。エンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後30分以上経過してからエンジンルームを開け、ラジエータキャップを徐々にゆるめて圧を抜いてから作業してください。

■高温の油が皮膚に触れるとヤケドをします。

- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管およびその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるため十分に温度が下がって、残圧がないことを確かめて整備してください。

■エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中および停止直後は触れないでください。



このコンバインを他人に貸すときは

- 取扱説明書をよく読んでいただくとともに、取扱い方法・安全な使い方を説明して、安全な作業ができるように指導してあげてください。

▲ 安全に作業するために

2. ▲表示ラベルと貼付け位置

①

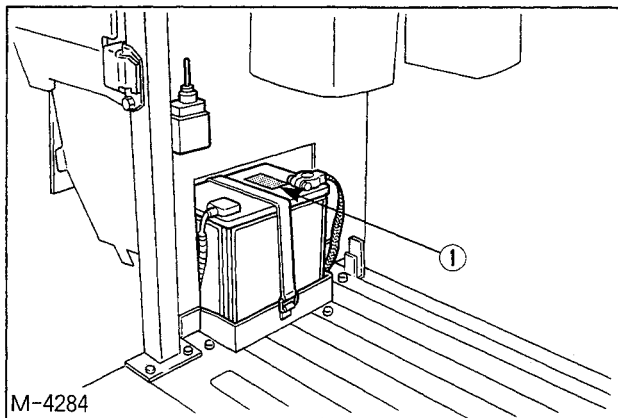
危険！バッテリーの取扱いにご注意

取扱いを誤ると引火爆発することがあります。

- ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気は危険です。
- 充電や使用は通風のよいところでおこなってください。
- ブースタケーブル使用時には危険のないように取扱い下さい。
- バッテリー液（希硫酸）で失明ややけどをすることがあります。
- 目・皮膚・衣服についたときは直ちに多量の水で洗ってください。
- なお目に入ったときは水洗い後、医師の治療をうけて下さい。

DANGER KEEP SPARKS, FLAME, CIGARETTES AWAY.
ÉLOIGNEZ LES ÉTINCELLES, FLAMME, CIGARETTES.

AK2222



M-4284

②品番 52166-2575-1



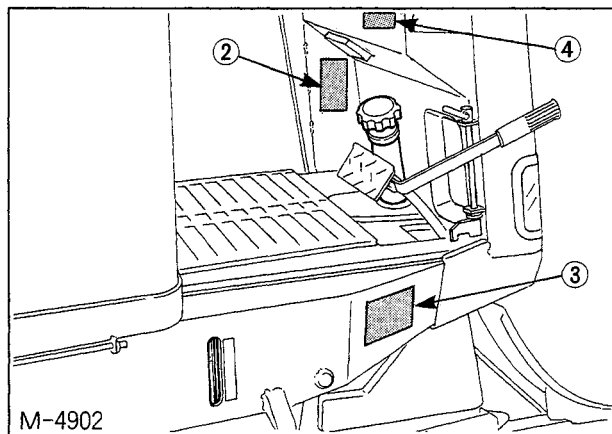
警告



火気厳禁

- ・火災のおそれがあるので給油するときはエンジンを停止すること。

ディーゼル軽油



M-4902

③品番 52320-3158-2



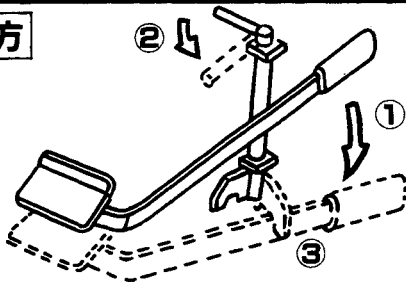
注意

傾斜地での暴走を防ぐため必ず下記を守ること。

- 1) 駐車ブレーキをかけるときは、すみやかにいっぱい下げる。
- 2) 車止めをすること。

駐車ブレーキのかけ方

- ① 駐車ブレーキを下げる。
- ② ブレーキフックを出す。
- ③ レバーをフックに引っ掛ける。



④品番 52166-3533-1



注意

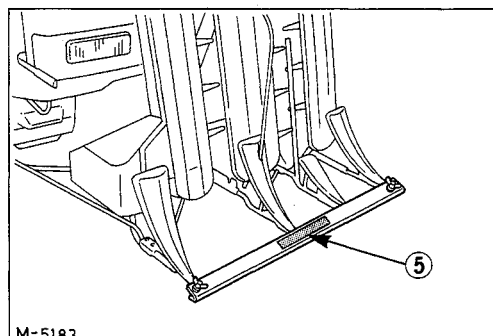
刈取部が不意に下降してはさまれる危険があるので、刈取部を上げて点検・調整するときはロック金具を必ずロックすること。

必ず読んで
ください。

⑤品番 59700-4332-2

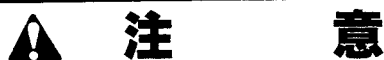
**注意**

デバイダ先端に当たるとけがをするおそれがあるので、移動するときは必ず本品を取り付けること。

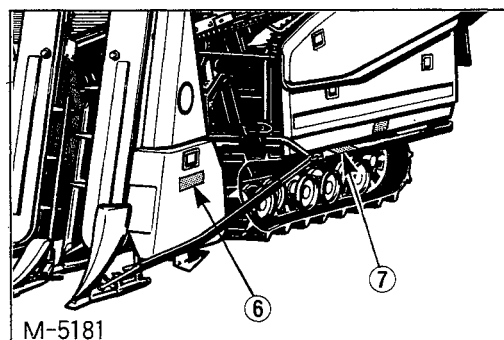


M-5183

⑥品番 53981-6432-1

**注 意**

中に回転物がありケガをするので、
点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
点検・調整後はカバーを必ず取付けること。



M-5181

⑦品番 59700-2136-2

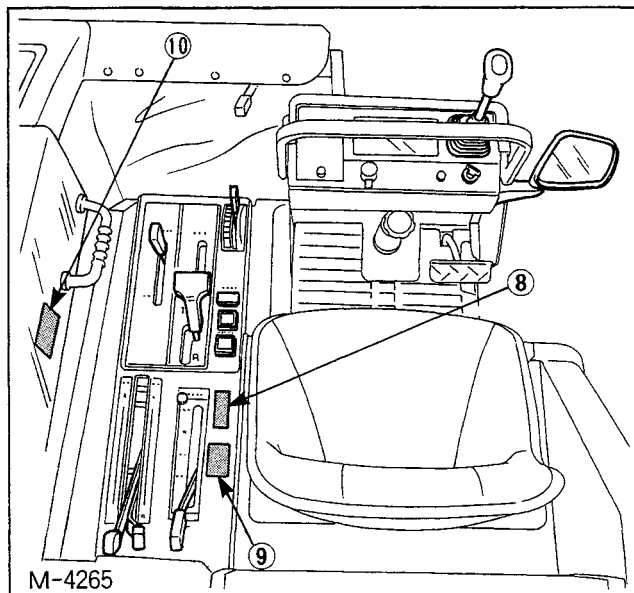
**注意**

人に当たりけがをさせるおそれがあるので、
移動するときは必ず収納すること。

⑧品番 52320-3167-1

**注 意**

エンジンを始動するときは、駐車ブレーキを「入」にし、脱こくクラッチを「切」にすること。



M-4265

⑨品番 52320-3159-1

**注 意**

マフラ・ハイキカン・エンジンなどの高温部に触れるとヤケドをするので、高温部に絶対に触れないこと。

⑩品番 52000-7917-2

**注 意**

トラックで輸送するときは、風圧でカバーが浮き破損・脱落し、ケガをさせるおそれがあるので、刈取部を下げて、ボウジンカバーを閉じ、ロープ等で浮き上がりを防ぐこと。

安全に作業するために

⑪品番 52320-3292-1



注意

作業前

1. 安全に作業するために、取扱説明書を読んで、機械の使い方を覚えること。
2. エンジンを始動するときは、各クラッチを「切」にし変速(N)にすること。
3. 屋内は排気ガスが溜まり易く、ガス中毒の危険があるので、換気すること。
4. ケガをするおそれがあるので、掃除・点検・調整のときは、各クラッチを切りエンジンを必ず止めること。

移動・作業中

1. 発進するときや脱こく部・刈取部を作動させるときは、周囲の安全を確かめ合図をして、機械に人を近づけないこと。
2. 緊急停止が必要なときは、走行クラッチペダルをすみやかにいっぱい踏み込むこと。
3. 転落・転倒事故の危険があるので、傾斜地・路肩の軟弱な道路・がけ際などは走行しないこと。
また路上走行の旋回は、必ず減速すること。
4. 急発進・暴走の危険があるので、副変速を切換えるときは、平坦な場所で、主変速レバーを(N)にし、駐車ブレーキペダルをいっぱい踏み込むこと。

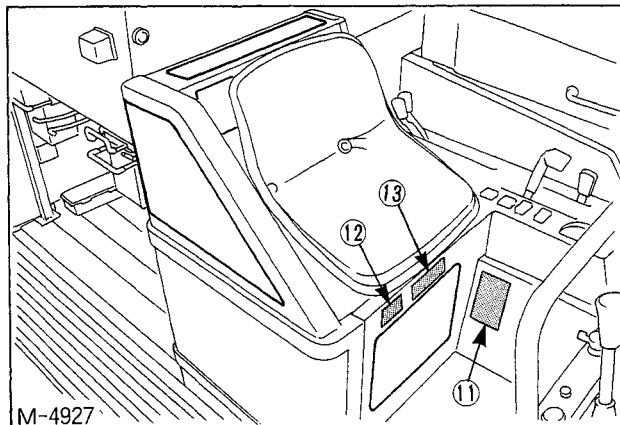
積み・積降し・あぜ越え

転倒・転落事故の危険があるので、車への積み込みおよびあぜ越えは以下を守ること。

- ① 上るときは前進で、降ろすときは後進にすること。
- ② 変速を最低速にし、エンジンの回転を落として低速にすること。
- ③ 運転者は機械から降りて操作すること。
- ④ パワーステアリングレバーを操作しないこと。
- ⑤ 段差の4倍以上の長さですべり止めがあり、丈夫なあゆみ板を使用すること。
- ⑥ 「もみ」はすべて排出、あるいは降ろすこと。

駐・停車

1. 火災の危険があるので、機械を停止するときは、切りワラや雑草の上に止めないこと。
2. 機械から離れるときは、エンジンを止めて「始動キー」を抜き、駐車ブレーキをロックすること。また坂道で駐車するときは、車止めをして暴走を防ぐこと。

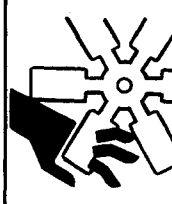


M-4927

⑫品番 52320-3166-1



警告

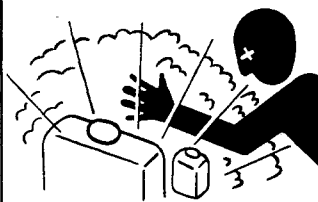


エンジンを回転したままエンジンルームを開けると、ファンやベルトでケガをするおそれがあるので、エンジンルームを開けるときは、エンジンを必ず止めること。

⑬品番 56431-5219-3



注意



オーバヒートでエンジンルームを開けて点検整備するときは、次の手順を守ること。

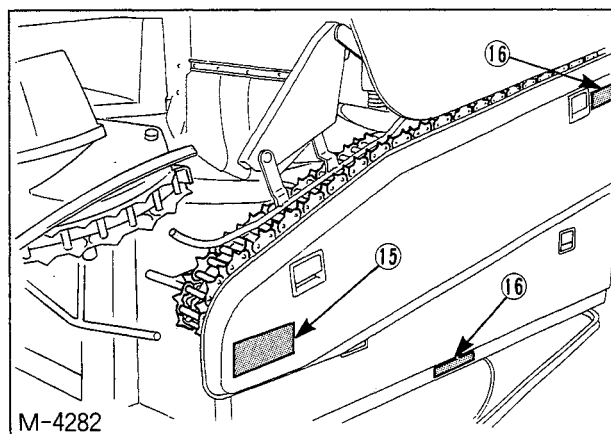
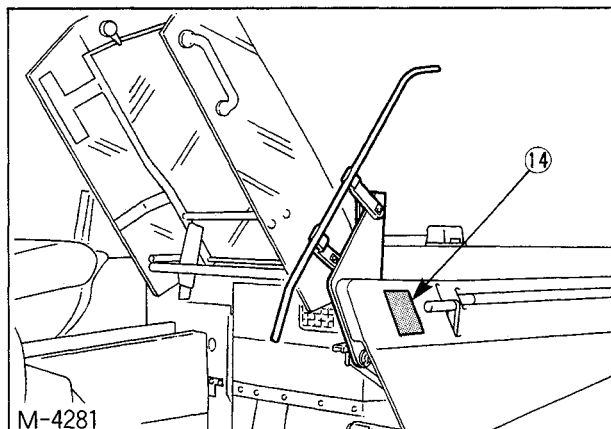
1. エンジンを止める。
 2. 停止後30分以上経過してから開ける。
- エンジンが冷えていないときエンジンルームを開けると、ラジエータ部・リザーブタンク部より熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがある。

⑭品番 53981-6431-3

▲ 警告

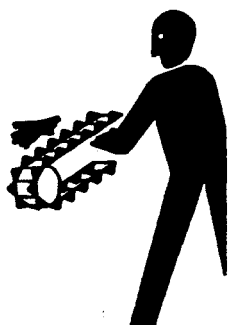


中で扱歯が高速で回転しているの、接触するとけがをします。扱胴オープンするときには、エンジンを必ず止めること。



⑮品番 53981-6435-2

▲ 警告

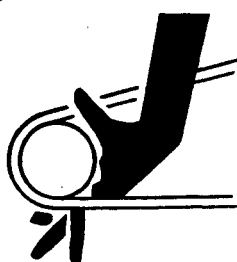


1. わら等の巻付き・詰まり除去のときは、エンジンを必ず止めること。
2. 手こぎ作業で、手・腕をチェーンにはさまれてけがをするおそれがあるので、下記を守ること。
 - ・平坦な所で走行部・刈取部を止めること。
 - ・手・腕をチェーンの外側に位置させ、わらを少しづつ送り込むこと。

⑯品番 53981-6436-2

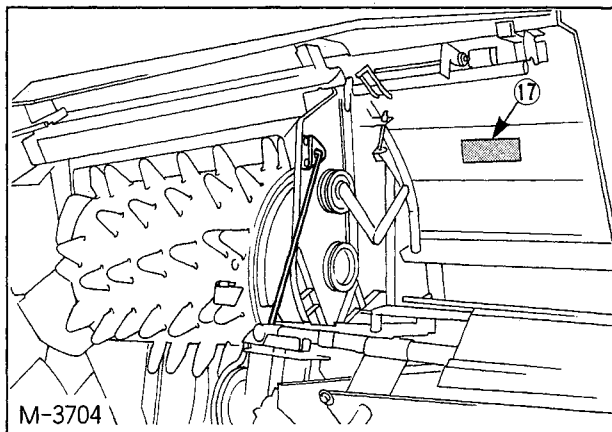


注 意



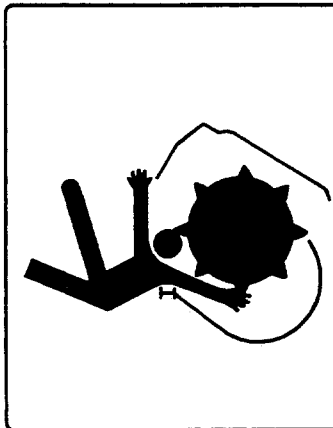
1. 回転物に接触するとケガをするおそれがあるので、カバーの下側に手を入れないこと。
2. 点検・調整時はエンジンを必ず止めること。
3. 点検・調整後はカバーを必ず取付けること。

安全に作業するために



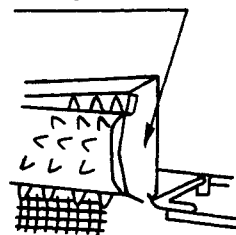
M-3704

⑰品番 53981-6416-2

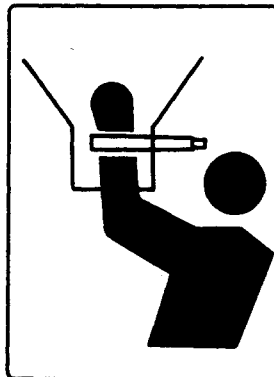
**警****告**

1. 扱胴オープンした状態で脱こく機を回転させると非常に危険です。エンジンは、絶対に始動しないこと。
2. 扱胴をオープンして、受網の脱着や扱室の掃除をするときは扱胴が落下して身体がはさまれることがあるので、ストッパで必ず固定すること。

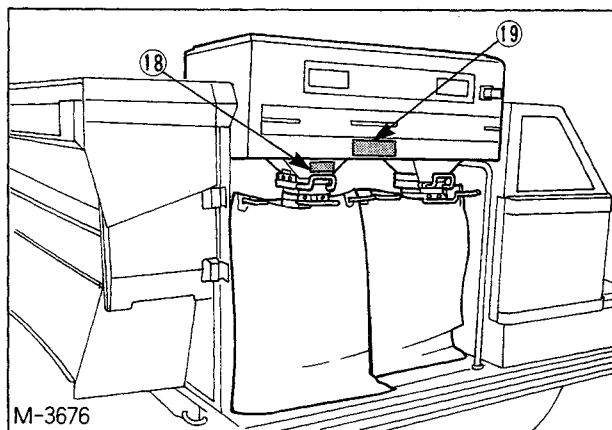
ストッパ



⑱品番 58020-6441-1

**注意**

シャッタにはさまれるとケガをすることがあるので、もみ出口の中に手を入れないこと。



M-3676

⑲品番 52166-2119-2

**注意**

1. 転落のおそれがあるので補助デッキには乗らないこと。
2. 移動するときは、人に当たってケガをさせるおそれがあるので、補助デッキを必ず収納すること。

必ず読んで
ください。

②①品番 53981-6434-1



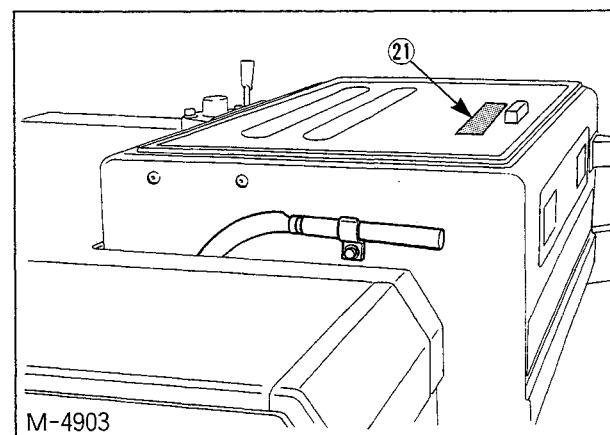
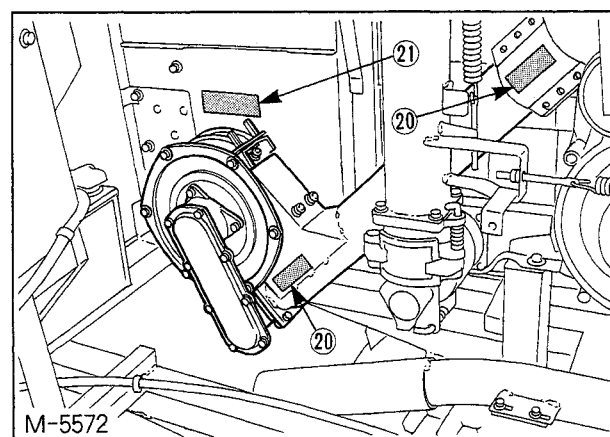
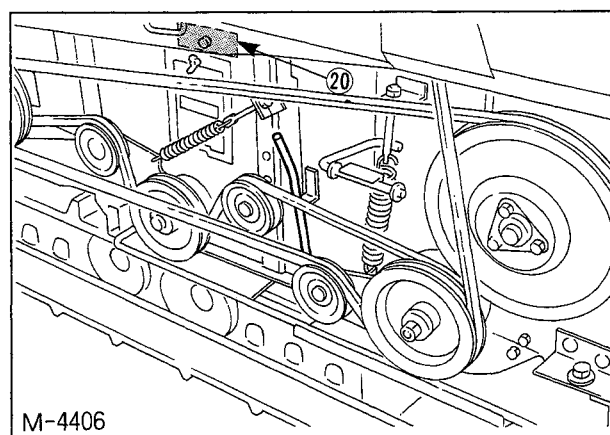
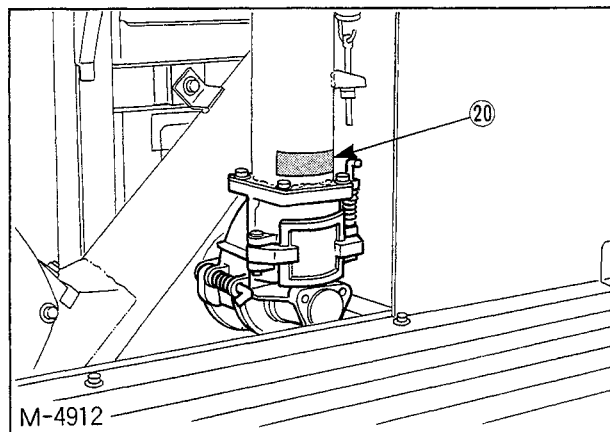
掃 除 口

中に回転物がありケガをするので、
清掃時はエンジンを必ず止めること。
清掃後はフタを必ず閉じること。

②①品番 53690-3129-2

注 意

中に回転物がありケガをする
おそれがあるので、運転中は
絶対に手を入れないこと。



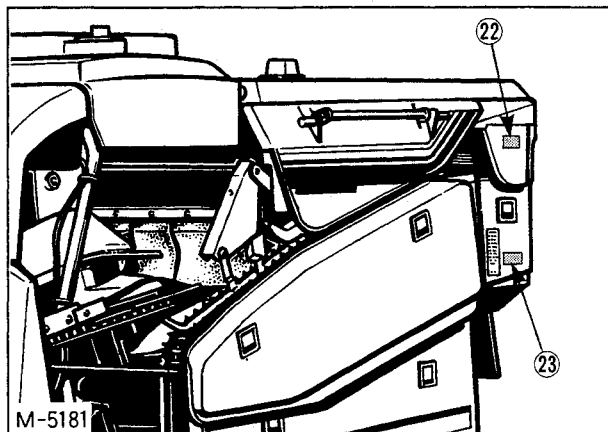
安全に作業するために

②品番 53981-6188-2

警告

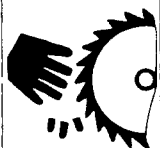


1. カバーの中に回転物がありケガをするので手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付や詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。



③品番 57745-5314-2

警告



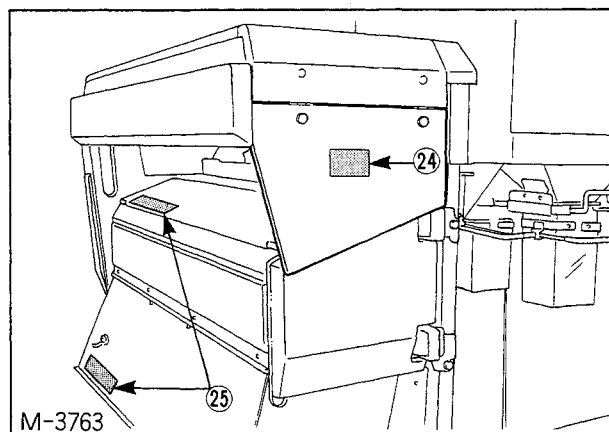
1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. チェーン・ベルトに接触すると、手をケガするので、手を絶対に入れないこと。
3. カッタ開閉時はエンジンを必ず止めること。
4. カッタをオープンしたまま運転しないこと。
5. 点検・調整、ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときはエンジンを必ず止めること。
6. 点検・調整などが終わったら、カバーを元通りに必ず取り付けること。

必ず読んで
ください。

②4品番 53981-6191-1

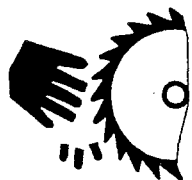
▲警告

1. カッタの刃に接触すると手・指を切断するおそれがあるので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。
3. カッタ作業時は、カバーを必ず閉じること。

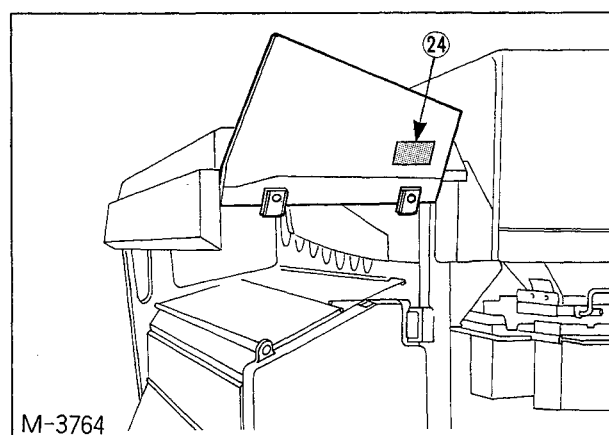


M-3763

②5品番 57745-5315-3

▲警告

1. このカバーの中は刃物が回転しており危険なので、手を絶対に入れないこと。
2. ワラ・雑草などの巻付きや詰りを取除くときは、エンジンを必ず止めること。

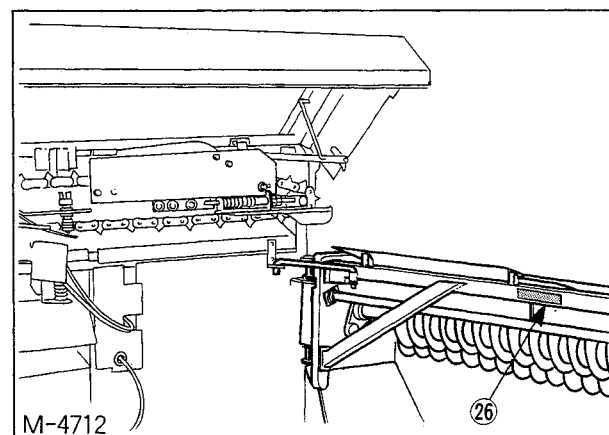


M-3764

②6品番 57745-5124-1

▲注意

1. カッタをオープンしたら、不用意な動きを防ぐため規制金具で確実にロックすること。
2. カッタの刃に触れると手・指を切るので、巻付きや詰りを取除くとき刃に絶対触れないこと。



M-4712

3. ▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは、いつもきれいにしておいて傷つけないようにしてください。

もしラベルが汚れている場合は、石鹼水で洗い、やわらかい布で拭いてください。

(2)破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼替えてください。

(3)ラベルが貼付けされている部品を新品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

(4)新しいラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。

サービスと保証について

この製品には、サービスブックが添付してありますので使用前によくご覧ください。

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げいただいた販売店・JA農協・弊社支店又は(株)クボタアグリにそれぞれ“ご相談窓口”を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際 (1)商品名と車台番号

(2)搭載機関の型式名と機関番号

を併せてご連絡ください。

なお、部品ご注文の際は、販売店・JA農協・弊社支店又は(株)クボタアグリに純正部品表を準備しておりますので、そちらで相談ください。

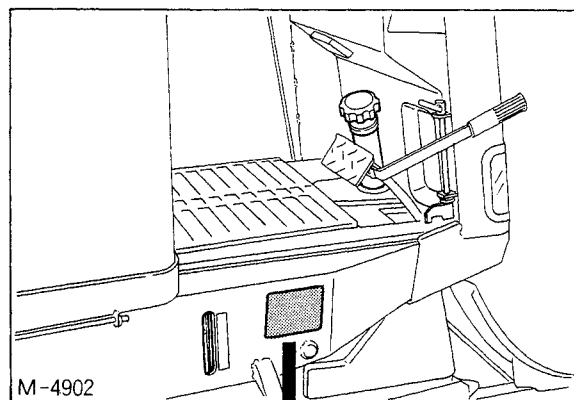
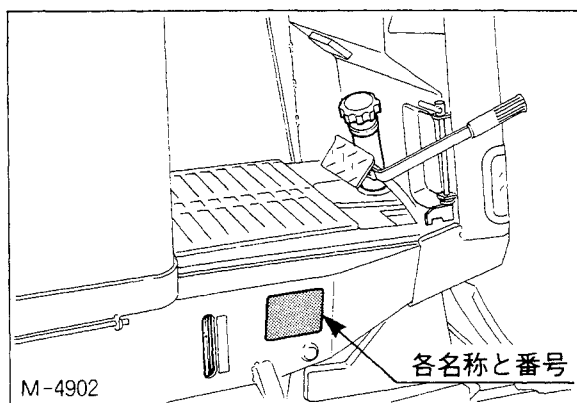


警告

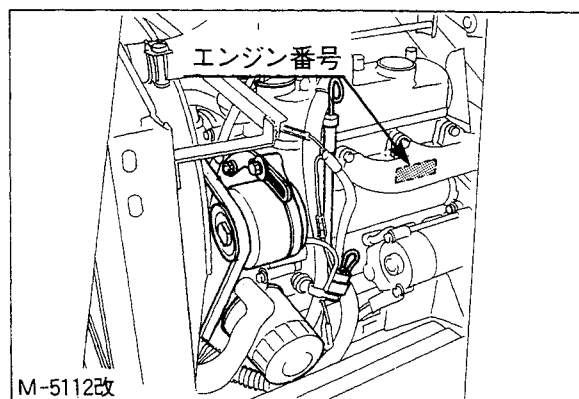
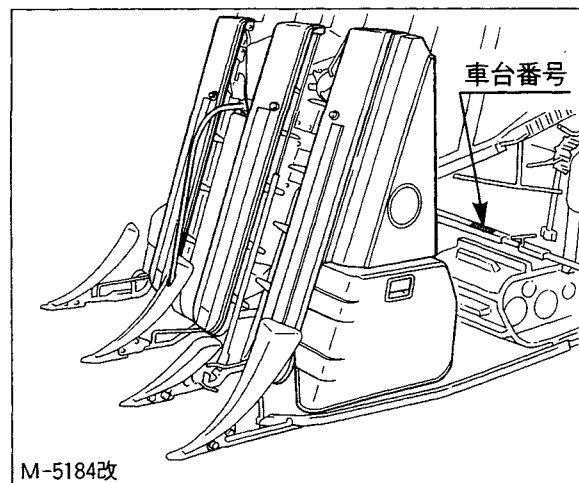
*機械の改造は危険ですので、改造しないでください。
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

◆認定番号

商品名	農機型式名	安全鑑定番号
R ₁ -211A	クボタ R9001	1408018

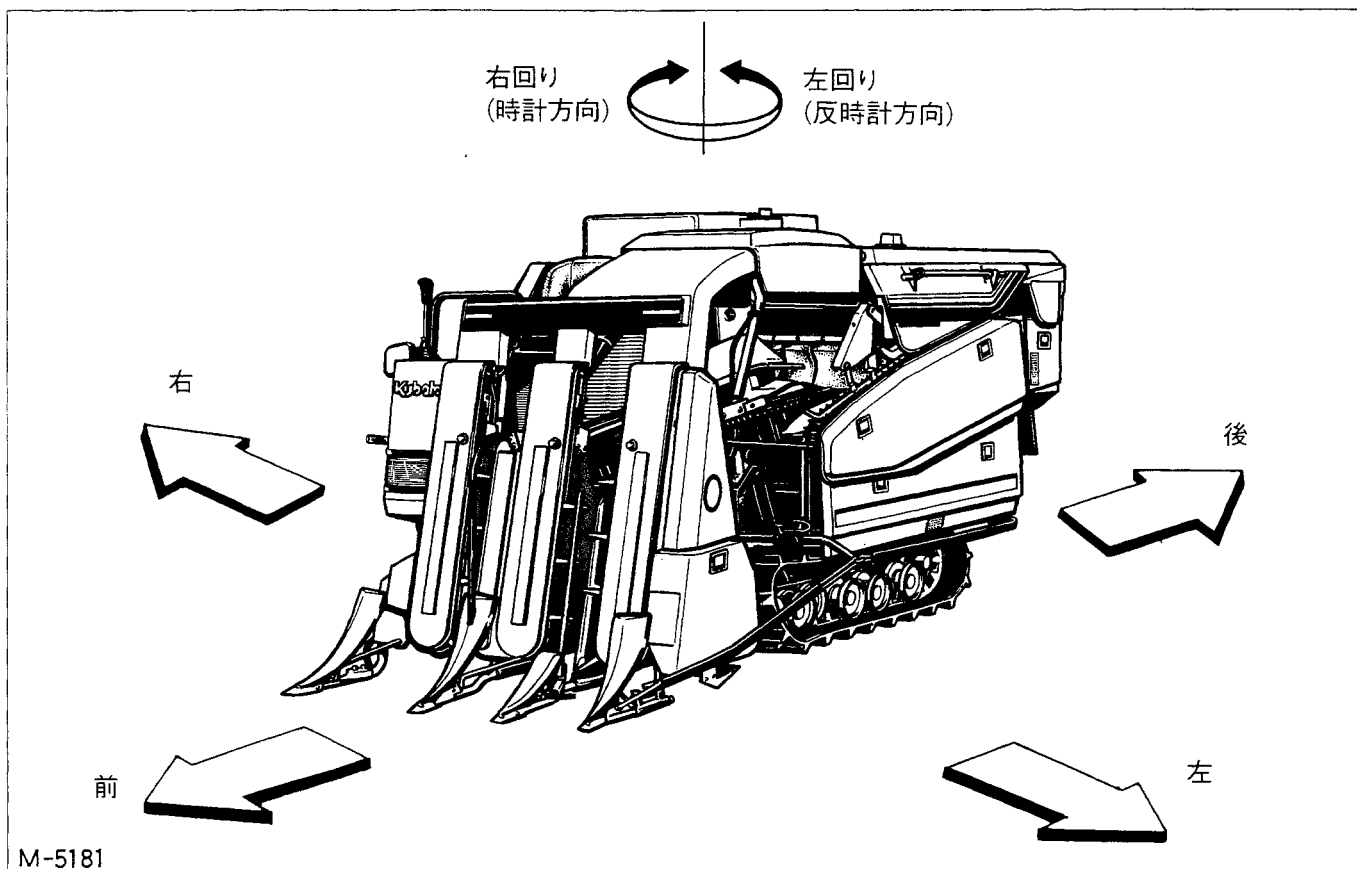


農業機械の種類	コンバイン(自脱型)
農機型式名	●●●●●
農機品名	
農機区分	
車両型式名	●●●●●
車台番号	
刈取条数	●●●
型式名	
機関番号	
最大出力	●●●●●●●●
最速高度	●●●●●
製造元	株式会社クボタ



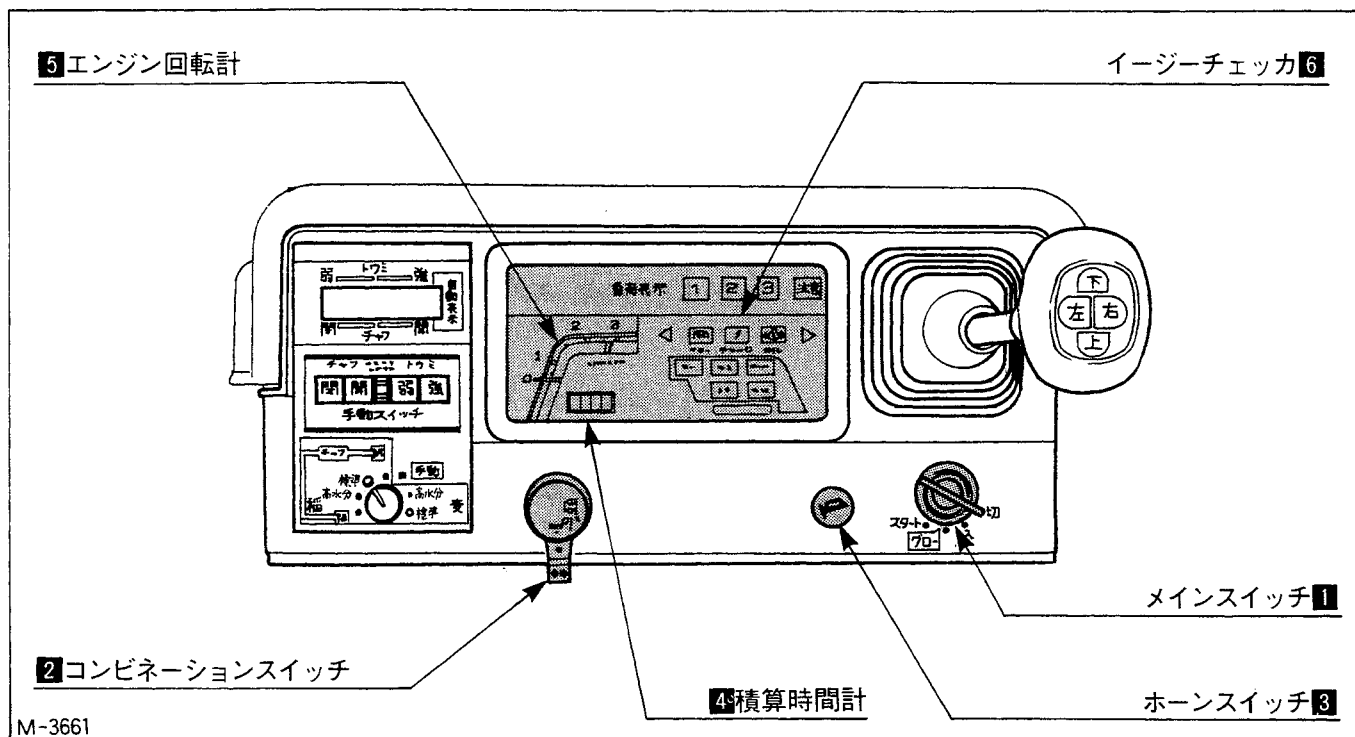
■機体方向説明

この取扱説明書で使用している(前後・左右・左回り・右回り)などの方向は、図示の通りに決めています。



装置の知識について

スイッチとメータ



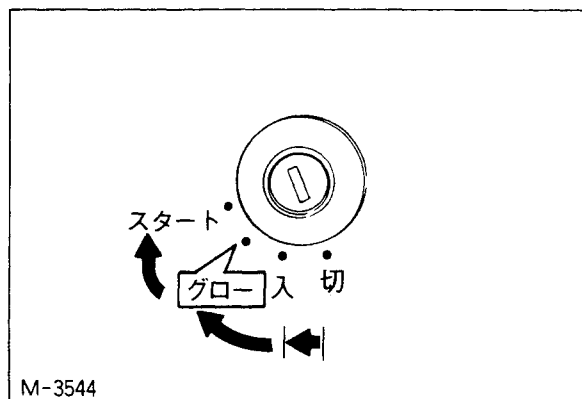
1 メインスイッチ

切……………キーが抜き差しできる位置。

入……………エンジン回転中の位置。

グロー……………燃焼室内が予熱される位置。

スタート……………走行クラッチペダルを踏込んで、エンジンを始動する位置。



M-3544

2 コンビネーションスイッチ

◆ライトスイッチ

OFF ……………ヘッドライト・作業灯消灯位置。

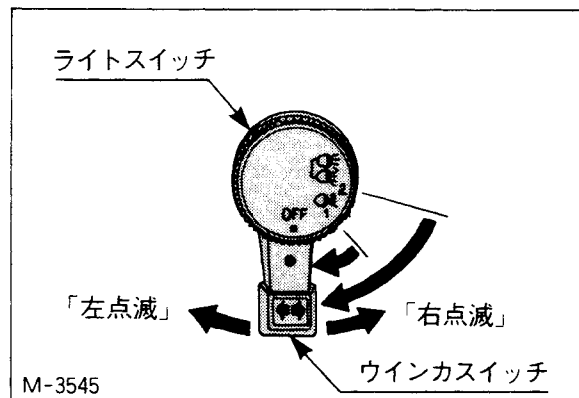
① ≦ 1 ……………ヘッドライトのみ点灯。

① ≦ 2 } ……………ヘッドライト・作業灯点灯。

◆ウインカスイッチ (方向指示器)

(1) 旋回方向に操作すると、ウインカランプおよびメータパネル内のパイロットランプが点滅します。

(2) 旋回が終わったら、スイッチを中央に戻しましょう。



M-3545

3 ホーンスイッチ

メインスイッチを「入」の位置にし、ホーンスイッチを押すとホーンが鳴ります。

モミ警報中にホーンスイッチを押す(0.5秒以上)と、ホーン(断続)は停止します。

4 積算時間計(アワーメータ)

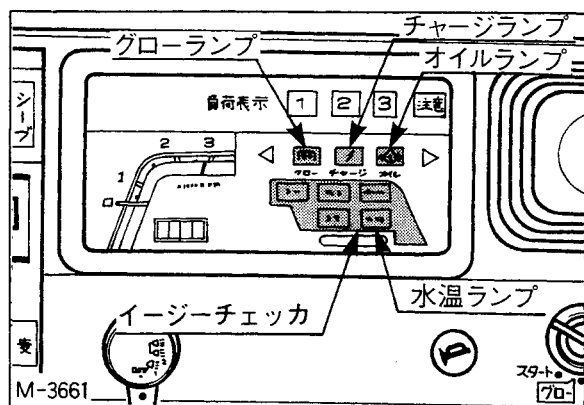
エンジンを定格回転で使用した場合の積算時間を示します。

白わく内の数字を6倍すると「分」単位の時間となります。
[例] 0012 4 ……12時間24分

5 エンジン回転計

1分間のエンジン回転数を示します。

6 イージーチェッカ



オイルランプ

エンジン回転中、潤滑系統が異常のとき点灯する油圧警告灯です。

エンジン停止中にメインスイッチを「入」にすると点灯し、始動すると消灯します。

点灯したままのときは、エンジンオイル量を点検してください。

チャージランプ

エンジン回転中、充電系統が異常のとき点灯する充電警告灯です。

エンジン停止中にメインスイッチを「入」にすると点灯し、始動すると消灯します。

グローランプ

始動時、メインスイッチを「グロー」(予熱)にすると、グローランプが点灯します。約4秒たつと消灯しますので、メインスイッチを「スタート」にして始動してください。

モミ モミ警報ランプ

グレンホッパが満杯になったときランプが点滅し、ホーンが鳴ります。

2番 2番警報ランプ

2番口が詰まったとき点滅し、ホーンが鳴ります。

排ワラ 排ワラ警報ランプ(自動エンジン停止)

排ワラチェーンにワラが詰まったとき点滅します。

【結束機仕様の場合】

* 結束機の結節部にワラ・ひもが巻きついたときとひもがないときに点滅します。

水温 水温ランプ

エンジン冷却水が高温になったとき点滅します。

チェッカ 自己診断警報ランプ

マイコンが自動装置の異常を検出すると点滅します。

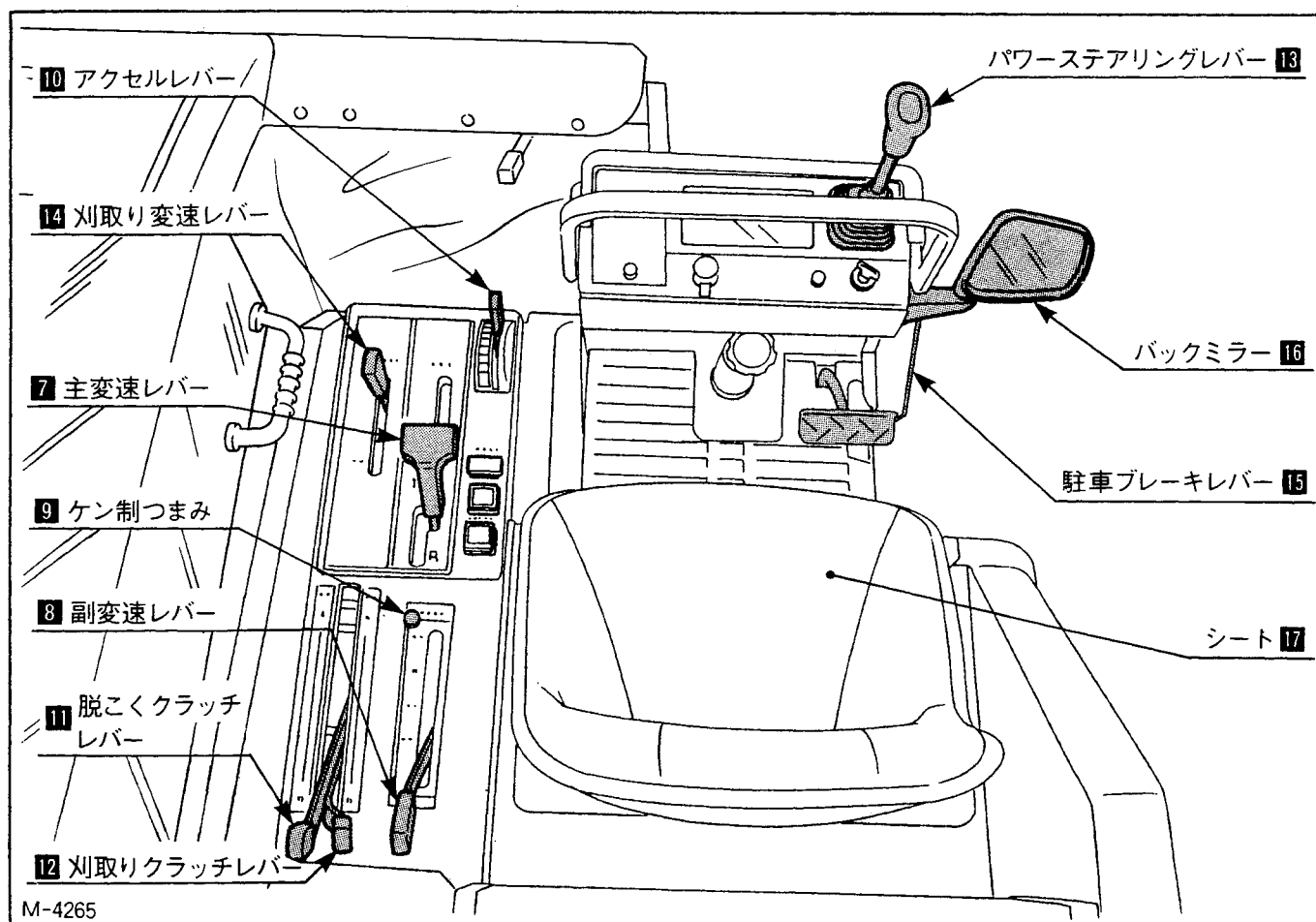
◆使用方法

- (1) エンジン停止中にメインスイッチを「入」にすると全てのランプが点灯し、検知箇所に異常がなければ消灯します。ただし、オイルランプ・チャージランプは点灯したままです。エンジンを始動すると消灯します。
- (2) エンジン回転中に検知箇所に異常があればランプが点灯し異常を知らせます。

補 足

* イージーチェッカのみで日常点検を済ませないで、点検は確実に行ってください。

運転装置



7 主変速レバー

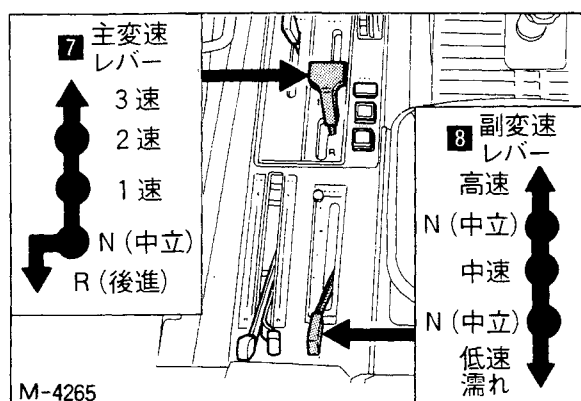
8 副変速レバー

2本のレバー操作を組み合わせることにより、前進9段・後進3段の車速が得られます。



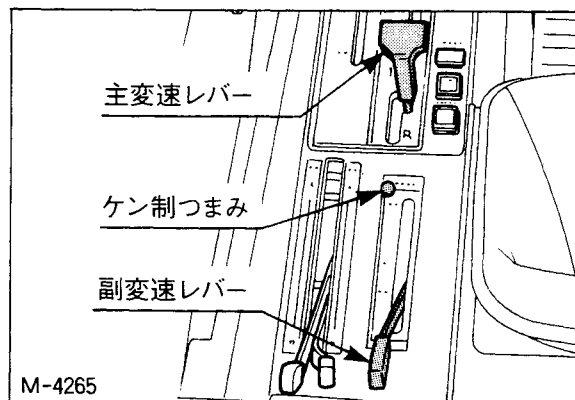
注意

*副変速レバーの切換えは、必ず走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでから、行なってください。



9 ケン制つまみ

副変速レバーが高速のとき、主変速レバーを「R」(後進)に入れると、副変速レバーが「高速」から「中立」になるケン制構造になっています。この「ケン制」を解除して「R」(後進)に入れると、速い速度で後進しますので注意してください。

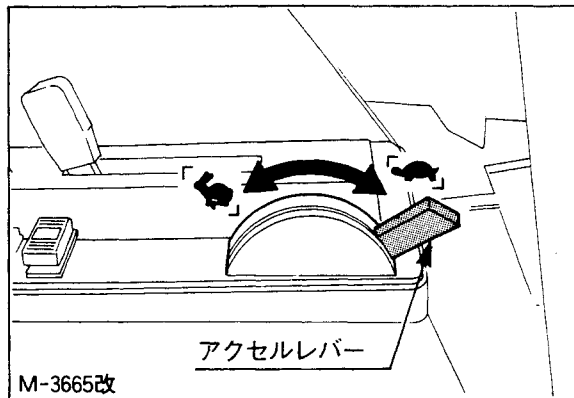


10 アクセルレバー

エンジンの回転数を変えるレバーです。

●……エンジンアイドリング時の位置。

●……作業中の位置。



11 脱こくクラッチレバー

脱こく部駆動切換えレバーです。

「入」……脱こく部が駆動します。

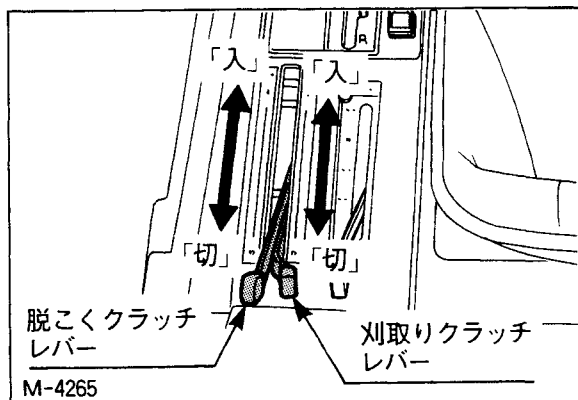
「切」……脱こく部が停止します。

12 刈取りクラッチレバー

刈取り部駆動切換えレバーです。

「入」……刈取り部が駆動します。

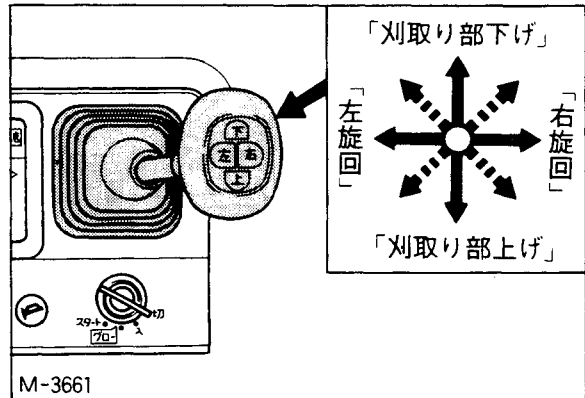
「切」……刈取り部が停止します。



13 パワーステアリングレバー

レバー1本で刈取り部の上げ下げと方向修正・旋回ができます。

(1)レバーを前・後に操作すると、刈取り部の上げ下げができます。

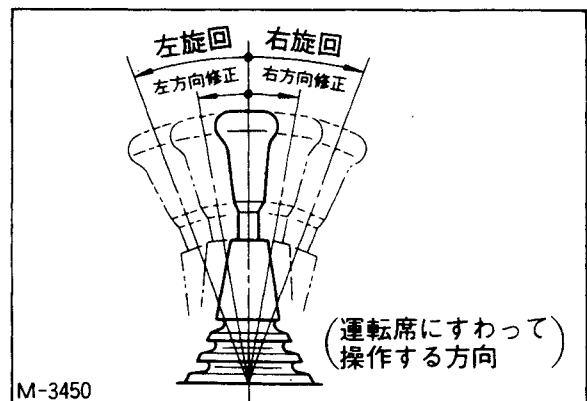


(2)レバーを左・右に操作すると、方向修正から旋回までできます。

レバーの倒し量に応じて、ブレーキ力が変わりますので、ゆるやかな方向修正からコーナ旋回まで、条件に合わせて操作してください。

*ゆるやかな方向修正……左・右に軽く倒します。

*コーナ旋回……左・右に一杯倒します。

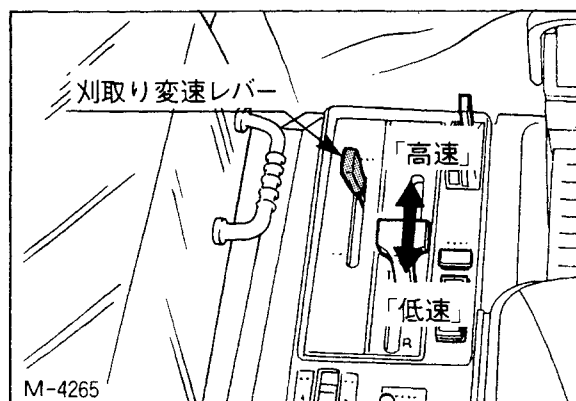


(3)レバーを斜方向に操作すると、刈取り部の上げ下げと方向修正・旋回が同時に行なえます。

14刈取り変速レバー

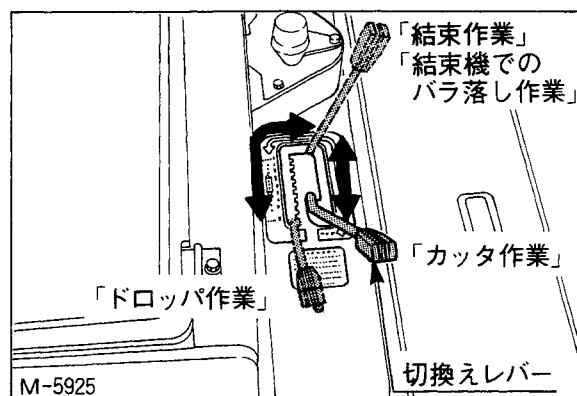
刈取り速度を調節するレバーです。
下記の表を参考に使分けしてください。

レバー位置	条 件
低 速	副変速「低」で作業するとき
高 速	副変速「中」で作業するとき



■ワラ作業切換えレバー

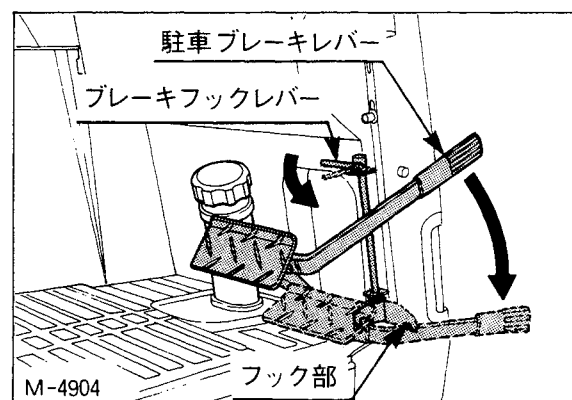
レバー操作により、カッタ↔バラ落しの切換えができます。



15駐車ブレーキ

駐車ブレーキをかける場合、ブレーキレバーを下げ、ブレーキフックレバーを外側に回し、駐車ブレーキをフック部に引っ掛けてください。駐車ブレーキがかかります。

駐車ブレーキを解除する場合、駐車ブレーキレバーを上げてください。自動的に解除されます。

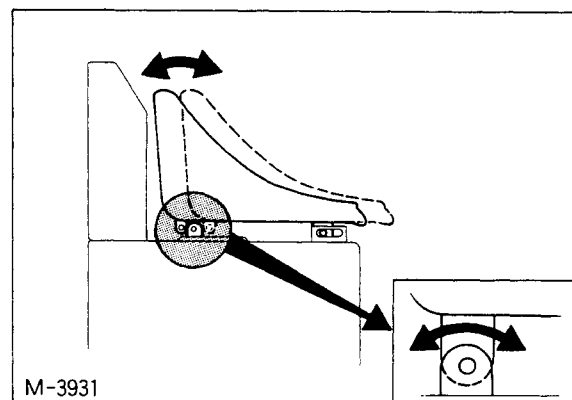


16バックミラー

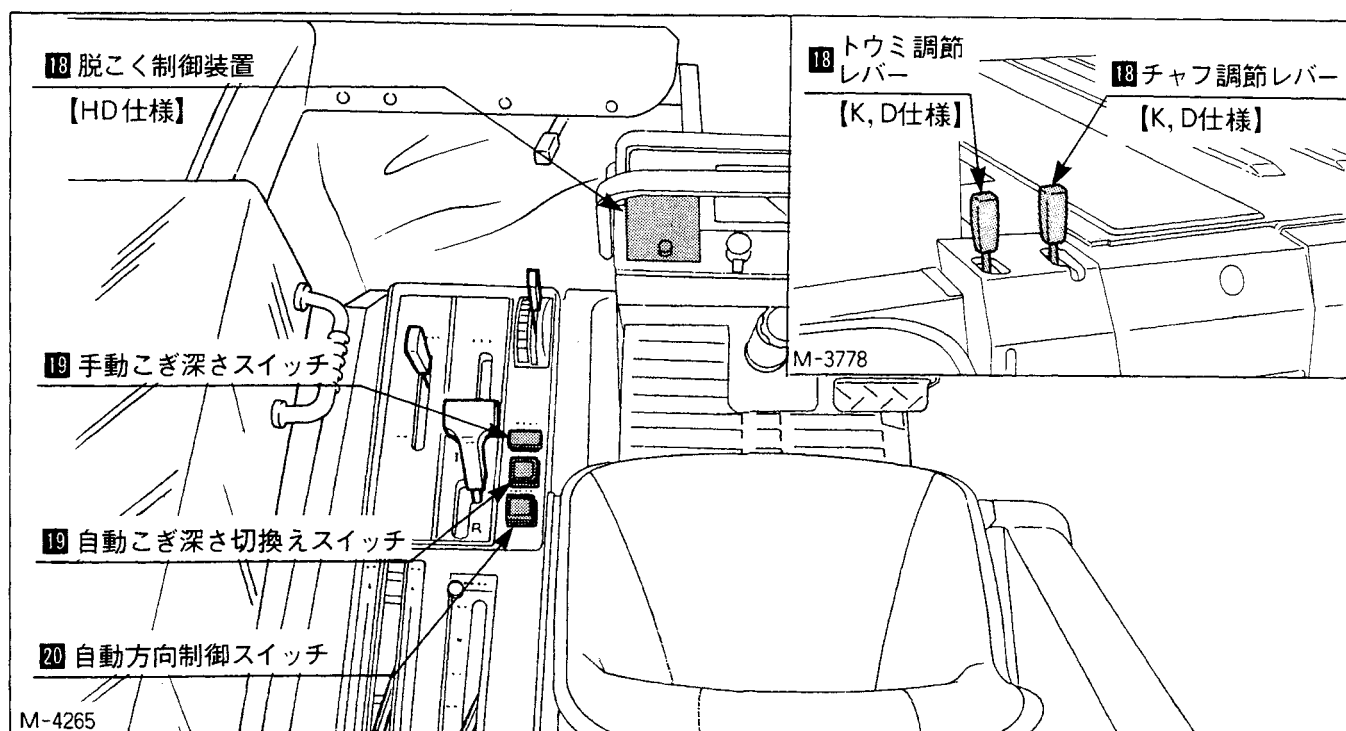
後方視野が十分に確認できる位置に調整してください。

17シート

シート後部を持上げ、「前」又は「後」に移動します。



自動装置



■自動装置装着一覧表

機種区分	K	D	HD	HD-V
自動装置				
自動エンジン停止・警報	○	○	○	○
集中注油装置	△	△	△	△
脱こく制御装置	—	—	○	○
自動こぎ深さ制御装置	○	○	○	○
自動方向制御装置	—	○	○	○
ホッパ自動シャッタ装置	△	○	○	△

○……………標準採用(自動)

△……………標準採用(手動)

—……………なし

■自動エンジン停止・警報

◆自動エンジン停止

排ワラ搬送チェーン部・カッタ部にワラが詰まったり、結束機の結節部にワラ・ひもが巻付いたとき、自動的にエンジンが停止する装置です。

◆作業負荷表示

【D, HD仕様】

作業負荷ランプによって、脱こく部の負荷状態を数字で示しています。

数字が大きくなる程、脱こく機に大きな負荷がかかっていることを示します。

負荷ランプによって適正な車速を選択してください。

*負荷ランプによる車速選択法

段階	負荷ランプ・ホーン	変速指示
1	1	加速可能
2	1 2	加速可能
3	1 2 3	適正速度
4	1 2 3 注意	減速必要
5	1 2 3 注意, 点滅, ホーン断続	即時減速

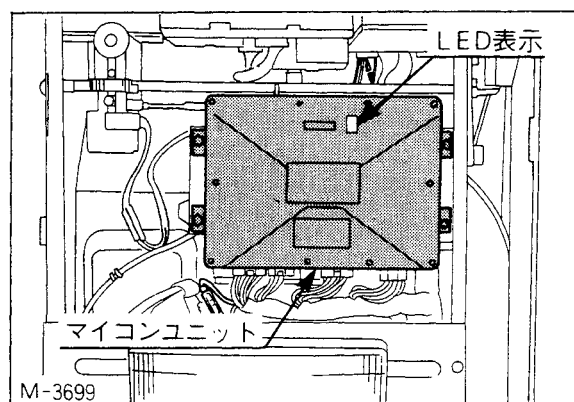
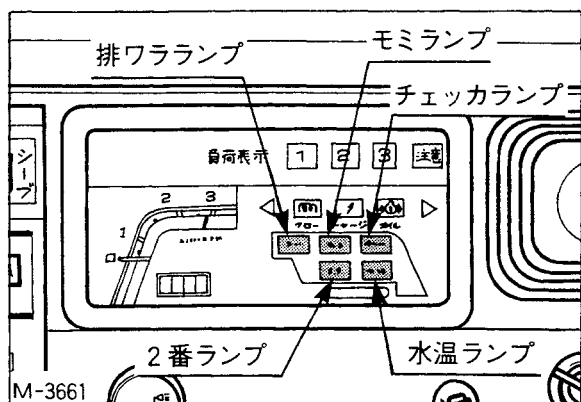
【K仕様】

K仕様には負荷表示はありません。

イージーチェッカが点滅せずに、ホーン断続音が鳴った場合は、脱こく機に大きな負荷がかかっていますので、即時減速してください。

◆警報

点滅ランプ	ホーン又はバックブザー	異常の内容	処置
モミランプ	—	ホoppa自動シャッタが閉じています。	もみ袋を交換してください。
モミランプ	モミブザー断続	ホoppaが満杯です。	刈取りを中止してもみ袋を交換してください。
2番ランプ	ホーン断続	2番処理ケースが詰まっています。	エンジンを停止して、2番処理ケースを掃除してください。
排ワラランプ	ホーン断続	●排ワラ搬送が詰まっています。 ●結束機の「ひも」切れです。 ●結束機の結節部にワラ・ひもが巻付いています。	エンジンは自動で停止します。排ワラ詰まりを除去してください。結束機に「ひも」をセットしてください。
水温ランプ	ホーン断続	エンジンがオーバーヒートしている。	刈取りを中止して◆冷却水の補給(42ページ)の要領で処置します。
チェッカランプ	ホーン断続	雑草・浮きワラが発生しています。	雑草・浮きワラを除去してください。
こぎ深さ自動ランプ	—	—	—
チェッカランプ	—	このランプが点灯したときは、フロントカバーを外し、マイコンユニットのLED表示窓から下の表の数字にそれぞれ処置してください。	—



◆自己診断警報

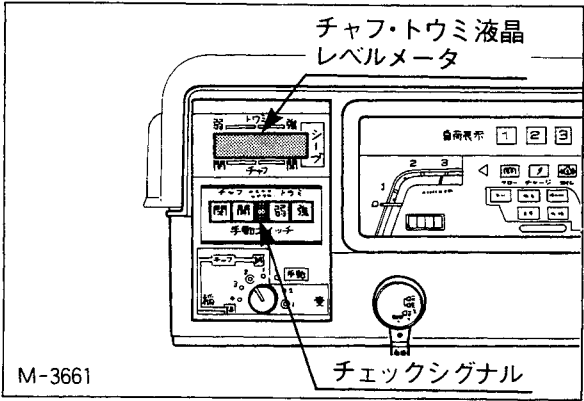
(チェッカランプ点滅時、マイコンのLED表示はセルフチェックの内容により、下表のようになります。)

LED表示	表示	異常の内容	処置
E・1	こぎ深さ自動ランプ点滅	こぎ深さ制御中にこぎ深さセンサ(株元側)が「OFF」でこぎ深さセンサ(穂先側)が「ON」になっています。	雑草・浮きワラなどを除去してください。
E・4	—	2番回転数を正常に計測しているとき、エンジン回転数を計測していない。(ダイナモ信号の不良)	ダイナモの交換,あるいはエンジン回転系統ハーネスの点検。(販売店で行なってもらってください)
E・7	—	2番回転数を異常に高く計測している。(2番回転センサ信号不良)	2番回転センサの交換,あるいは2番回転系統ハーネスの点検。
E・9	—	エンジン回転数を異常に高く計測している。(ダイナモ信号不良)	ダイナモの交換,あるいはエンジン回転系統ハーネスの点検。(販売店で行なってもらってください)
E・A	—	燃料カットソレノイド「ON」が10秒以上継続しています。	マイコンユニットの交換。
正常時には、PとP.を交互に表示します。			

◆脱こく制御の自己診断警報【HD仕様】

チェックシグナルが赤色を点滅し、ブザーが鳴り、チャフ・トウミ液晶レベルメータに以下のように表示されている場合は、お買い求めの販売店又は農協にこの表示をご連絡ください。

表 示 内 容		処 置
ワラVRエラー		ワラ厚さ検出ボリューム,あるいはその系統のハーネス・コネクタをチェックしてください。
チャフVRエラー		チャフ検出ボリューム,あるいはその系統のハーネス・コネクタをチェックしてください。
トウミVRエラー		トウミ検出ボリューム,あるいはその系統のハーネス・コネクタをチェックしてください。
モータロック!!	交互に表示	チャフモータ・チャフ検出ボリューム,あるいはその系統のハーネス・コネクタをチェックしてください。
チャフ		
モータロック!!	交互に表示	トウミモータ・トウミ検出ボリューム,あるいはその系統のハーネス・コネクタをチェックしてください。
トウミ		
モータロック!!	交互に表示	トウミモータ・チャフモータ・トウミ検出ボリューム・チャフ検出ボリューム,あるいはその系統のハーネス・コネクタをチェックしてください。
トウミ,チャフ		
チェックシグナルが赤色連続点灯し,「マイコンダメ」と表示。		脱こく制御マイコンユニットを交換してください。
液晶表示無し。 チェックシグナルが赤色点滅する。		脱こく制御マイコンユニットを交換してください。
正常時には,チェックシグナルは緑色を点滅し,チャフ・トウミ液晶レベルメータがトウミ風力の強弱とチャフの開度を表示します。		

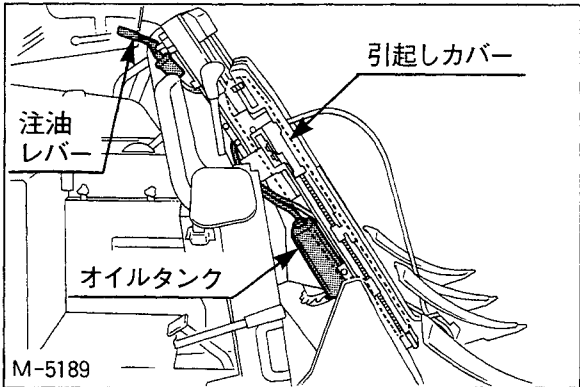


■集中注油装置

注油レバーの操作により、各作動部に一度に注油できます。毎日の作業前に刈取り部を中速回転しながら、注油レバーを3～4回動かして注油してください。なお、オイルタンクの油量も確認してください。

●注油箇所

- 左引起しチェーン 前搬送チェーン左
 - 中引起しチェーン 前搬送チェーン右
 - 右引起しチェーン 刈刃 3 カ所
- その他の部分は、油差しで注油してください。



重 要

- * オイルはディーゼルエンジン用オイルD30又はD10W30を使用してください。(オイル量約 1 ℓ)
- * ゴミの混入は、ノズルの詰まりの原因になりますので注意してください。
- * 気温が10℃以下になると均等に注油されなくなります。寒い地域では、気温の上る昼間に注油してください。

18脱こく制御装置

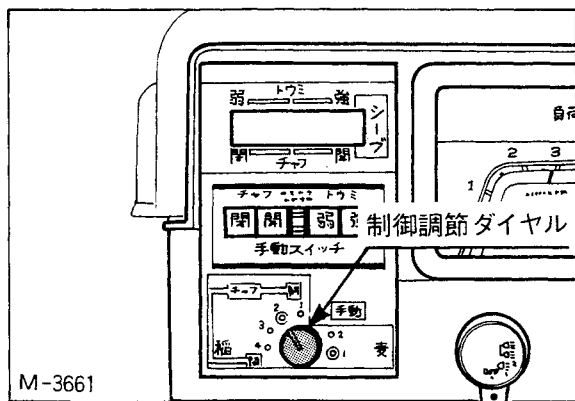
●自動脱こく制御の特長

- (1)車速に応じて適正に脱こく部を調節します。
- (2)回行時にも速やかに反応して、安定した制御をします。
- (3)チャフとトウミの微調節ができますので、作物条件の変化に対しても最適な制御ができます。

◆切換えスイッチ【HD仕様】

「自動」……作物により、制御調節ダイヤルを「稲」「麦」の範囲に位置しているときは、自動になり、液晶レベルメータ内の◆が点滅します。

「手動」……制御調節ダイヤルを「手動」の位置にしたときは、液晶レベルメータ内の◆が消えます。



◆操作のしかた【HD仕様】

- ①作物により、制御調節ダイヤルを「稲」「麦」位置にセットしてください。
制御調節ダイヤルは、通常「稲2」・「麦1」の位置にセットし、作物条件により制御調節ダイヤルを切換えてください。
- ②この状態で制御は作動します。
- ③作物条件により、「稲」「麦」の自動範囲内で微調節ができます。
「稲」……4段階
「麦」……3段階

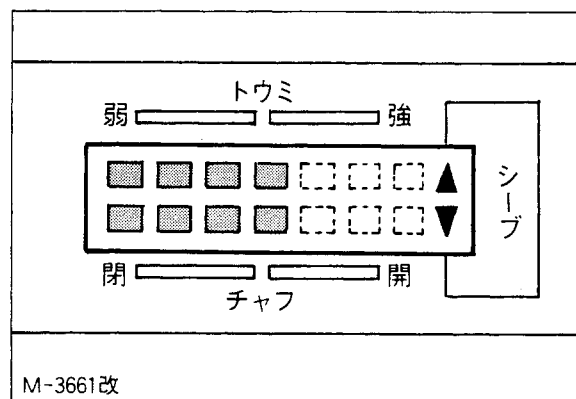
ただし、制御調節ダイヤルは2段階。
制御調節ダイヤルが「麦1」で、脱こくジャンパの抜差しにより微調節ができます。

◆手動操作について【HD仕様】

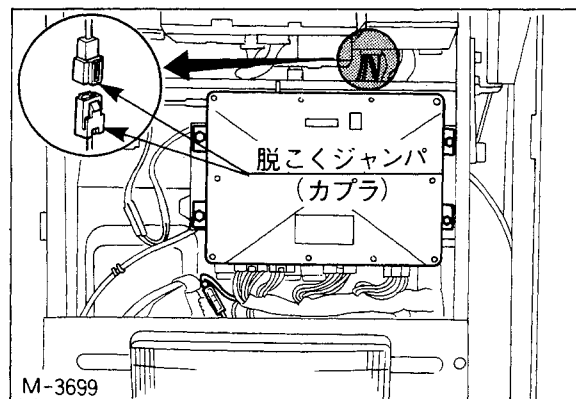
- ①制御調節ダイヤルを「手動」にセットすると、手動スイッチによりトウミ・チャフとも任意に動かさ、液晶レベルメータにより動き量が表示されます。
- ②メインスイッチが「入」になっていないと動きません。
- ③チャフは「開」になるほど高ボリューム・高水分に適応して動きます。

◆使用上の注意事項【HD仕様】

- (1)チャフとトウミの位置は、メータパネルのチャフ・トウミ液晶レベルメータに表示されます。
- (2)「自動」の場合、非刈取り中はチャフは「閉」、トウミは「弱」の一定位置に表示され、チャフの開度に応じて液晶レベルが点灯します。トウミの強さに応じて液晶レベルが点灯します。
- (3)「手動」の場合、操作を誤ると詰まりなど故障の原因になりますので、「手動」にする場合は液晶レベルをチャフ・トウミ共、レベルメータのトウミは「弱」から、チャフは「閉」から4つ目に位置させ、作物条件に応じて液晶レベルを1つずつ調節するようにしてください。



- (4)麦の刈取り時、切ワラが多いときは下図の脱こくジャンパ(カブラ)をつなぎ、制御調節ダイヤルを「麦1」にしてください。ただし、ジャンパの抜差しは必ずメインスイッチを「切」にして行なってください。



◆自動脱こく制御の使い方【HD仕様】

*作物条件に対する標準的脱こく調節の位置及び範囲(一般的な標準作物生育状態及びば場条件の場合)

制御調節ダイヤル	稲				麦	
	高ボリューム↔低ボリューム 高水分↔低水分				高ボリューム↔低ボリューム 高水分↔低水分	
	稲 4	稲 3	稲 2	稲 1	麦 2	麦 1
調節の目安	● 稈が濡れているとき。 (朝露, 雨上り) ● 脱ぶを少なくしたいとき。 ● 機外飛散粒を少なくしたいとき。	● 収量の多いとき。 (10俵/反以上) ● やや濡れているとき。	● 収量 8～9 俵/反の標準的な稲。	● 収量の少ない乾燥している稲。 ● 枝梗を少なくしたいとき。	● 含水分の高いふくらんだ麦。 ● 機外飛散粒を少なくしたいとき。	● 標準的な麦。 ● 小麦で切ワラを少なくしたいとき。

補 足 *上記以外の調節範囲は調節しないでください。調節すると、選別が悪くなったり、脱こく内部に詰まりが発生することがあります。

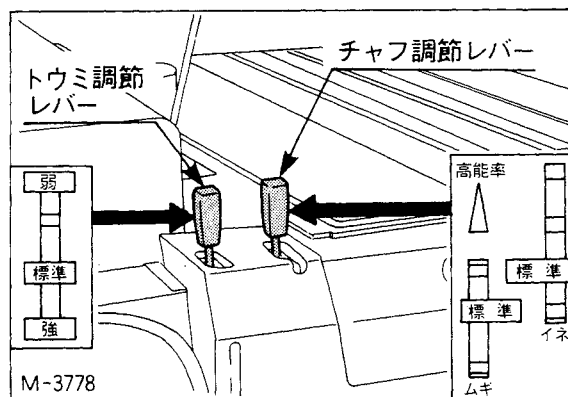
◆シーブモニタ

シーブモニタは、シーブケース上の作物量(層の厚さ)を5段階で感知して、チャフ・トウミの調節を補正するものです。

下記の表示のときは、表に基づいて処置してください。

シーブモニタ	処 置
「シーブチュウイ」と表示したとき	作業速度を減速する。
「シーブケイハウ」とホーン断続音(5回)	刈取りを中止して、シーブケースの上を掃除し、そのあと脱こく機を空運転して機内のワラくずを排出する。

◆手動調節の使い方【K, D仕様】



「トウミ調節」……標準位置にセットしています。

	調節位置	調節の目安
稲, 麦	「強」側へ	● 選別を良くしたいとき。
作業	「弱」側へ	● モミの飛散が多いとき。

「チャフ調節」……標準位置にセットしています。

	調節位置	調節の目安
稲作業	「高能率」側へ	● 高速で刈るとき。 ● 高水分モミを刈るとき。 ● モミの損傷が多く出るとき。
	「高能率」の反対側へ	● 枝梗、穂切れが多く発生するとき。
麦作業	「高能率」側へ	● 高速で刈るとき。 ● ビール麦で芽がとれるとき。
	「高能率」の反対側へ	● 切れワラが多く混入するとき。

19 自動こぎ深さ制御装置

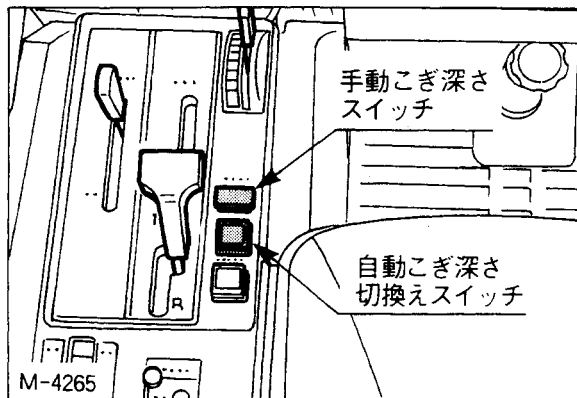
●自動こぎ深さ制御の特長

- 刈取り作業中、株元センサが作物に接触するときこぎ深さ制御が作動し、自動的に最適なこぎ深さに調節する装置です。

◆自動こぎ深さ切換えスイッチ

「自動」……スイッチを押すとロックされ、自動ランプが点灯し自動こぎ深さ制御が作動します。

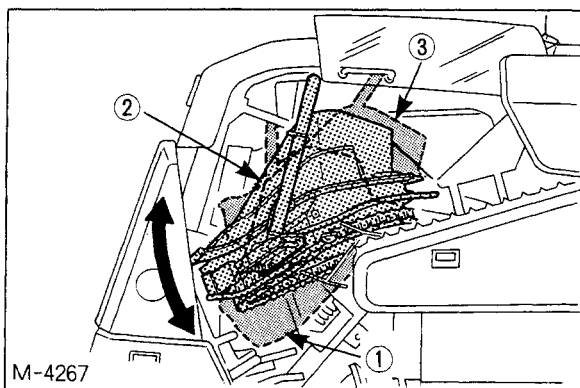
「手動」……スイッチを再び押すとロックが外れ、自動ランプが消灯し、自動こぎ深さ制御が解除されます。



◆操作のしかた

- ① エンジンを始動し、回転を合せ脱こくクラッチレバーを「入」にします。
- ② 自動こぎ深さ切換えスイッチを押して、緑色ランプの点灯を確認します。
- ③ この装置は手動優先構造になっています。刈始める前に作物の長さを見て手動こぎ深さ操作装置で下図の位置に合わせてください。

- 作物の長さ80cm以下 ……①の位置
- 作物の長さ80～100cm ……②の位置
- 作物の長さ100cm以上 ……③の位置



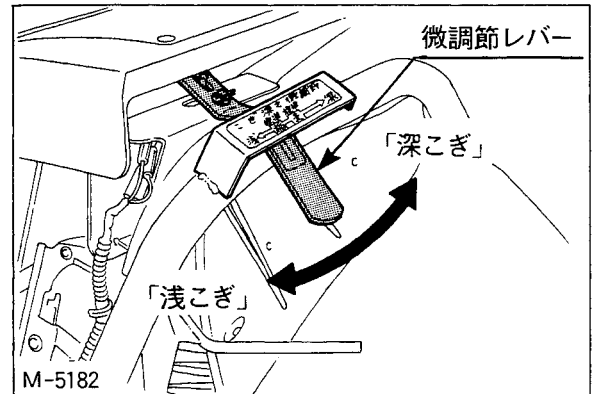
- ④ 刈始めると適切なこぎ深さに制御されます。

注意

＊走行クラッチペダル「切」、主変速「N」(中立)及び「R」(後進)では自動は作動しません。

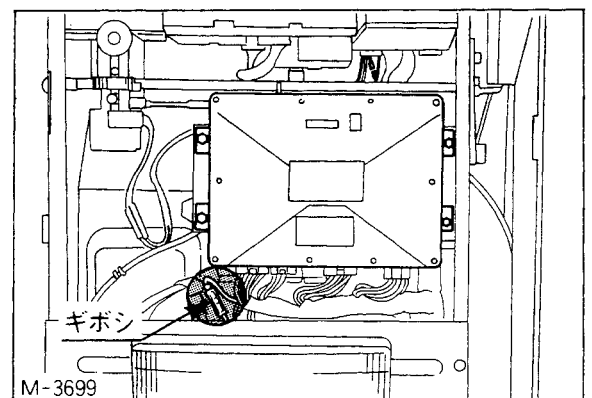
◆センサ調節のしかた

はじめに微調節レバーの白線を稲標準位置(又は麦標準位置)にセットして作業し、脱こく部入口の「▼マーク」に穂先が合っているか確認してください。合っていないときは、微調節レバーで調節してください。



◆使用上の注意事項

- (1) 自動制御を使用中にセンサにワラ、雑草などがからんで5秒以上供給部が浅こぎ側に作動すると、ブザーが5秒間断続音で鳴り、その間、供給部の作動を停止します。取除いて正常に戻してください。
- (2) あぜぎわの刈取り作業は、遅れ穂が多く、自動ではこぎ残しがでるおそれがあるので、自動を「切」ってください。
- (3) 遅れ穂の多い場合、雑草の多い場合、軟弱稲で搬送が乱れる場合などは、自動を「切」にしてください。
- (4) 脱こく入口に常時、ワラくず、雑草がたまって誤作動する場合も自動を「切」って作業してください。
- (5) 結束機使用時、結束ひもの位置がこぎ深さ調節により頻繁に変化するときは、下図のギボシを抜いてください。制御速度が遅くなり、株の揃いが良くなります。



- (6) 操作パネル、センサ、モータなどには、水をかけないように注意してください。

20自動方向制御装置【D, HD仕様】

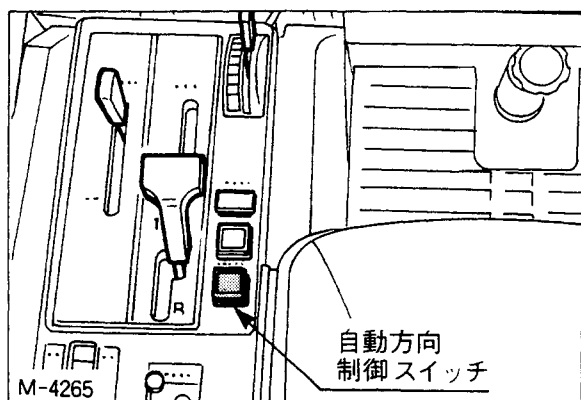
●自動方向制御の特長

- 刈取り作業中、方向センサが作物に接触すると感知し、自動的に方向制御しながら刈取り作業できる装置です。

◆自動方向制御スイッチ

「自動」……スイッチを押すとロックされ、自動ランプが点灯し自動方向制御が作動します。

「手動」……スイッチを再び押すとロックが外れ、自動ランプが消灯し、自動方向制御が解除されます。



◆操作のしかた

- ①脱こくレバーを「入」にします。(方向自動制御は刈取り作業中のみ作動します。)
- ②自動方向制御スイッチを押して「自動」にし、自動ランプの点灯を確認します。
- ③刈始めて、株元センサが作物に接触すると、自動制御が作動します。

補 足

*刈始めの条合せ及びあぜぎわ刈りは「手動」で行なってください。

◆使用上の注意事項

- (1)パワーステアリングレバーは、自動に優先して操向されます。
- (2)自動方向制御スイッチ「自動」のまま横刈りをした場合は、刈始めの3～4秒間は自動制御により機体が振れますが、それ以降は自動制御を停止し、直進します。

■ホッパ自動シャッタ装置【D, HD仕様】

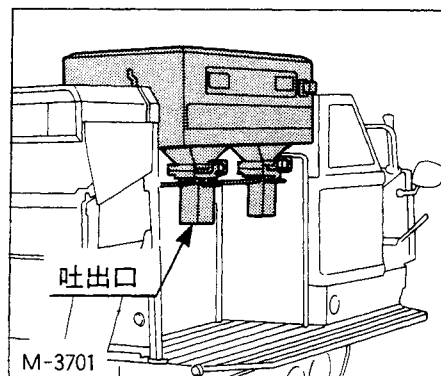
●ホッパ自動シャッタの特長

- もみ袋がいっぱいになると、シャッタは自動的に順次閉まり、もみの流出を防ぐ装置です。



注 意

*吐出口内に手を入れないでください。
シャッタが閉まりケガをします。

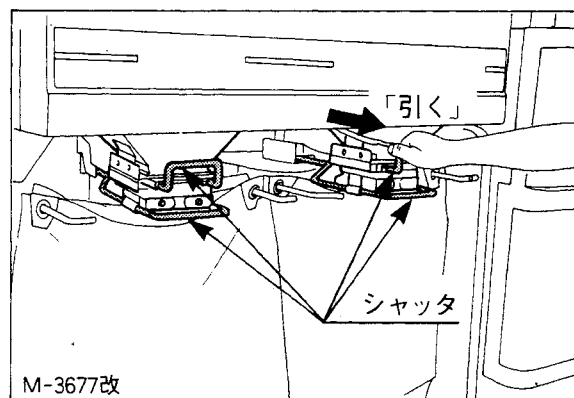


警 告

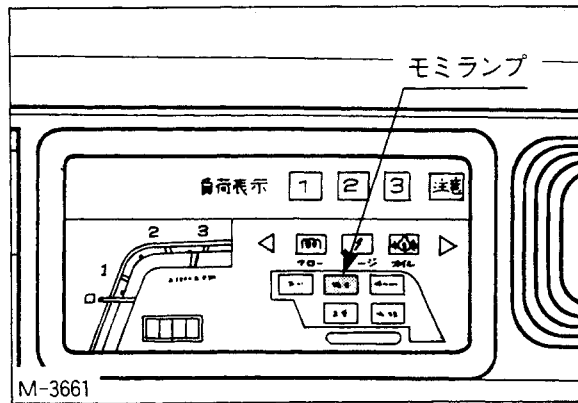
◆操作のしかた

手前2個の吐出口に自動シャッタがついています。
(奥側2個は手動シャッタです)

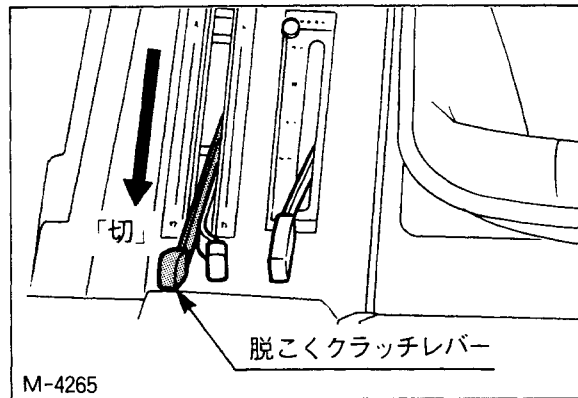
- ①各シャッタを矢印の方向に「ロック」位置まで引き、吐出口を開いてください。



- ② グレンホッパ下部のもみ袋がいっぱいになると2個のシャッタが自動的に閉まりイージーチェッカの「モミ」ランプが点滅します。



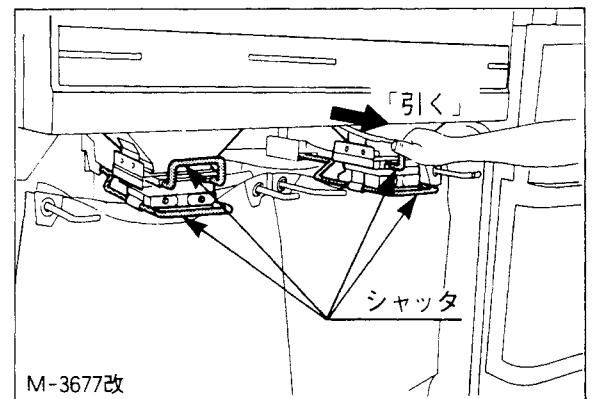
- ③ そのまま作業を続けるとグレンホッパが満ぱいになり、警報ブザーが断続して鳴ります。直ちに刈取り作業を中止し、袋を交換してください。



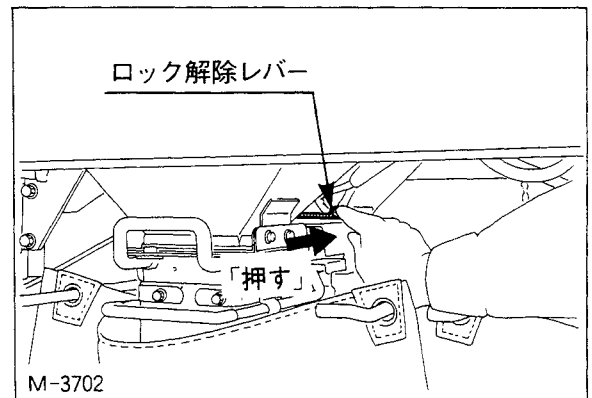
補 足

- * 警報ブザーが鳴った後も刈取り作業を続けると、モミがあふれたり詰まったりして故障の原因となります。
- ④ シャッタが閉まっていることを確認してからグレンホッパ下部のもみ袋を取出してください。

- ⑤ 各吐出口の下に次のもみ袋を取付けてシャッタを開き、グレンホッパ内のモミを取出してください。



- ⑥ もみ袋がいっぱいになって、モミの流出が止まればロック解除レバーを押して、シャッタを閉じてください。



- ⑦ 取出した吐出口に次のもみ袋を取付けてシャッタを開き、作業を再開してください。

コンバイン使用前の点検について

点検は、作業前欠かさず行なってください。



注 意

* 火気厳禁。

* 点検をするときは、必ずエンジンを停止してから行なってください。

* 運転中及び停止直後は、ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹出してヤケドすることがあります。

* エンジンカバーを開けて点検・整備するときは、次の手順に従ってください。

① エンジン停止後30分以上経過して開ける。

② 点検・整備で内部に触れるときは、ヤケドの危険性がないことを確認してください。

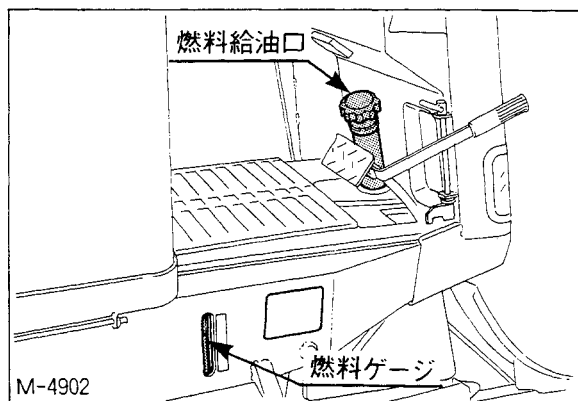
重 要

* 燃料・オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。

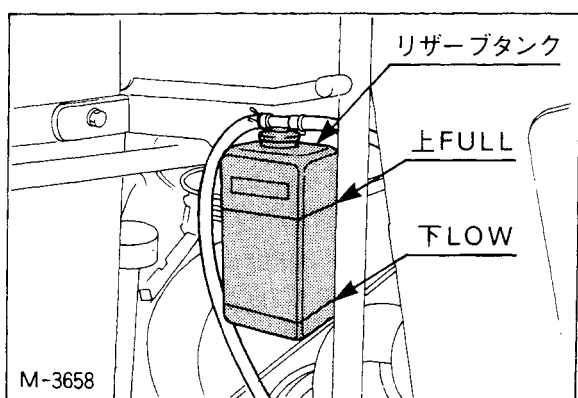
* エンジン・マフラ・脱こく機及びカッタ結束機のベルトカバー内、バッテリーにワラくずがたまっていると火災の原因になることがあります。時々点検をして取除いてください。

<ここを>		<こうする>
燃料タンク	● 作業に必要な燃料があるか。	● クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油を補給する。(容量：17ℓ)
エンジンオイル	● オイルゲージの上下刻線の間に油量があれば良い。	● 補給する。 クボタ純オイル(ディーゼルエンジン用) 15℃以下：D10W30(オールシーズン用) 15℃以上：D30又はD10W30
冷却水 (42ページ参照)	● リザーブタンクに適量あるか。 (必ずFULLとLOWの間にあること)	● 不足していれば清水を適量補給する。 (FULL以上には入れないこと)
ランプ	● 前照灯、ウインカランプ、作業灯がスイッチ「ON」で点灯するか。	● 球切れ、ヒューズ切れ、配線の外れを調べ、処置する。 ● その他の場合は、販売店へ相談してください。
ホーン	● ホーンボタンを押せば鳴るか。	● ヒューズ切れ、配線の外れを調べ、処置する。 ● その他の場合は、販売店へ相談してください。
エンジンを始動 ンして イー ジー チェッカ	● オイルランプ、チャージランプは消灯するか。 ● 回転計は正常に作動するか。	● エンジンオイルを補給する。 ● 充電する。 ● 異常箇所を調べ、処置する。
ナンバプレート 反射器	● 汚れはないか。 ● 確実に取付けてあるか。	● 掃除する。 ● 締付けなどの処置をする。
バックブザー	● 主変速レバーを後進位置にしたとき、バックブザーが鳴るか。	● ヒューズ切れ、配線の外れを調べ、処置する。 ● その他の場合は、販売店へ相談してください。
防じん網の清掃	● 防じん網の目詰まりはないか。 ● ラジエータフィンの目詰まりはないか。	● ブラシで、清掃してください。 ● ラジエータフィンは、水道水又は、圧縮空気ですべて清掃してください。
マフラ排気管	● 高温部にワラがたまっていないか。 ● 排気口が泥で詰まっていないか。	● ワラを取除く。 ● 詰まった泥を取除く。

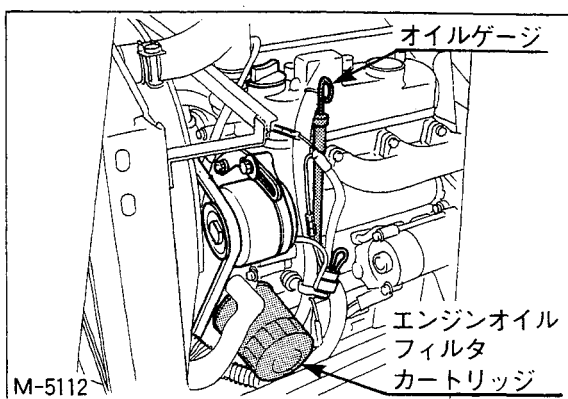
■燃料の点検



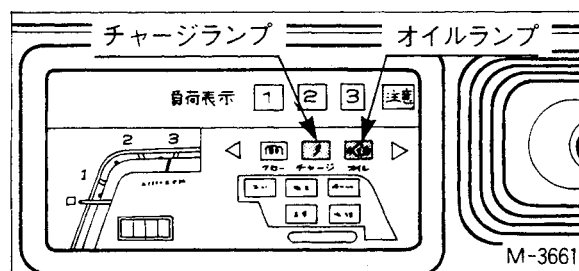
■冷却水の点検



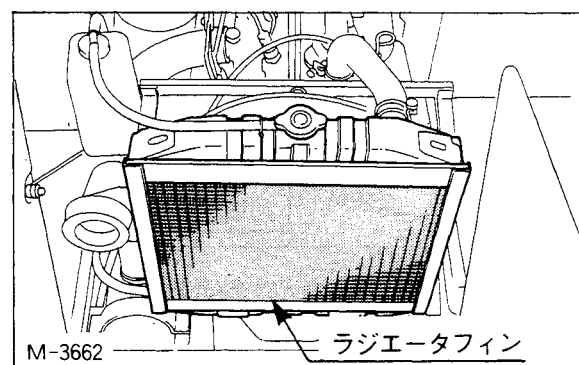
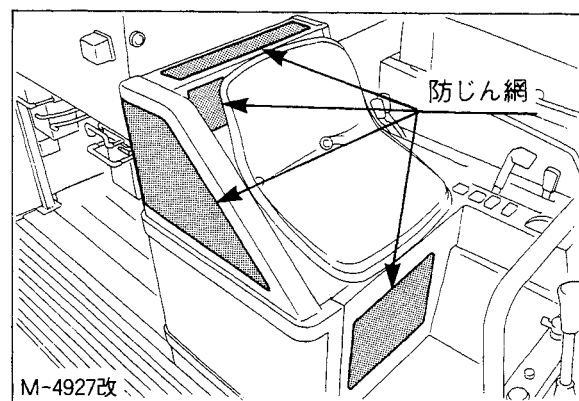
■エンジンオイル、エンジンオイルフィルタカートリッジの点検



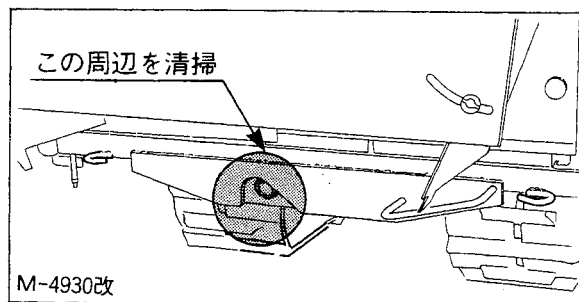
■イージーチェッカの点検



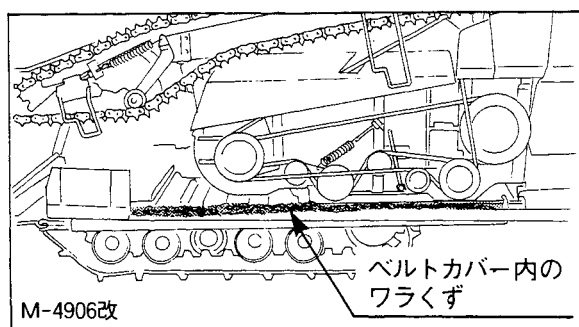
■防じん網、ラジエータフィンの点検



■マフラ排気管の清掃



■ベルトカバー内の清掃



上手な運転のしかた

エンジンの始動と停止について

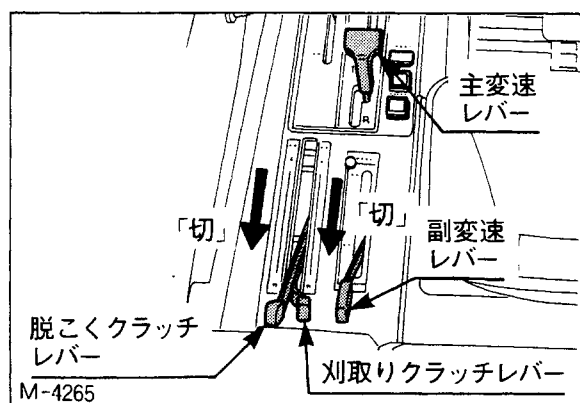


注意

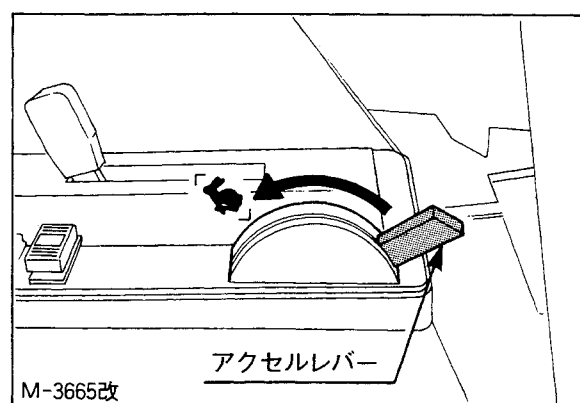
- * 始動操作は、運転席で行なってください。
- * 周囲の人に合図をしてから始動してください。
- * 各クラッチレバーを「切」にして始動してください。

■始動のしかた

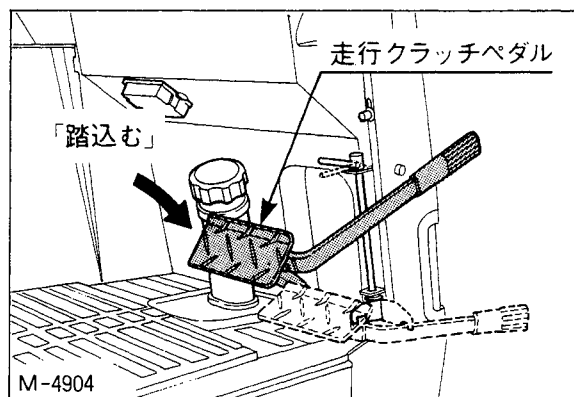
- ① 主変速レバーを「N」(中立)にします。
- ② 刈取りクラッチレバー、脱こくクラッチレバーを「切」の位置にします。



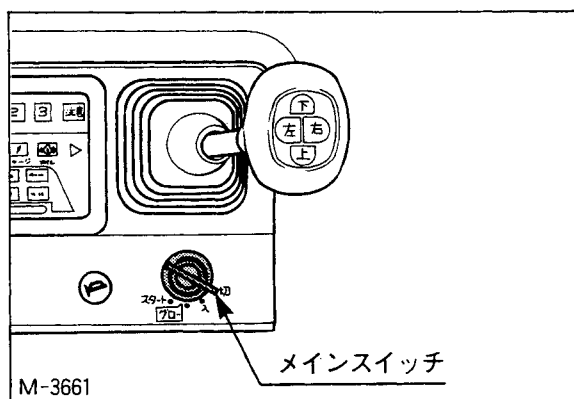
- ③ アクセルレバーを「」の方へあげます。



- ④ 走行クラッチペダルを踏込みます。



- ⑤ 周囲の人に始動の合図を送り、安全を確認します。
- ⑥ メインスイッチを「グロー」まで回し、イージーチェッカのグローランプが消えるまで(約4秒)待ちます。但し、外気温が -5°C 以下のときは、グローランプ消灯後も約5秒間予熱してください。
- ⑦ グローランプが消えれば「スタート」までメインスイッチを回す。エンジンが始動すれば、キーから手を放してください。



重要

- * 走行クラッチペダルを踏込まないと、安全スイッチが作動してエンジンは始動しません。
- * アクセルレバーを「」の方へあげてエンジンを始動してください。
- * メインスイッチを「スタート」にし、セルモータを回して10秒たっても始動しないときは、いったんメインスイッチを切って、30秒ほど休止してから、エンジンを再始動してください。セルモータを15秒以上回すのは故障の原因になります。

■暖機運転のしかた

始動後、約3分間は負荷をかけずに暖機運転をしてください。オイルを各部に十分ゆきわたらせるため、始動してからすぐ負荷をかけると、運転部分の焼付きや破損など故障の原因になりますのでご注意ください。



注意

*暖機運転中は必ず平地で駐車ブレーキをかけて、主変速・副変速レバーを「N」(中立)にして行なってください。

◆寒冷時の暖機運転とミッションオイルについて

このコンバインは油圧変速・油圧走行クラッチが採用されております。

特に寒冷地では、気温が下って冷えると粘度が高くなって始動時に油圧の立上がりが遅かったり、正常な圧力が得られなかったりすることがあります。

このようなことをなくすため、下表のとおり暖機運転してください。

これを怠ると油圧系統の故障を引起し、油圧クラッチの損傷、方向変換不能の状態になります。

(1)コンバインの始動時は必ず暖機運転を行なってください。

気 温	暖機運転時間
-10℃	約10分
-10℃～-15℃	10～15分
-15℃～-20℃	15～20分
-20℃以下	20分以上

(2)寒冷地域(-15℃以下)では下記のミッションオイルを使用していただくことをおすすめします。

暖機運転は10分程度で済みます。

このオイルはそのまま夏期にも使用できます。

メーカー名	オイル名
コスモ石油 日 本 石 油	クボタ純オイルUDT

(3)上記のミッションオイルを使用しても、気温が-20℃以下の場合は15分～20分の暖機運転を行なってください。

重 要

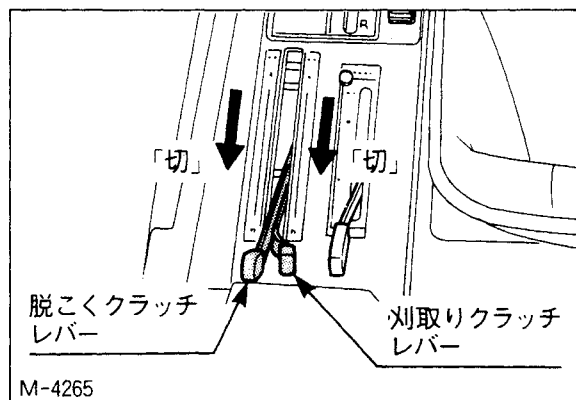
*エンジン回転を中間スピードに保ってください。

*もし、エンジン、トランスミッション潤滑油を暖める前にコンバインを操作すると、コンバインの寿命が短くなります。

*暖機運転は必ず平地で行なってください。

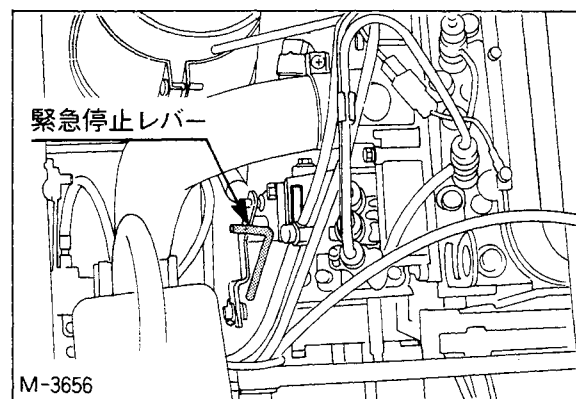
■停止のしかた

①脱こく、刈取りクラッチレバーを「切」にし、メインスイッチを「切」に戻してからキーを抜取ります。(メインスイッチを「切」にするだけでエンジンは停止します。)



M-4265

②電気系統が故障して、メインスイッチを「切」にしてもエンジンが止まらないときは、エンジンルームをオープンして緊急停止レバーを操作してください。



M-3656

補 足

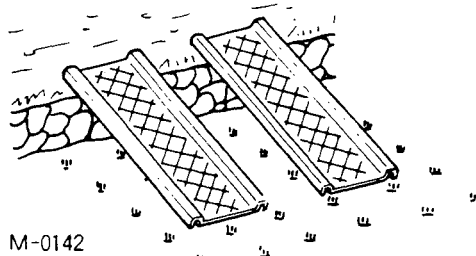
*停止後、メインスイッチを「入」で放置すると、電流が流れたままですので、「バッテリー上がり」の原因となります。

路上走行について



注意

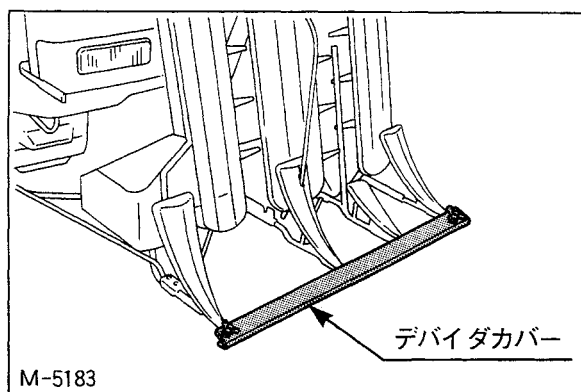
- * このコンバインは“道路運送車両法”により公道走行はできません。必ずトラックなどに乗せて移動してください。
- * 高速走行時、パワーステアリングレバーを強く操作すると急旋回して危険ですので、旋回時は低速に落としてからレバーを操作してください。
- * あぜの乗り越えは、もみ袋を降ろし、グレンホッパのモミを取出した状態で低速であぜに直角に進入してください。
10cm以上のあぜ、又はコンクリートの畦畔など段差のあるところでは、段差の4倍以上の長さですべり止めのある丈夫なユミ板を使用してください。
- * 踏切を渡る場合は、必ず一旦停止し、列車通過の有無を確認の上、速やかに渡ってください。



M-0142

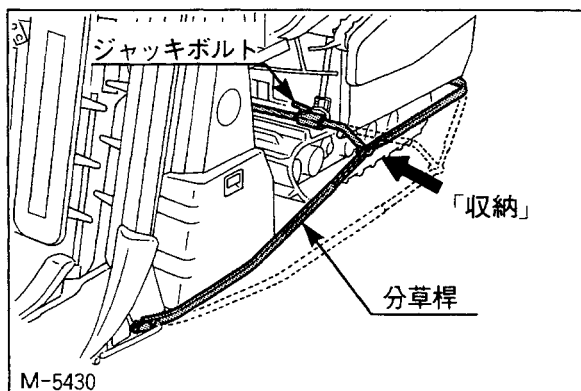
■走行のしかた

- ① デバイダカバーを取付けます。



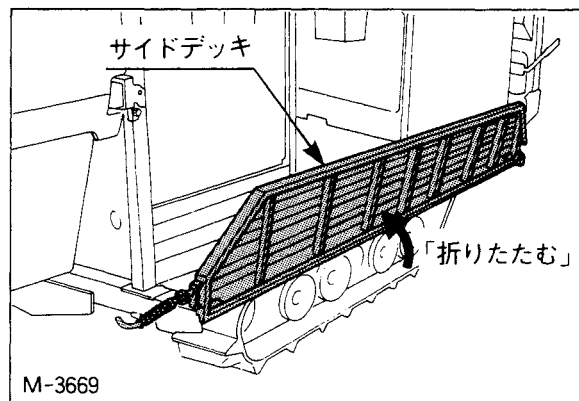
M-5183

- ② 分草桿を収納します。



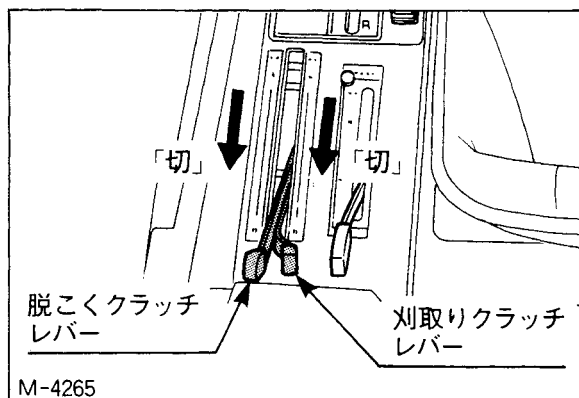
M-5430

- ③ サイドデッキを折りたたみます。



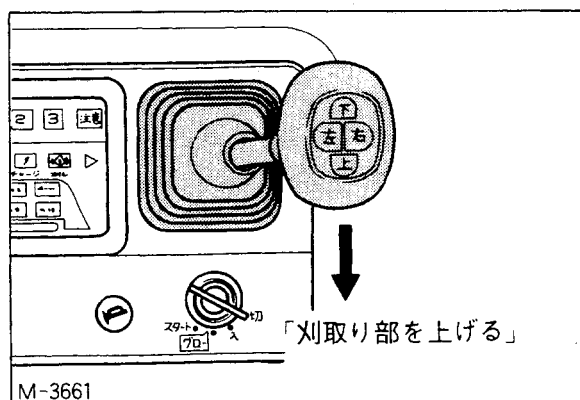
M-3669

- ④ バックミラー、方向指示器、ホーン、後写鏡、ヘッドランプなどが確実に「作用する」か点検してください。
- ⑤ 刈取りクラッチ、脱こくクラッチレバーを「切」にします。

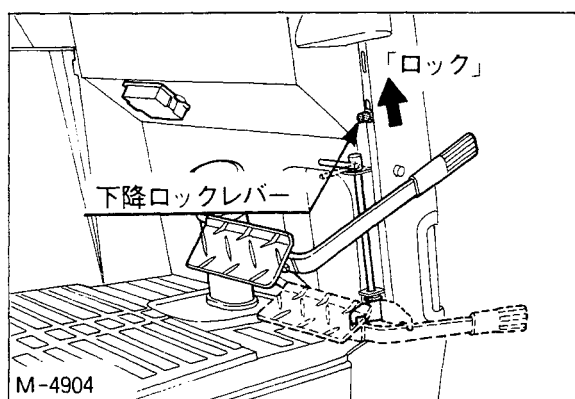


M-4265

- ⑥エンジンを始動します。
 ⑦パワーステアリングレバーで刈取り部を上げます。

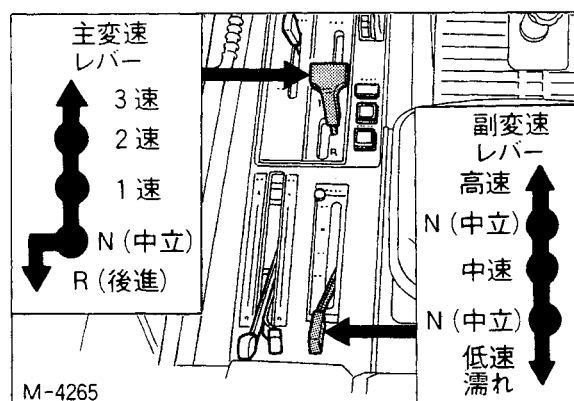
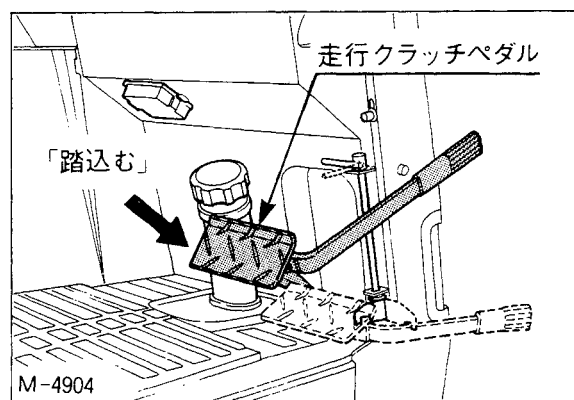


- ⑧パワーステアリングレバーの刈取り昇降をロックします。



- ⑨駐車ブレーキのロックを外します。

- ⑩走行クラッチペダルをいっぱい踏込み、副変速レバーで速度を選定します。



- ⑪主変速レバーを前に倒すと「前進」しますので1速から発進し、適切な速度で走行してください。後進は主変速レバーを後進側に倒すと「後進」します。

重要

- *砂利道での急旋回は、クローラに石がかみ、故障する恐れがあるので避けてください。
- *副変速レバーの切換えは、必ず走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでから、行なってください。
- *副変速レバーが高速のとき、主変速レバーを「R」(後進)に入れると、副変速レバーが「高速」から「中立」になるケン制構造になっています。この「ケン制」を解除して「R」(後進)に入れると、速い速度で後進しますので注意してください。
- *刈取り部は上げたまま長時間経過すると下降することがありますので注意してください。

停車について



注 意

- *コンバインを離れるときは、なるべく平坦な、安定した場所にコンバインを置き、刈取り部を降ろし、エンジンを止め、駐車ブレーキをロックしてください。
- *坂道で駐車するときは、駐車ブレーキをロックし、木片などで車止めをして、暴走を防止してください。

■停車のしかた

- ①主変速レバーを「N」(中立)にします。
- ②駐車ブレーキを「ロック」します。
- ③メインスイッチを「切」に戻し、エンジンを停止します。
- ④キーを抜きます。



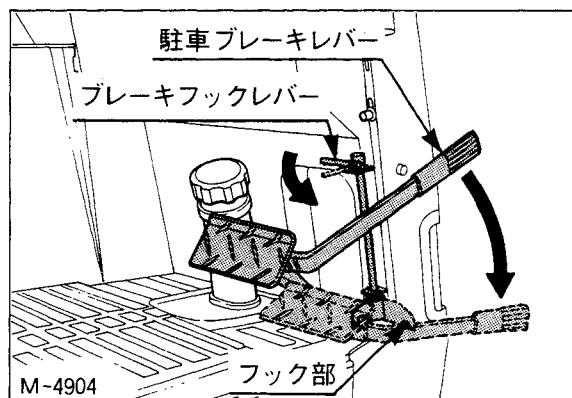
注 意

- *緊急停止を要するとき及び坂道で停車をするときは、走行クラッチペダルをいっぱい踏込んでください。ブレーキがかかります。坂道で走行クラッチペダルを離すと、ずり落ちることがありますので、注意してください。

◆駐車ブレーキ操作のしかた

駐車ブレーキをかける場合、ブレーキレバーを下げ、ブレーキフックレバーを外側に回し、駐車ブレーキをフック部にひっかけてください。駐車ブレーキがかかります。

駐車ブレーキを削除する場合、駐車ブレーキレバーを下げてください。自動的に解除されます。

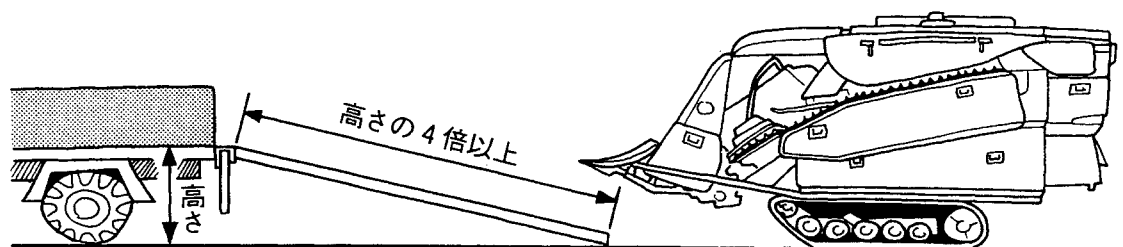


自動車への積降ろし



注 意

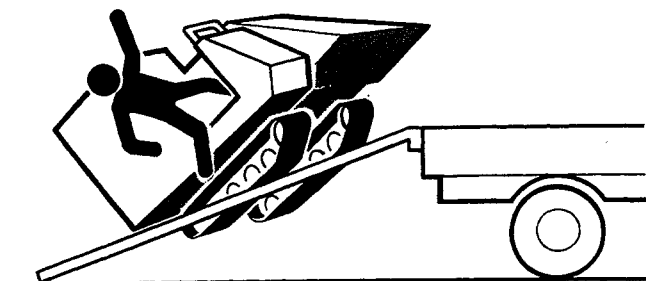
- *アユミ板でトラックへの積降ろしは、平地を選び、できるだけ補助者の立合い誘導のもとで、行なってください。
- *アユミ板は、段差の4倍以上の長さで、滑り止めのある丈夫なものを使い、安定・平行を確かめてください。



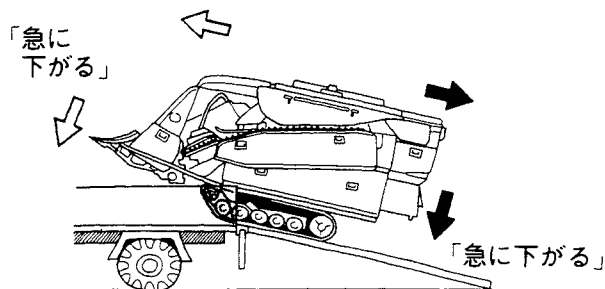
M-3673

- *積込みは前進で、降ろすときは後進で、低速で行ない周辺に人を近付けないでください。

*アユミ板の途中で走行クラッチ・変速レバー・パワーステアリングレバーを操作すると、機械が急降下し落下する危険がありますので、操作しないこと。方向を変えるときは、いったん地上に降りて向きを正し、再度上がり直してください。



*機械が凸部を越えるときは、急に角度が変わりますので、十分注意してください。



M-3672

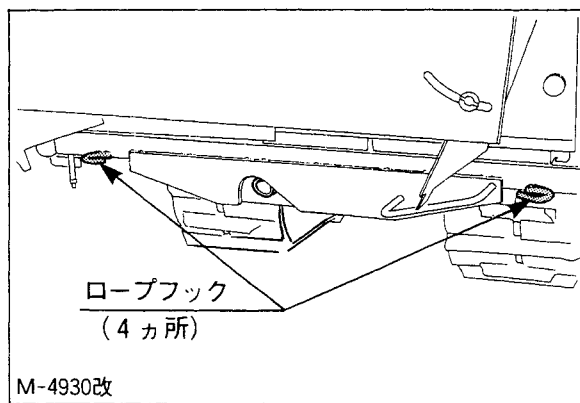
■積降ろしのしかた

- ①分草桿1,2を収納してください。
- ②補助デッキを折りたたんでください。
- ③パワーステアリングレバーで、刈取部を上限まで上げてください。
- ④エンジン回転数を低速にしてください。
- ⑤副変速レバーを「低速」にしてください。
- ⑥主変速レバーを「1速」にしてください。



注意

トラックの上では、刈取り部を床まで降ろし駐車ブレーキをかけ、ロープでしっかり床に固定します。

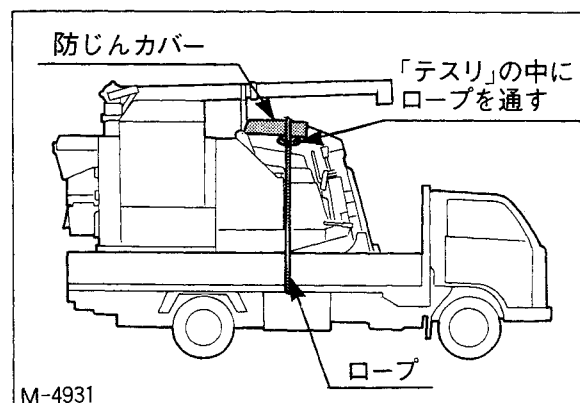


トラックでの輸送

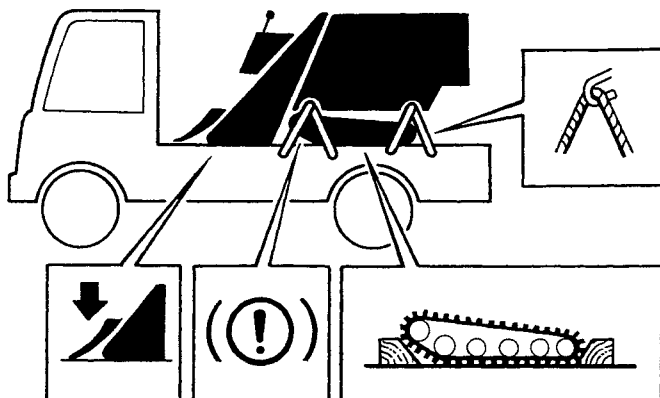
トラックで輸送する場合、風圧により防じんカバーが浮き上がるので、破損防止のためロープを掛けてください。

補足

- *防じんカバーに傷がつかないように、ロープはゆるく掛けてください。
- *輸送中の急発進・急ブレーキ・急ハンドルは、荷動きが生じ危険ですから絶対しないでください。



M-4931



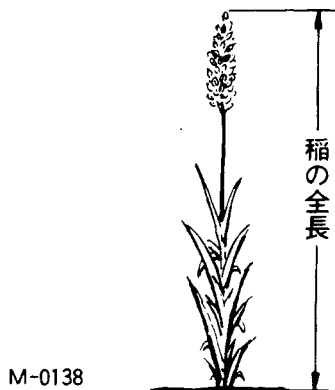
上手な収穫作業のしかた

コンバイン作業ができる作物とほ場の条件

作物とほ場の条件によっては、正常なコンバイン作業ができないことがあります。まず作物とほ場の条件を確認してください。

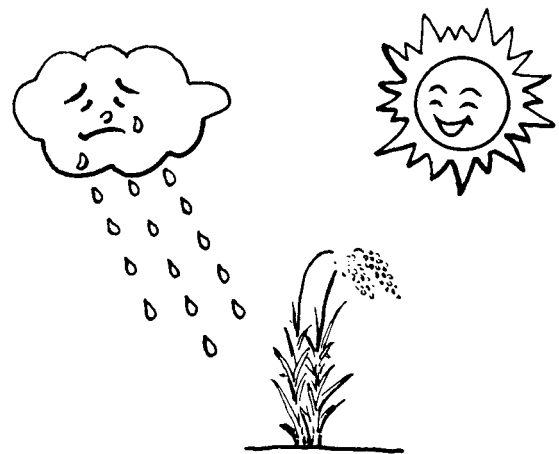
■作物の条件

(1)作物の長さ……全長60～130cm

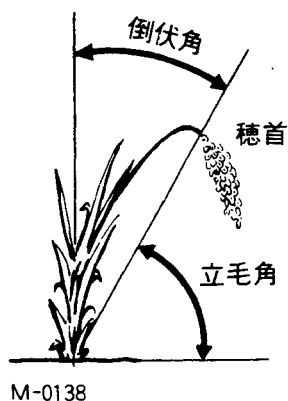


(3)作物のぬれ……乾いていること。

(手でしごいてぬれない状態)

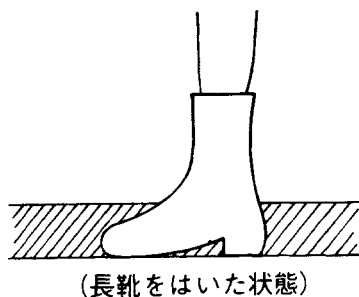


(2)作物の倒れ(倒伏角)……
 追い刈り……85度以下。
 向い刈り……70度以下。

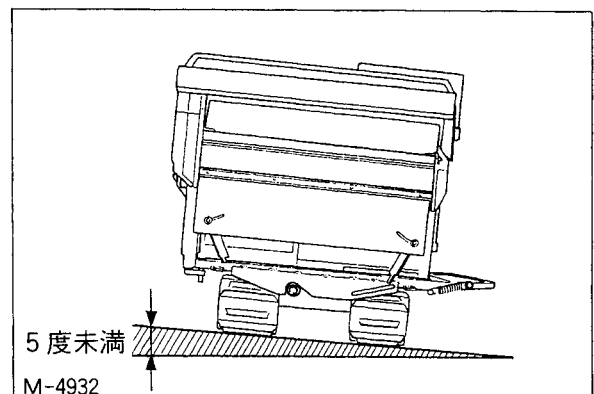


■ほ場の条件

(1)ほ場のぬかる度合……
 足の沈み6cmまで。(標準仕様)
 足の沈み10cmまで。(W仕様)



(2)機体の傾斜角度5度以上では、作業できません。



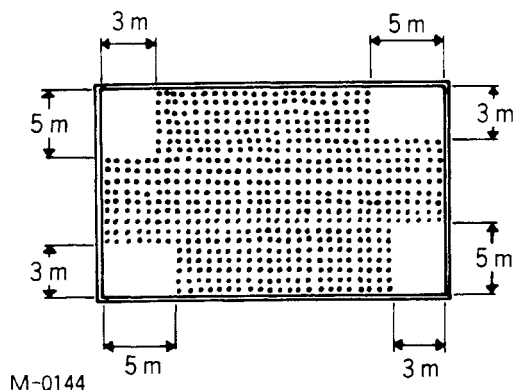
重 要

* ほ場内に雑草が多いと刈取り作業ができない場合があります。ほ場内の除草に心がけてください。

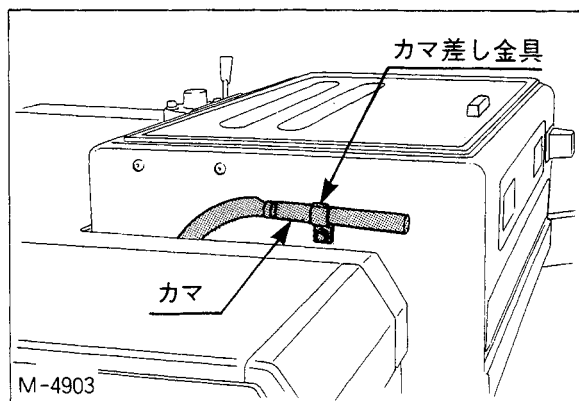
コンバイン作業前の準備

■ほ場の手刈り(枕刈り)

能率よく作業を進めるには、コンバインをほ場に入れる前に、図のように四すみ(旋回できる範囲)を手刈りします。



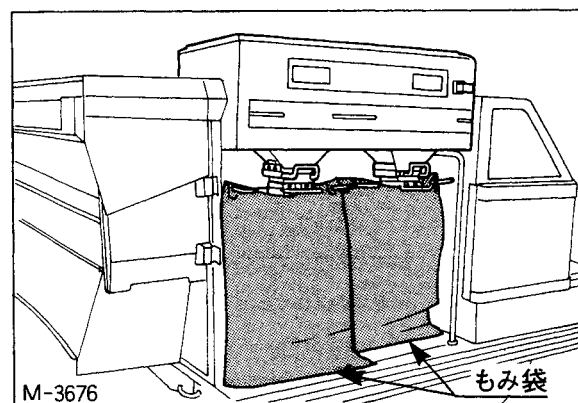
●カマは下図の所に取り付けできます。



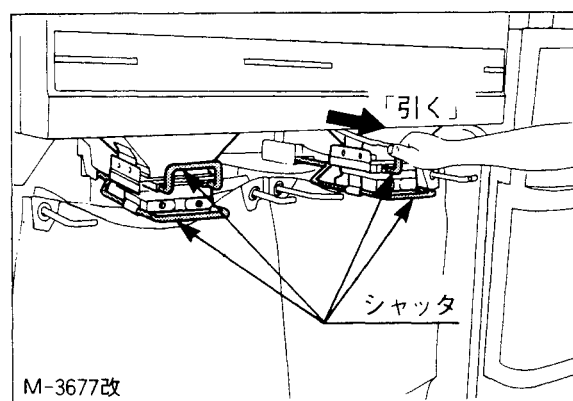
■作業前の各部の準備

◆もみ袋の取付け

①もみ袋のファスナを開き、図のように、各袋掛け金具に取り付けます。

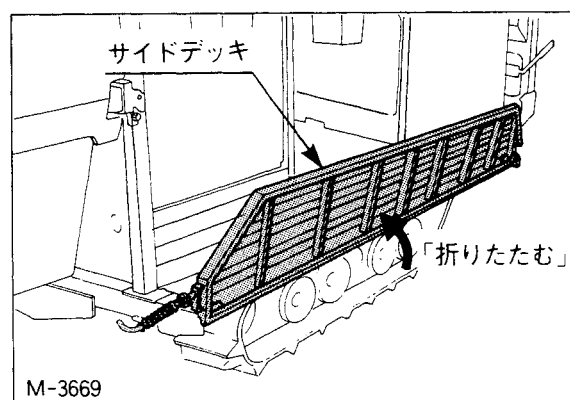


②各吐出口のシャッタを開きます。



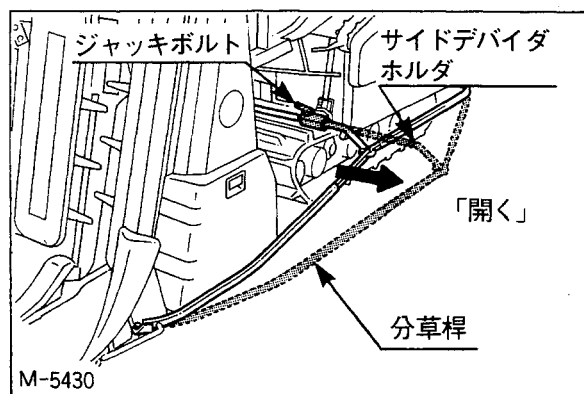
◆サイドデッキ

サイドデッキは、中割り作業、あぜぎわ刈りのときは折りたたみます。

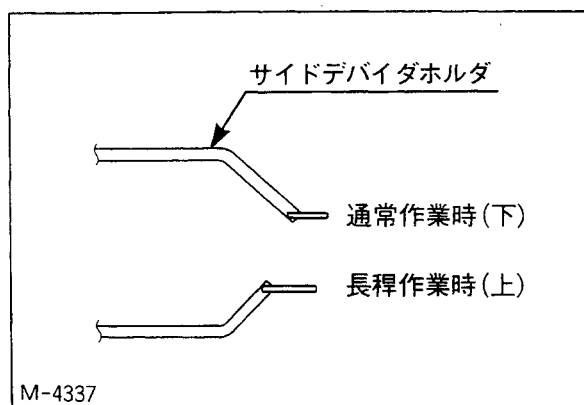


◆分草桿

分草桿を開きます。(開かないと搬送作物の詰まりの原因となります)

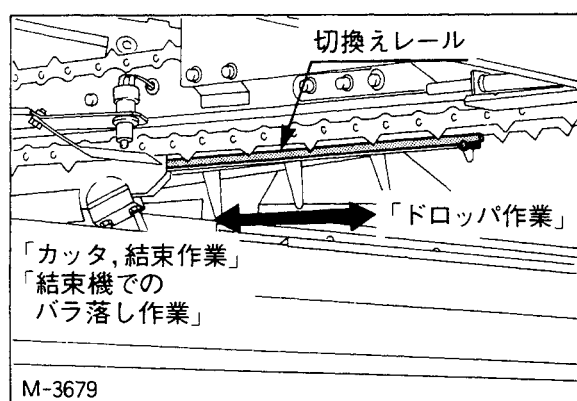
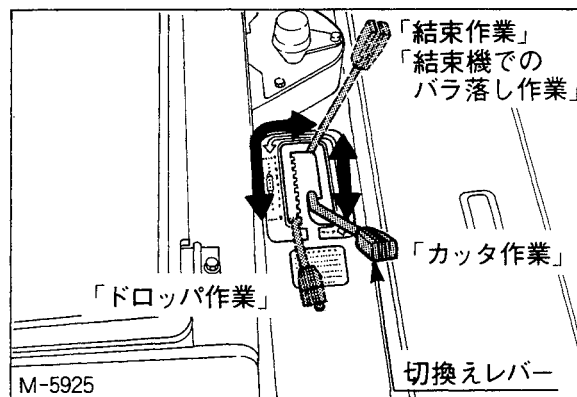


長稈作物を刈取るときは、サイドデバイダホルダを「上」方向で使用してください。



◆排ワラ処理装置の選択

カット作業(排ワラの切断), バラ落し作業を切換えレバーで選択します。(36ページ参照)



コンバイン作業について



注意

- * コンバインの周りに人を近づけないでください。
- * エンジンを始動したり、各クラッチを入れるときは、ホーン、その他の方法で補助者や周りにいる人に合図して、周りの安全を確認してください。
- * エンジン回転中は、コンバインの回転部に手や身体を近づけないでください。
- * 異常が発生したときは、必ずエンジンを停止してから点検してください。
- * 外装部品(安全カバーなど)を取外しての作業は絶対にしないでください。
- * バックする場合は後方の人の安全確認、また後方に川(用水路)やがけのある場合は転落しないよう後方をよく注意してください。
- * あぜぎわがコンクリート畦畔の場合は、クローラをあぜに乗り上げたり、急旋回などは絶対にしないでください。脱輪及びクローラ切損の原因となります。
- * 機体が凸部を越えるときは、重心の位置が変わって機体が上向きから下向きに姿勢が急に変わるので十分注意してください。(23ページ参照)
- * コンバインを停止するときは、ワラくずの上に止めないでください。マフラ排気口にワラくずが触れると、火災の恐れがあります。
- * エンジン・マフラ・脱こく機及びカッタ結束機のベルトカバー内、バッテリーにワラくずがたまっていると火災の原因になることがあります。時々点検をして取除いてください。なお、点検時は必ずエンジンを停止してください。
- * コンバイン作業を終えて、シートをコンバインにかけるときは、火災の原因になることがありますので、マフラ・エンジンが冷えてからにしてください。

■作業中の注意事項

重要

- * 脱こくクラッチは、エンジン回転が低速のときは絶対に入れないでください。脱こく機の詰まり、故障の原因になります。
- * 小さなほ場や、ほ場の隅では作業がしにくいので、安全のため低速で注意しながら作業を行ってください。
- * カッタとドロップパ(オプション)の切換えは、脱こく部を止めてから行ってください。
- * 作業中エンジン回りの防じんカバーにゴミの付着が多くなれば、その都度清掃してください。防じん網全面にゴミが付着したまま作業を続けると、エンジンオーバーヒートの原因になりますのでゴミを取除いてください。

■オーバーヒート時の注意事項

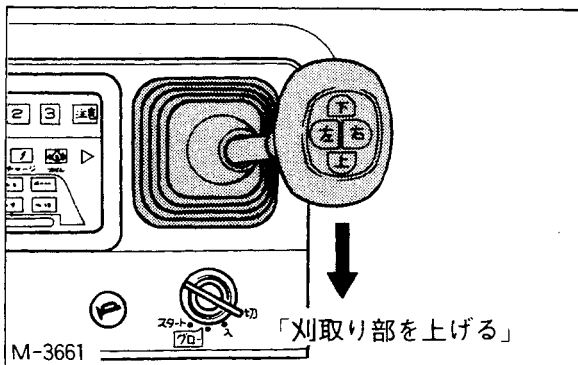
冷却水温が沸点近く又はそれ以上になったとき(いわゆるオーバーヒート)には次のように行動してください。

- (1)安全な位置で機械の運転を止めます。(エンジンの負荷を抜く。)
- (2)蒸気が噴出している間は機械から十分離れて待機してください。
- (3)オーバーヒート等でエンジンカバーを開けて点検・整備するときは、次の手順に従ってください。
 - ①エンジンを停止する。
 - ②エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
エンジンが冷えていないとき、エンジンカバーを開けるとラジエータ部、リザーブタンク部等より熱湯が吹出し、あるいは高温部に接触してヤケドする恐れがあります。
- (4)ヤケドなどの危険性がなくなってから、オーバーヒートの原因を「コンバインの不調と処置」の項に従って除去してください。その後、エンジンを再始動させてください。

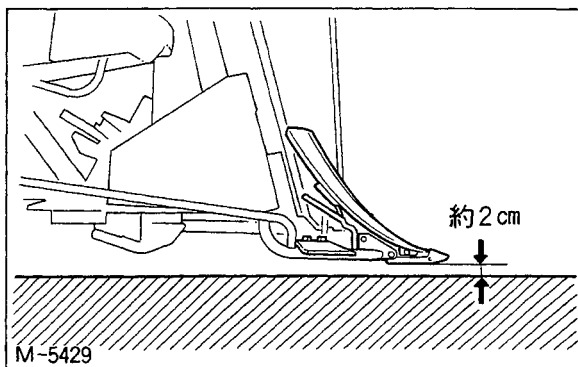
■刈取り部の操作のしかた

◆刈取り部の昇降

- (1) パワーステアリングレバーで、デバイダの先端が地面に接しないように少し持上げてください。



- (2) 通常は、地面からデバイダの先端まで約2cmになるようセットしてください。



- (3) 長稈や麦・雑草のある場合は高刈りしてください。

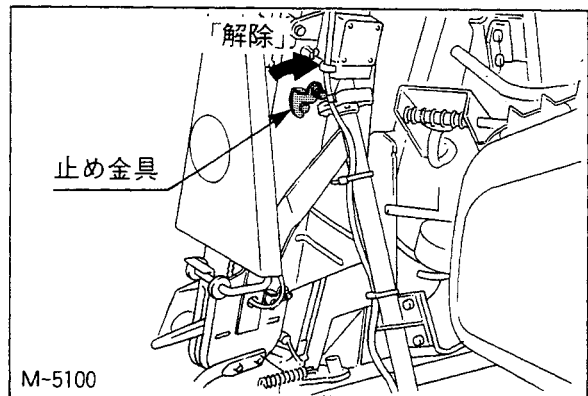
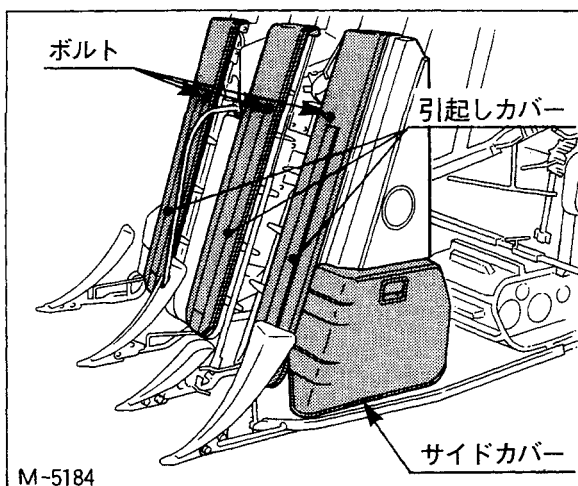
◆引起し爪高さの調節

脱粒や稈ちぎれなど発生する場合は、次の通り調節してください。

補 足

* 長稈作物(1m以上)を刈取る場合は、必ず元の位置(切欠位置①)に戻してください。戻さずに使用すると供給部へのバトンタッチで詰まることがあります。

- ① サイドカバーを外します。



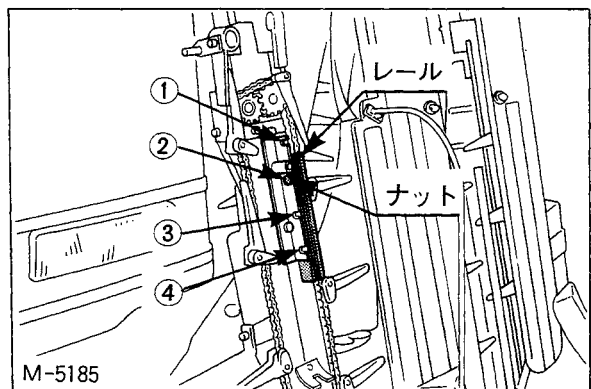
- ② 引起しカバーの外し方は、上図のように止め金具を動かして、引起しカバーのロックを解除してください。(1本の引起しフレームに3ヶ所)
引起しカバーを止めているボルト1本を外してください。
- ③ 引起しカバーを平行に引きながら外してください。
刈取り部全体を少し浮かせ、デバイダを前方に傾斜させると外しやすくなります。

重 要

- * 組立てるときは、引起しカバーを最後まで押し込んで、止め金具が確実に溝に入るまで回転してください。
- * サイドカバーの前面が引起しカバーの上になっていることを確認してください。

【引起し爪の高さ調節】

レールのナットをゆるめ①～④の切欠を選んで差込み高さ調節し、ナットで確実に固定してください。



高さの目安	
作物の状態	切欠の位置
標準の作物	①又は②
長稈の作物	①
1m以下の作物で脱粒、稈ちぎれ、雑草の多いとき	③又は④

脱粒しやすい品種を刈取りするときは、引起し爪の高さを作物の穂部の下側になるよう調整してください。

◆刈取り高さの調節

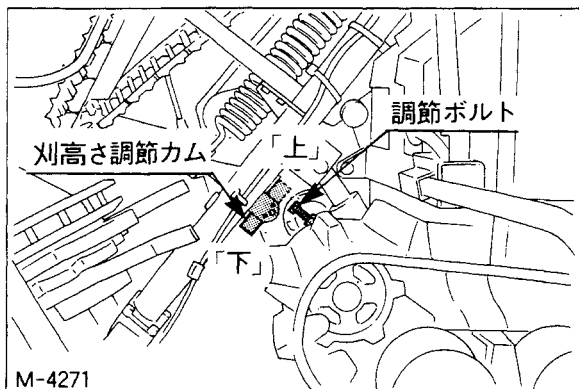
(1)通常は刈高さ調節カムを「上」に回してください。

刈取り部が一定の地上高で止まるので便利です。

(2)湿田などで機体前部が持上がる場合は、刈高さ調節カムを「下」に回してください。

刈取り部が本体に対して更に下がるようになります。

(3)高刈り位置で刈取り部を一定に止めたいときは、刈高さ調節カムを上方に回し、刈高さ調節ボルトの位置を上方へ調節してください。

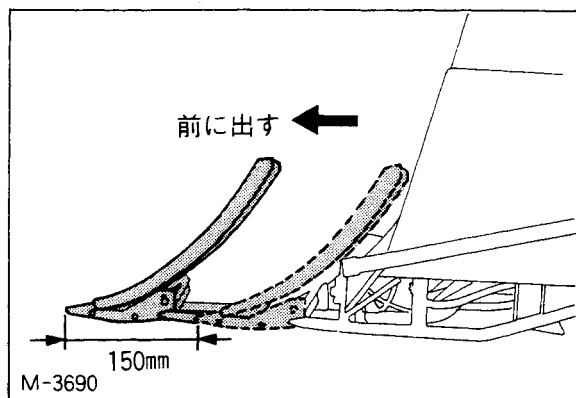


M-4271

◆デバイダの調節方法

【前後調節】

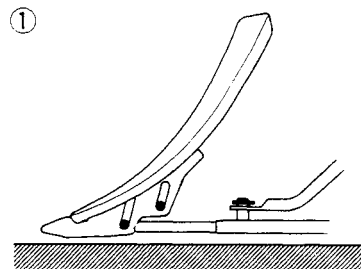
倒伏作物を刈取るとき、左デバイダを前方に引出してください。



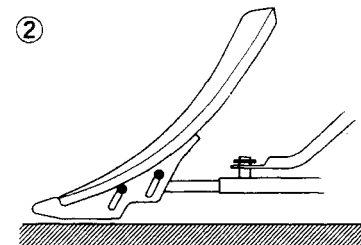
M-3690

【上下調節】

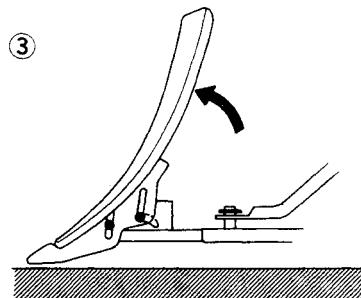
作物・ほ場条件	セット位置
標準	①の位置
湿田で前上りになるとき	デバイダ先端を下げる ②の位置
雑草が多く高刈りしたいとき	
横倒伏刈りで刈り残しがあるとき	
株の引抜きが多いときがあるとき	デバイダ先端を下げる ③の位置



M-3691



M-3692

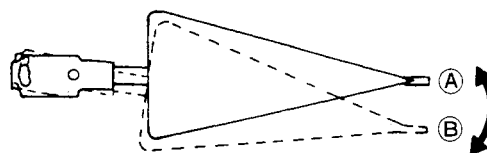


M-3693

◆植付け条間が広いとき (33cm条間又は麦)

デバイダを広げてください。(B位置)

【左右調節のしかた】

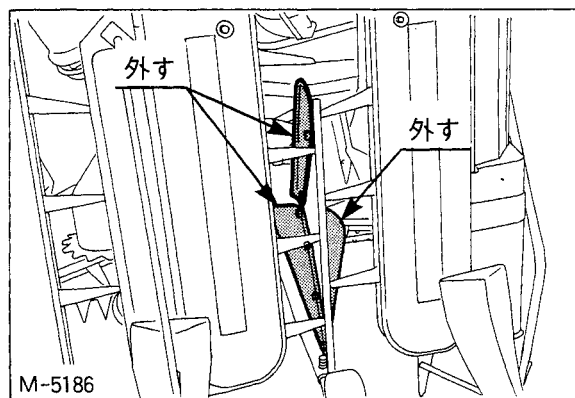


M-3546

*デバイダ右はA位置が標準です。

◆搬送ガイドの取外し

湿田倒伏のもつれ稲などで稲(麦)株の引抜きが多く前搬送部で詰まるときは、搬送ガイドを取外してください。搬送がスムーズになることがあります。



M-5186

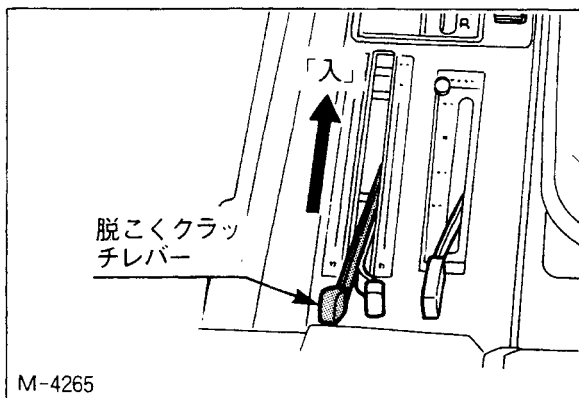
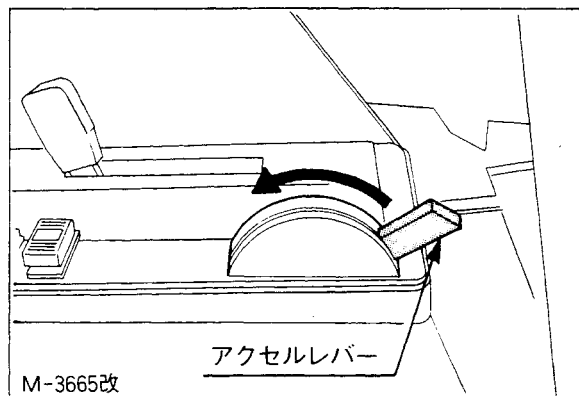
■脱こく部の操作のしかた

重 要

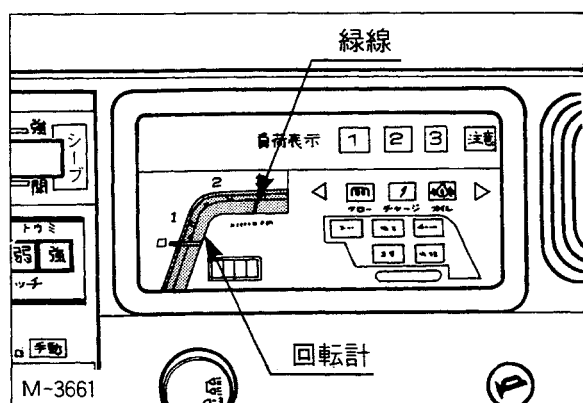
*脱こく部の回転は無負荷の状態(機械を停止させ、刈取部を回転させない状態)で合わせてください。

◆脱こく部の回転数

①脱こくクラッチを入れ、脱こく部を回転させます。



②回転数の調節は、回転計を見ながら緑線の上限まで徐々にアクセルレバーで調節してください。

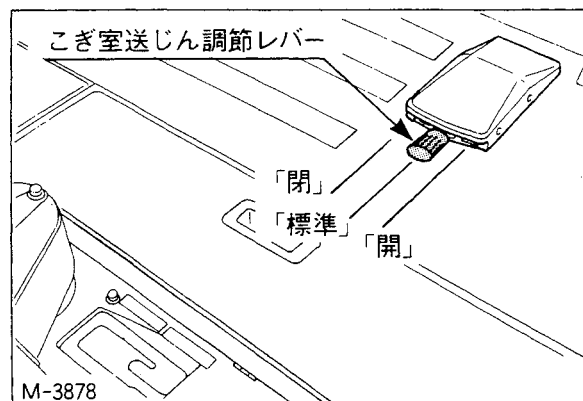


補 足

*回転が低すぎると警報ブザーが鳴ります。

◆処理調節の使い方

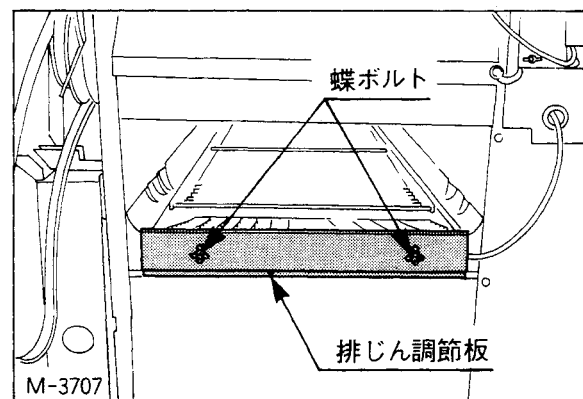
調節のしかたは下表の通りです。不調のときには、「コンバインの不調と処置」の項を参考に調節してください。



作 業 の 状 態	調節のしかた
倒伏した作物を刈取るとき こぎ胴負荷が大きいとき	開の方へ
通常作業	標準
排じんロスが多いとき ササリ粒が多いとき	閉の方へ

◆排じん調節板の使い方

調節のしかたは下表の通りです。不調のときには、「コンバインの不調と処置」の項を参考に調節してください。



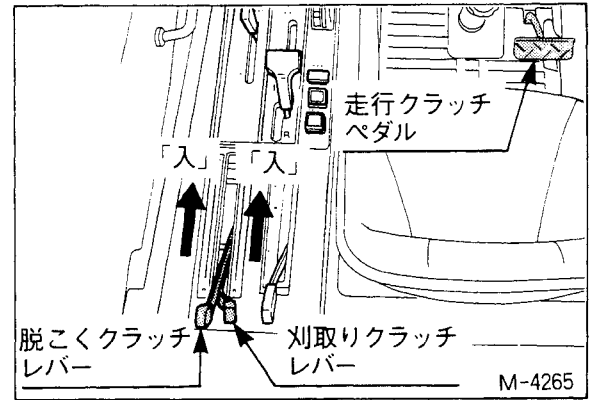
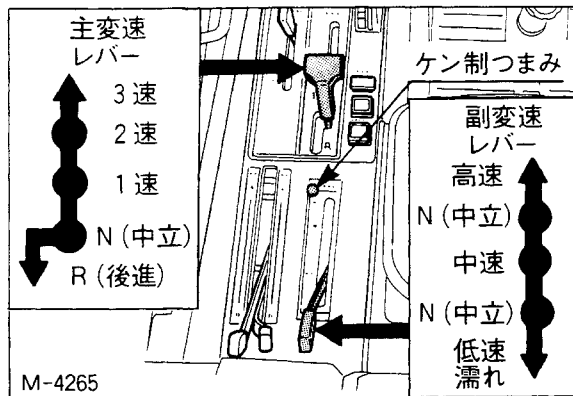
条 件	セット位置
標準位置	長穴の中央
ロスを少なくしたいとき	上にあげる
濡れた作物のとき	下にさげる
雑草の多いとき	
能率も上げたいとき	

■走行部の操作のしかた

- ①刈取りクラッチレバーを「入」にします。
- ②作物の状況により、副変速レバーを操作して作業速度を選定します。
- ③主変速レバーを操作して、最適速度で作業してください。

●R(後進)操作

- (1)高速での後進は従来の速度より速いので、中速又は低速で使用することをお推めします。そのときはケン制をかけて「高速」での「R」(後進)が入らないようにしてください。
- (2)ケン制をかけると、たとえ副変速が「高速」で主変速を「R」(後進)に入れても、副変速は「中立」になります。
- (3)ケン制を解除すれば、高速の後進作業も可能です。



⚠ 注意

- *刈取りクラッチは、走行クラッチペダルと連動しているので、走行クラッチペダルを踏むと、刈取り部は回転しません。
- *刈取りクラッチは、主変速レバーと連動しているので、主変速レバーを「N」にすると刈取り部は回転しません。
- *刈取りクラッチレバーは脱こくクラッチレバーと連動しているので、刈取りクラッチを入れると、脱こくクラッチも入ります。
- *コンバインを止めたまま、刈取り部を回転したいときは、副変速レバーを「N」、主変速レバーを「1」にしてください。
- *ケン制を解除して「R」(後進)に入れると、速い速度で後進しますので注意してください。

◆作物の倒伏角と作業速度

刈る方向		倒れぐあい	倒伏角85° 程度の場合	倒伏角45° 程度の場合	立毛状態 の場合
①	②	① 追い刈り	副変速:低速 主変速:1~2速 向い刈り の場合は 倒伏角60°	副変速:低速 主変速:2~3速	副変速:中速 主変速:1~3速
		② 向い刈り			
③	④	③ 左倒伏刈り			
		④ 右倒伏刈り			

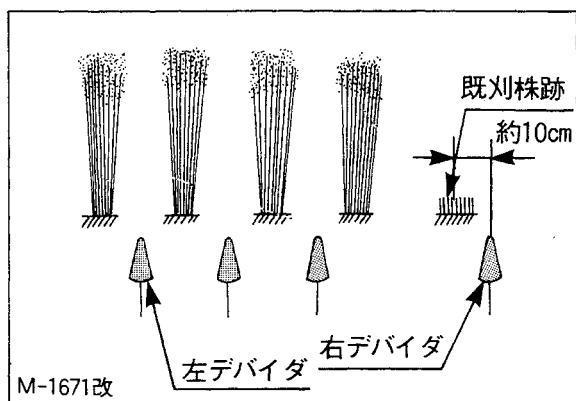
補 足 下記のような条件では、上表のような作業速度ではできない場合があります。

- *雑草が極めて多いほ場
- *病虫害、風水害により倒伏している作物
- *穀かんがくさり、ぬれているもの
- *10cm以上の高畝のほ場
- *5度以上傾斜しているほ場
- *根ぐされし、切れやすい作物
- *過熟して、茎が折れやすくなっている麦

■刈取り部の条合せのしかた

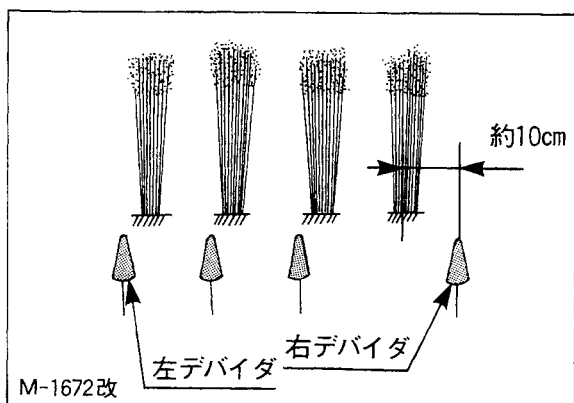
◆通常の回り刈りのとき

既刈側の刈跡に対し右デバイダを約10cm右に合わせてください。



◆中割作業のとき

- (1) 右デバイダ基準で4条分刈取ってください。
- (2) 右デバイダを約10cmになるように合わせてください。
- (3) 植付け条間が広い場合は右デバイダを広げてください。

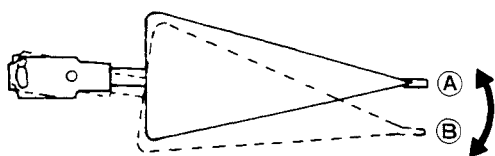


重 要

* 条合せのときは、パワーステアリングレバーを小刻みに操作してください。

◆ 植付け条間が広いとき (33cm条間又は麦) デバイダを広げてください。(B位置)

【左右調節のしかた】

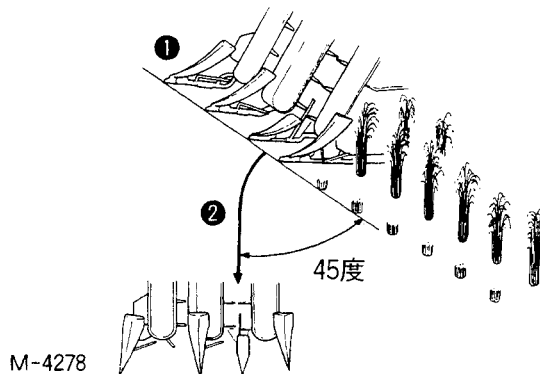


M-3546

● デバイダ右はA位置が標準です。

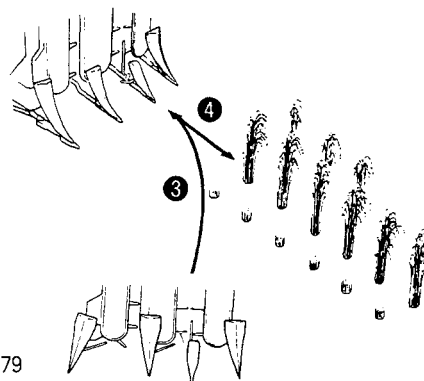
■ほ場内での回行のしかた

- ① 刈終ると、前進しながら刈取部を少し上げます。(早く上げすぎないように注意してください)
- ② パワーステアリングレバーを左に一杯倒し、45度くらい回行した位置でストップします。



M-4278

- ③ 主変速レバーを「R」(後進)側に入れ、バックしながらパワーステアリングレバーを右に一杯倒し、次に刈る方向にまっすぐに合せます。
- ④ 刈取部を下げ、前進します。



M-4279

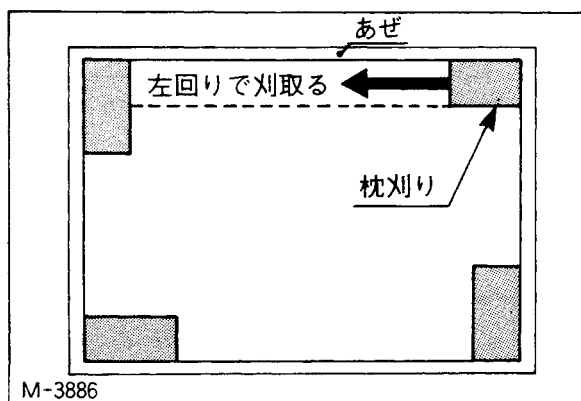
重 要

* 回行するときは必ず刈取り部を上げてください。

■刈取り作業のしかた

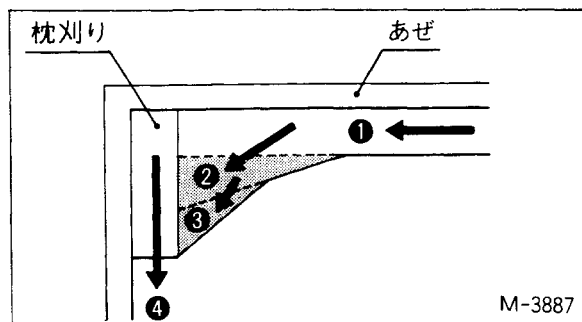
◆一般的なほ場

- (1) あぜわから3〜4条を左回り刈りで刈取りします。



M-3886

(2)回り刈り時のコーナ部の刈取りは下図のようにします。

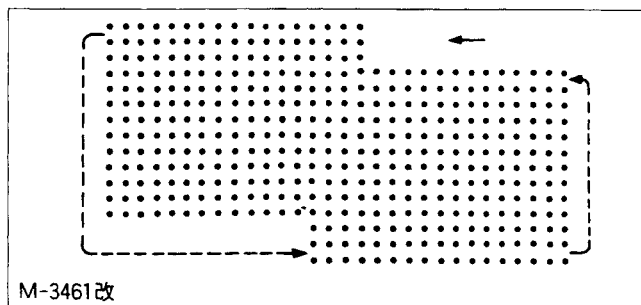


重要

- * ②, ③の刈取りで回行しにくいときや湿田では3～4回刈取りしてください。
- * あぜぎわ刈りのときデバイダを突込んだりしないように注意してください。

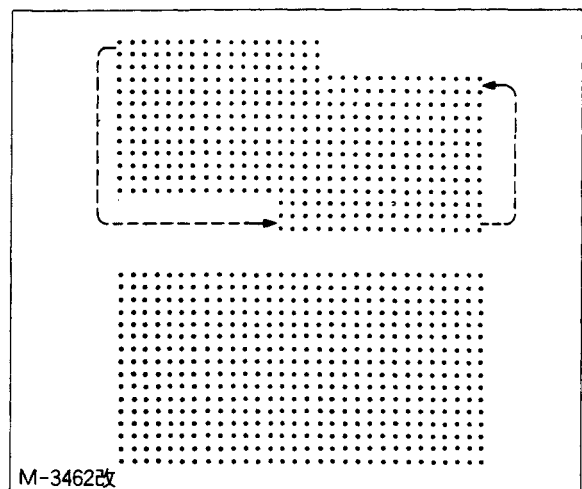
◆長方形のは場

両端(枕地)を回行できる範囲に刈取ったら次に長手方向のみ刈取ってください。能率が上がります。



◆広いは場

中割刈りで分割して、前記の長方形のは場と同じ要領で刈取ります。

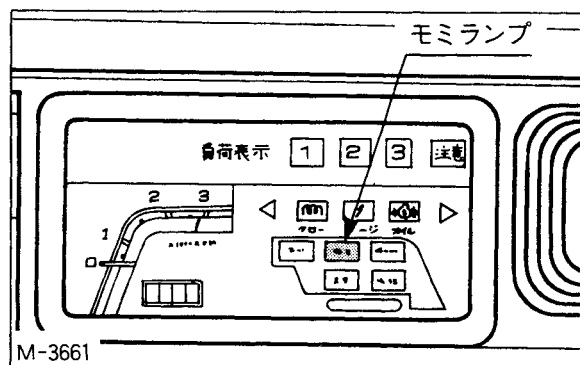


重要

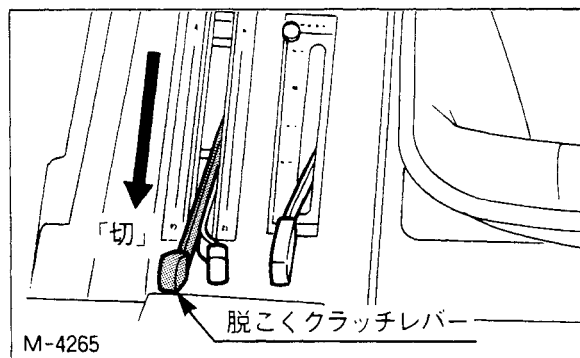
- * 回行中はエンジン回転を下げないでください。下げると「選別を悪くしたり」「詰まりの原因」になります。

■刈取り作業中の注意事項

- ① グレンホッパ下部のもみ袋とグレンホッパがいっぱいになると、イーザーチェッカの「モミ」ランプが点滅し、警報ブザーが断続して鳴ります。

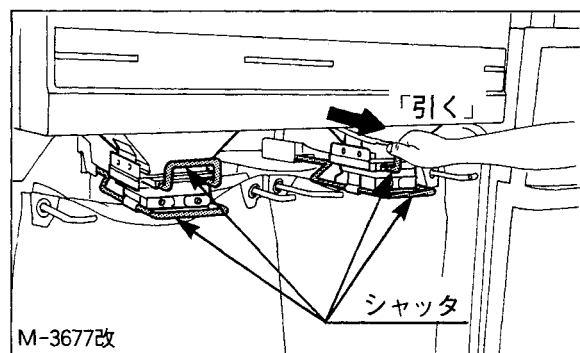


- ② 警報ブザーが断続して鳴ると、直ちに刈取り作業を中止し、20～30秒たってから脱こくクラッチレバーを「切」にしてください。



重要

- * 警報ブザーが鳴った後も刈取りを続けると、モミがあふれたり詰まったりして、故障の原因になります。
- ③ シャッタを閉め、グレンホッパ下部のもみ袋を取出してください。
- D・HD仕様はホッパ自動シャッタ装置付きですので、シャッタが閉じていることを確認してください。
- ④ 各吐出口の下に次のもみ袋を取付けてシャッタを開き、グレンホッパ内のモミを取出してください。



- ⑤ 取出した吐出口に次のもみ袋を取付けてシャッタを開き、作業を再開してください。

■手こぎ作業のしかた



注意

*コンバインを移動しながら、手こぎ作業をしては危険です。機体を停止させ、副変速レバーを「N」の位置にしてから作業してください。

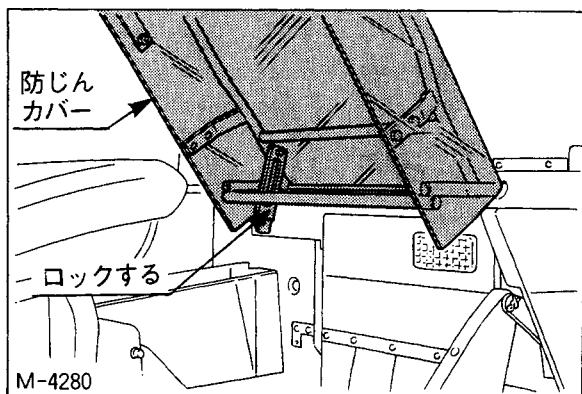
重要

- *袖口が開いていたり、首にタオルを掛け、端がたれていたり、チェーンに巻込まれるので、きちんとした服装で作業してください。
- *チェーンに手を近づけないようにしてください。
- *切断ワラの溜った上に、コンバインを近づけないでください。マフラ排気口にワラくずが触れると火災のおそれがあります。

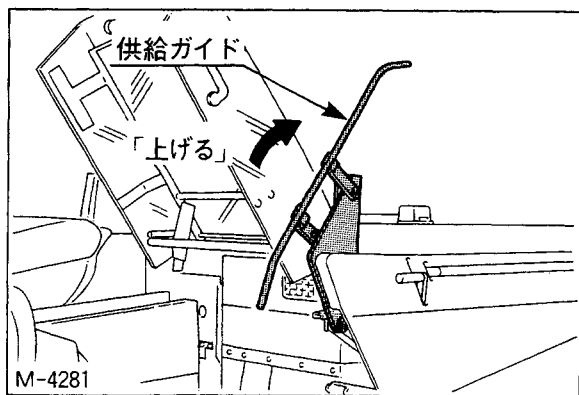
枕刈りをした稲・麦は刈取り終了後に脱こくします。

①防じんカバーを持上げると自動ロックします。

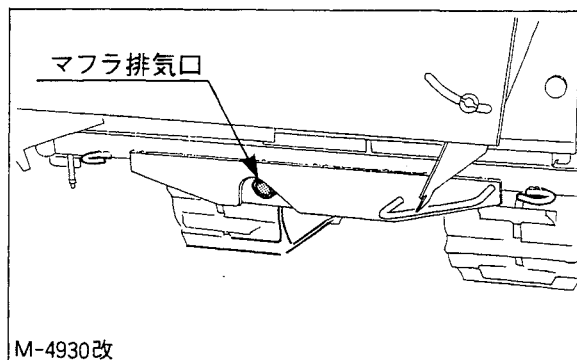
【HD仕様】



②刈取り部を下げて、こぎ深さ手動スイッチで深こぎにし、「供給ガイド」を上げ、枕刈りした作物を「少量ずつ」脱こくしてください。

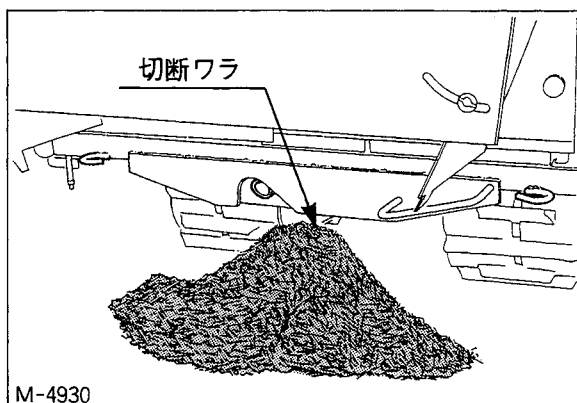


③湿田作業後は、マフラ排気口に泥の詰まりはないか、下図の位置に「ワラくず」がたまっていないか、点検し掃除してください。



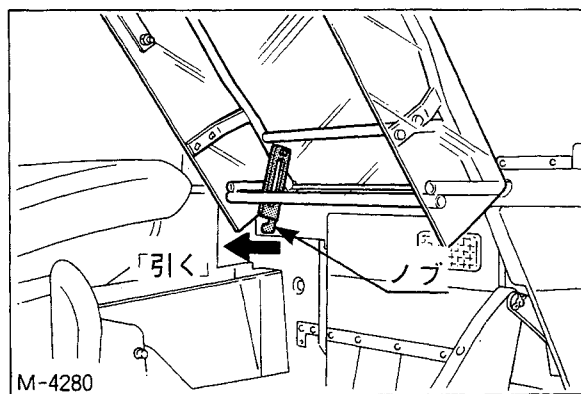
重要

- *枕脱こくは一度に多量の供給をしないでください。
- *1箇所が多量の手こぎをする場合、カッタやドロツパの下に排ワラや切断ワラの堆積が原因で、カッタなどが詰まったり火災の原因となりますので、機械を移動させるか堆積ワラを取除いて作業してください。



- *切断ワラがカッタワラ排出口に詰まった場合は、エンジンを必ず止めてください。
- *防じんカバーを閉じるときは、右手で防じんカバーを支え、左手でノブを前方に引いてください。

【HD仕様】



*路上走行及びトラック輸送をするときは、必ず防じんカバーを閉じてください。【HD仕様】

カッタの取扱いについて

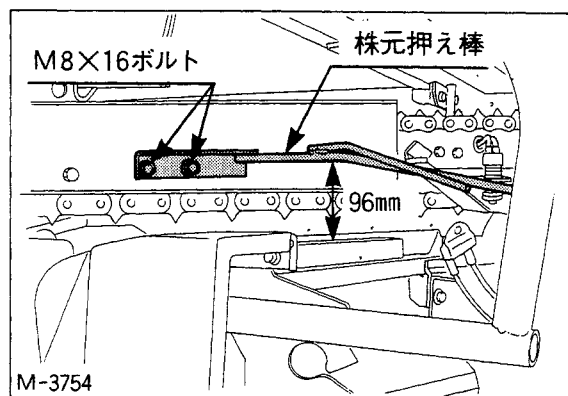
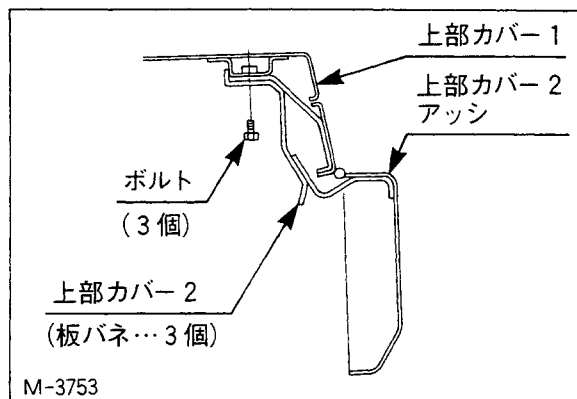


注意

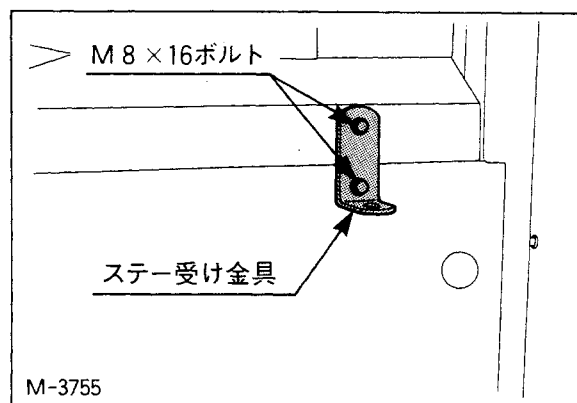
*必ずエンジンを停止してから作業してください。

■カッタの取付け方

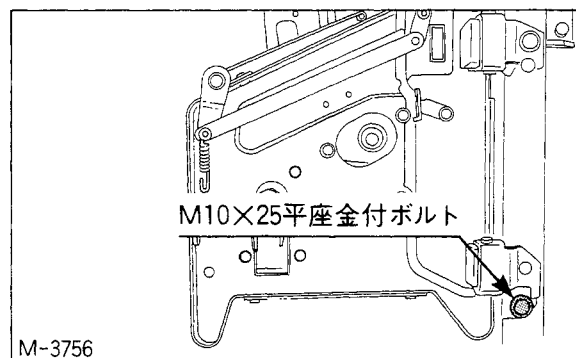
- ①上部カバー 1 に、上部カバー 2・板バネを取付けます。(M6×12ボルト……………3個)
- ②株元押え棒を取付けます。(M8×16ボルト……………2個)



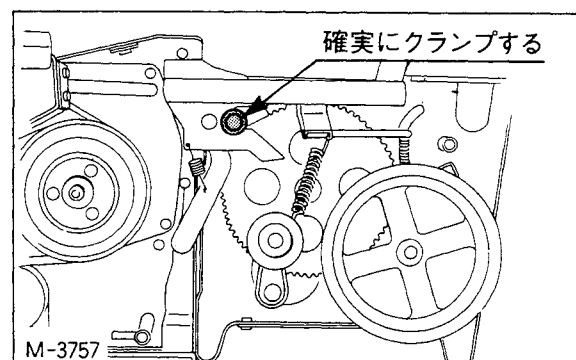
- ③ステー受け金具を取付けます。(M8×16ボルト……………2個)



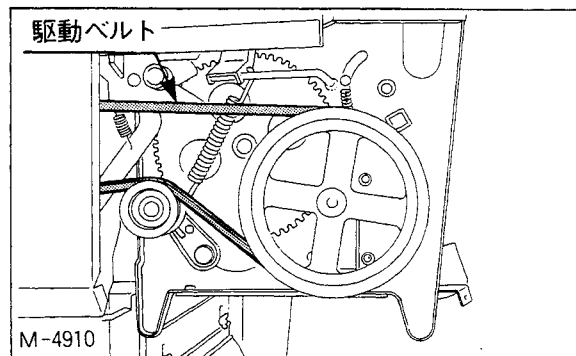
- ④必ず2人でカッタを持ち、コンバインへ取付けます。(モミデッキ側のピンに引っ掛けます。)
(M10×25平座金付ボルト……………2個)



- ⑤カッタを回転させ、株元側でクランプしてください。



- ⑥駆動ベルトを取付けます。

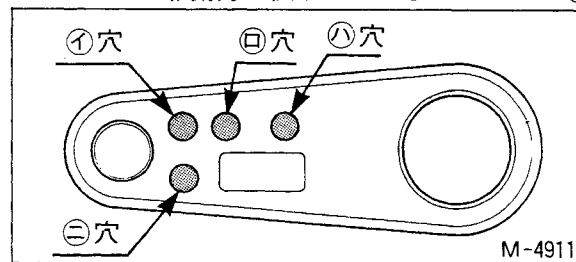


【SR₁-18(50mmカッタ)
SSR₁-18(35mmカッタ)の場合】

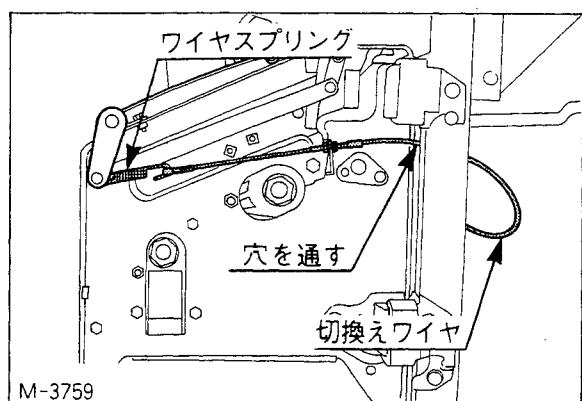
- 通常セット位置……………㊦穴
- ベルトがのび駆動力が低下したとき……………㊩穴

【SR₁-18C(50-150mmカッタ)
SSR₁-18C(35-150mmカッタ)の場合】

- 通常セット位置……………㊩穴
- ベルトがのび駆動力が低下したとき……………㊦穴

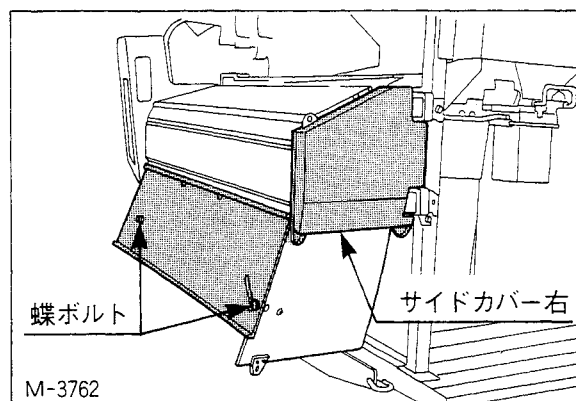


- ⑦ 切換えワイヤをモミデッキカバーの穴に通し、ワイヤスプリングを連結します。



- ⑨ サイドカバー右を樹脂ボルトで固定します。
(M6×12ボルト……1個)

- ⑩ 両サイドシュートを外し、蝶ボルトで固定します。

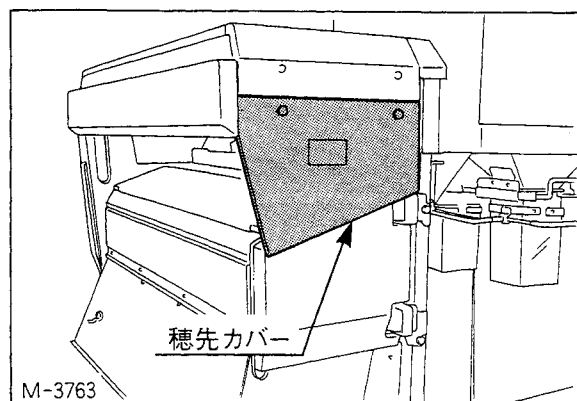


★カッタの取外しは、取付けの逆の順序で行なってください。

■カッタ作業とバラ落し作業の切換え

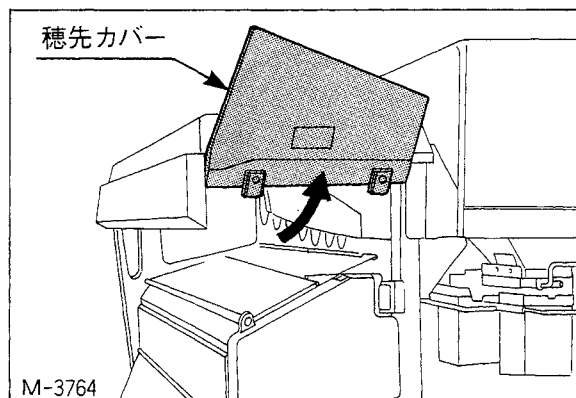
◆カッタ作業へ

- ① 切換えレバーを「カッタ作業」に切換えます。
② 穂先カバーを閉じます。



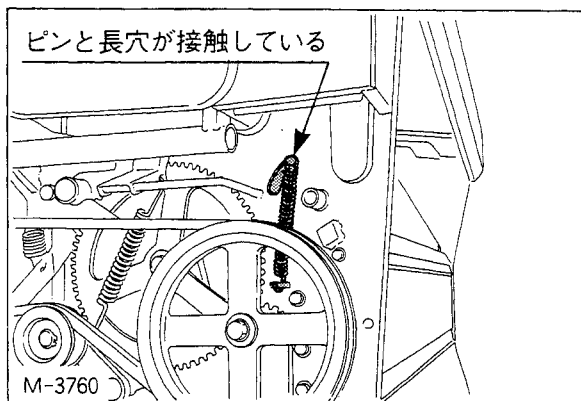
◆バラ落し作業へ

- ① 切換えレバーを「ドロップ作業」に切換えます。
② 穂先カバーを開きます。

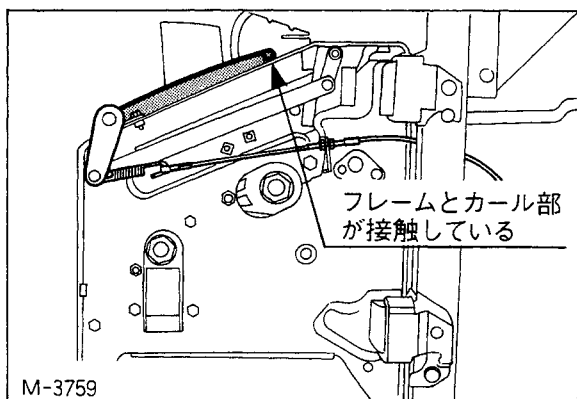


重要 [必ず次の項目を確認してください。]

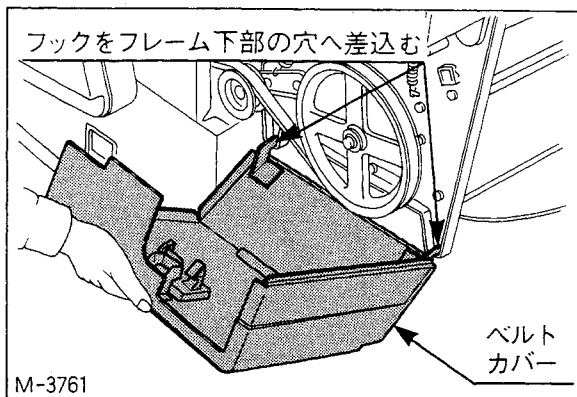
- (1) 切換えレバーを「カッタ作業」に切換えます。



- (2) 切換えレバーを「ドロップ作業」に切換えます。



- ⑧ ベルトカバーを取付けます。



■カッタの開閉のしかた



注意

- *傾斜地でのカッタの開閉はしないでください。
- *カッタを開く時は、必ずステーを使用してください。

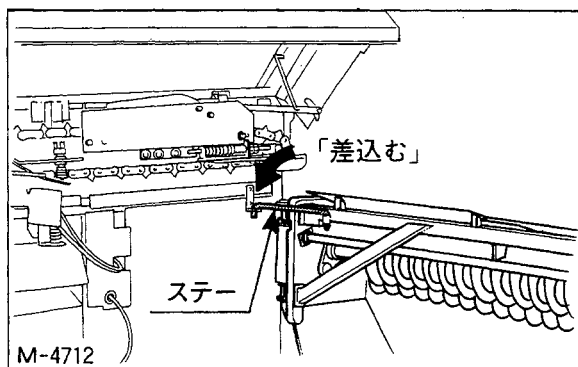


警告

- *カッタを開く時は、刃物に十分注意してください。

◆カッタを開く場合

- ①上部カバーを開きます。
- ②ベルトカバーを外します。
- ③駆動ベルトを外します。
- ④テンションスプリングを外します。
- ⑤オープンフックを手前に引き、静かに回転させます。
- ⑥必ずステーをコンバインの穴へ差し込みます。

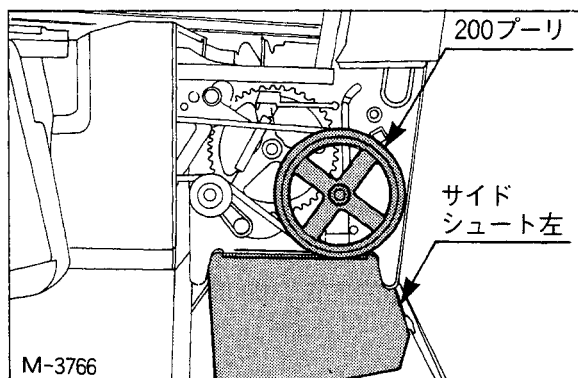


◆カッタを閉じる場合

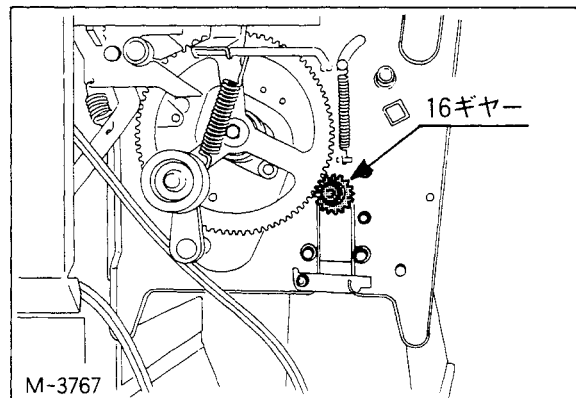
- ①カッタを開く場合の逆の手順で行なってください。
- ②オープンフックが確実にロックされていることを確認してください。
- ③ベルトを掛ける際は、掛けまちがないように行なってください。

■カッタ刃の交換のしかた

- ①ベルトカバー・サイドカバー右・サイドシュート左右を外します。
- ②駆動ベルトを外します。
- ③200プーリを外します。(M10ボルト1個)

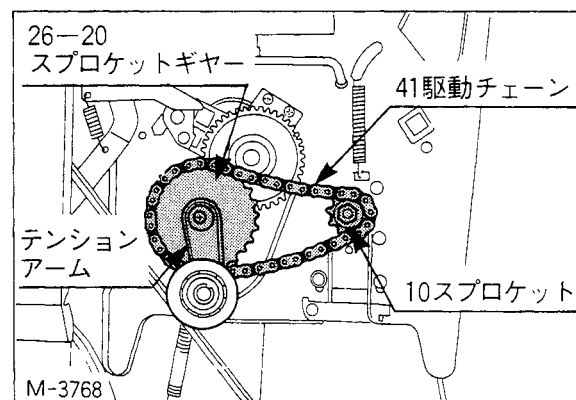


- ④ [SR₁-18 (50mmカッタ) の場合]
[SSR₁-18 (35mmカッタ) の場合]
16ギヤーを外します。

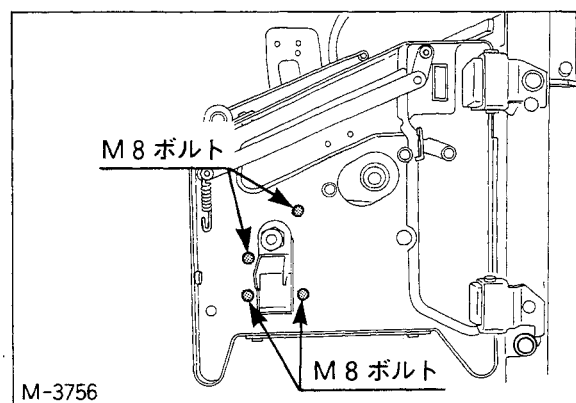


- [SR₁-18C (50-150mmカッタ) の場合]
[SSR₁-18C (35-150mmカッタ) の場合]

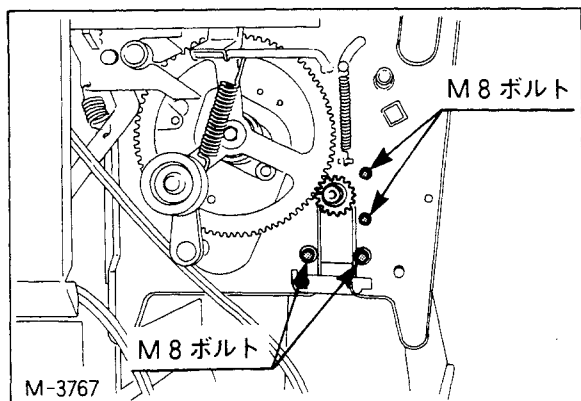
- ①テンションアームを外します。(M6ボルト1個)
- ②10スプロケット・26-20スプロケットギヤー・41駆動チェーンを外します。



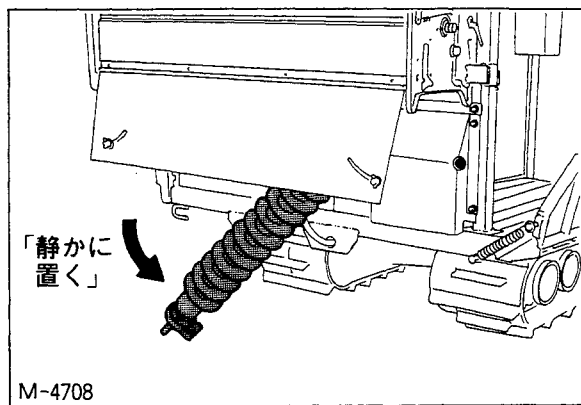
- ⑤モミデッキ側の軸受けのM8ボルトを先に外します。(M8ボルト4個)



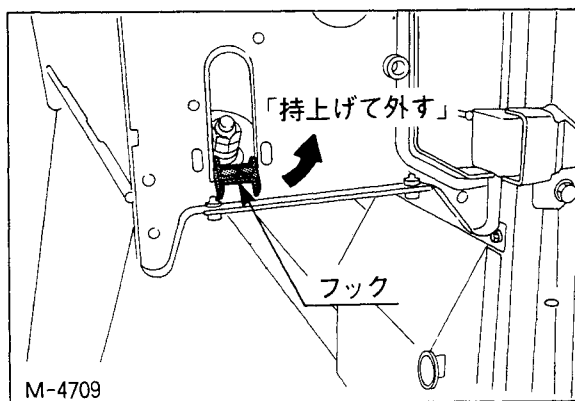
- ⑥伝導側の軸受けのM8ボルトを後で外します。
(M8ボルト4個)



- ⑦軸端を持ち、軸ストッパ金具を上にあげ、軸端を静かに地面に置きます。



- ⑧反対側の軸受けフック部をフレームから外し、軸アッシを取出します。



- ⑨軸アッシを安定した所に置き六角ナットをゆるめ、順に分解します。
⑩刃の交換ができれば、分解した順序をまちがえないよう組立ててください。
なお、歯の向きと回転方向は下図のようになります。

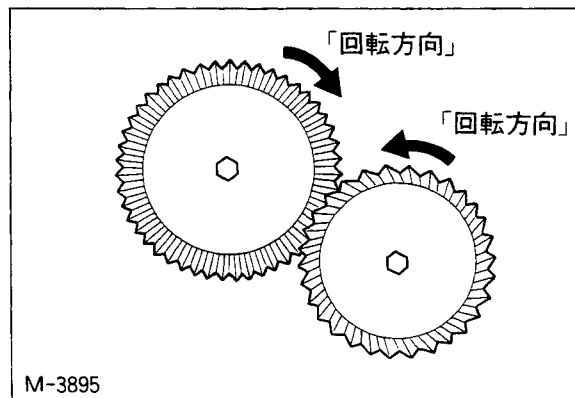
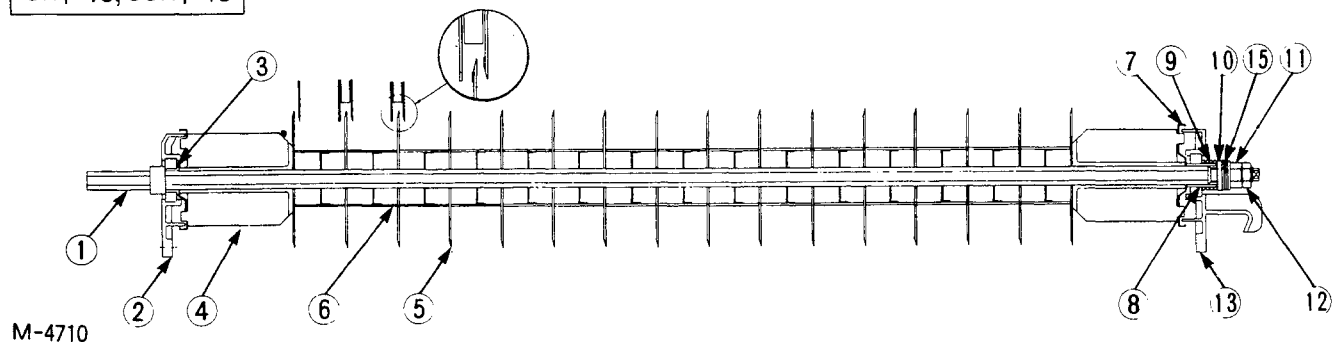


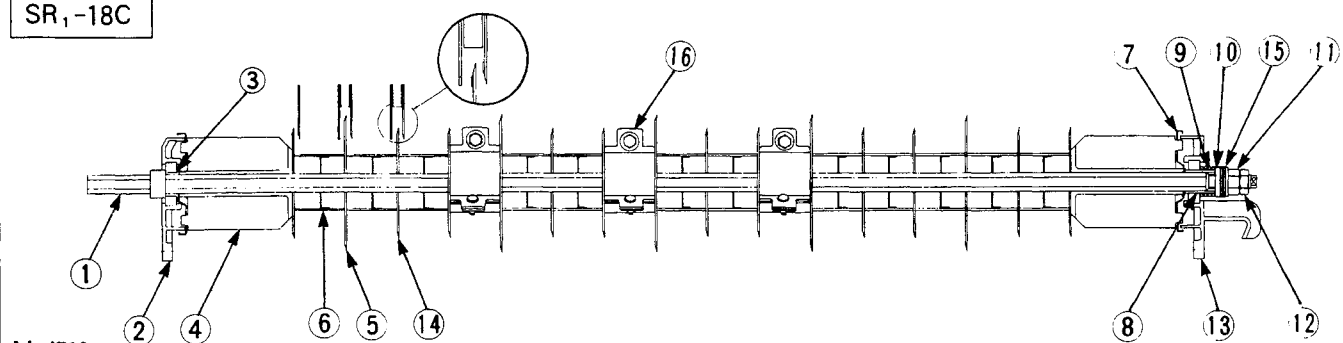
図 番	品 番	品 名	個 数			
			SR ₁ -18	SSR ₁ -18	SR ₁ -18C	SSR ₁ -18C
①	57783-2111-4	セツダンジク	1	1	1	1
②	57783-2112-3	セツダンジクウケ ヒダリ	1	1	1	1
③	57783-2118-0	ベアリングカラー 1	1	1	1	1
④	57783-2119-3	ハイシュツ ハネ	2	0	2	0
④	57793-2119-3	ハイシュツ ハネ	0	2	0	2
⑤	57783-2121-0	150セツダンバ	16	26	5	6
⑥	57783-2120-2	55 パイプカンビ	15	0	15	0
⑥	57785-2120-0	36 パイプカンビ	0	25	0	25
⑦	57783-2115-0	カバー (ジクウケ)	2	2	2	2
⑧	57783-2124-2	32 スリーブ	1	1	1	1
⑨	57783-2125-2	スライド スプリング	1	1	1	1
⑩	57783-2144-0	32-16.5 ヒラザガネ	1	1	1	1
⑪	57783-2126-0	M16サラバネツキナット	1	1	1	1
⑫	02052-50160	ナット	1	1	1	1
⑬	57783-2143-2	セツダンジクウケ ミギ	1	1	1	1
⑭	57784-2223-0	セツダンバ (130)	0	0	11	20
⑮	57781-5218-0	サラバネザガネ 16	3	3	3	3
⑯	57784-2125-0	ハネ (φ114 カキダシ)	0	0	9	0

SR,-18, SSR,-18



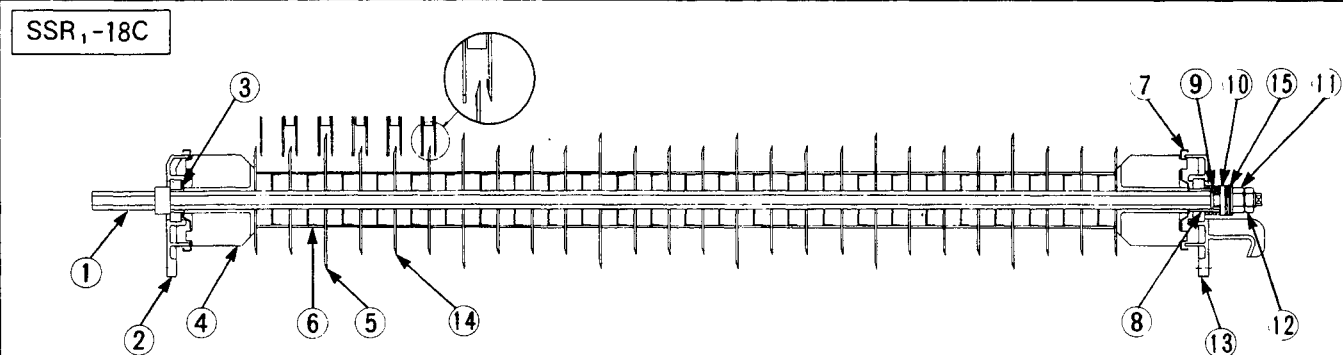
M-4710

SR,-18C



M-4710

SSR,-18C



M-4710

重 要

* 軸の締付けトルクは、下記の通りです。確実に締付けてください。

締付けトルク.....450~550kg・cm
組付け時、刃物・パイプ端面に砂など異物が付着しますと、刃物間寸法が出ない場合がありますので注意してください。

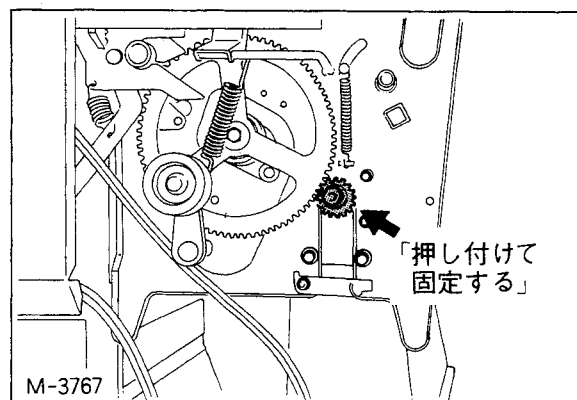
* 軸を垂直に立てて組んでください。組付け後の軸振れが無くなります。

* 刃の向き、組合せが逆にならないよう特に注意してください。

* 組付け後、刃と刃が接触していないか軽く回して確かめてください。

* 軸アッシを組付けるとき、上軸側へ一杯に押し付けてください。

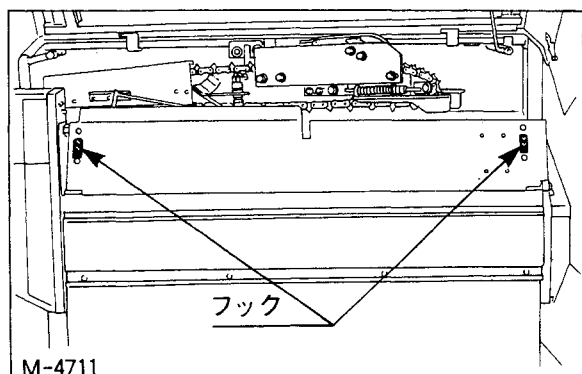
(伝導ギヤーの噛み合いに影響します。)



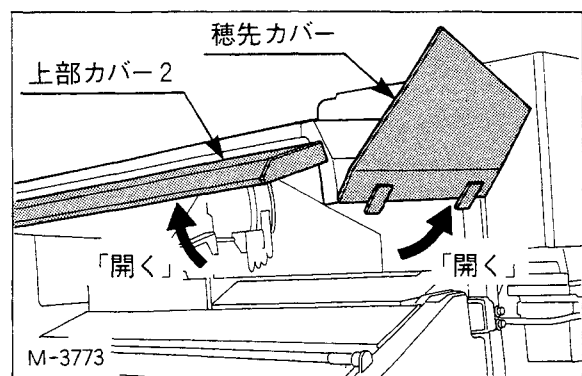
M-3767

■排ワラチェーン部、切断部の点検・掃除のしかた

- ①カッタの切断部の点検・掃除はオープンフック(2個)を押して切換えカバーを開けます。



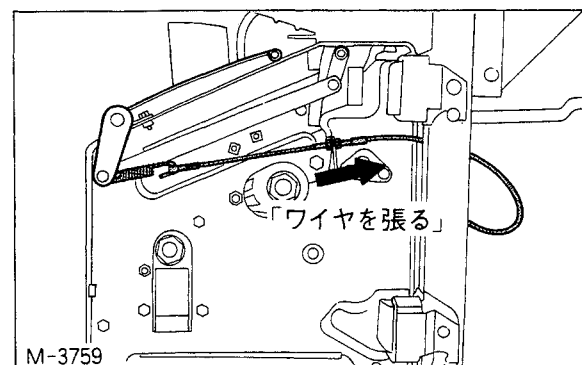
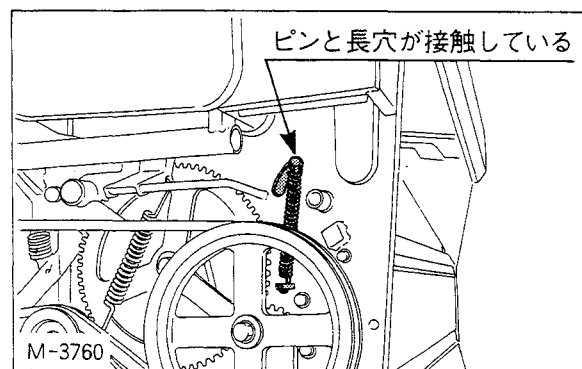
- ②穂先側の点検・掃除は、上部カバー2・穂先カバーを上を開けます。



■排ワラ切換えワイヤの調整

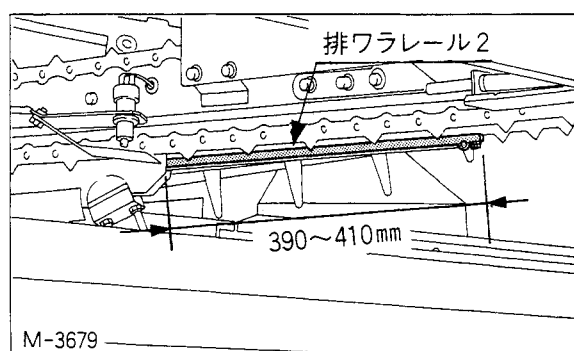
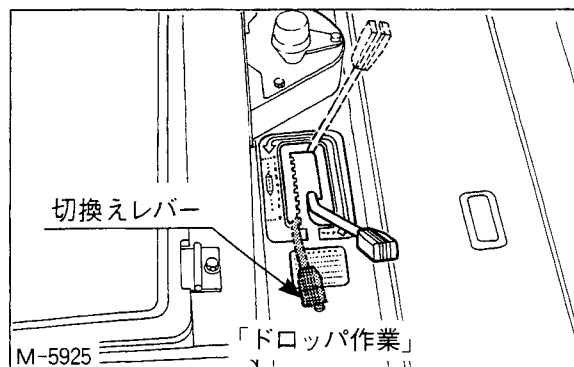
◆カッタ

ストoppaに当るまでワイヤを張ってください。



◆排ワラレール2

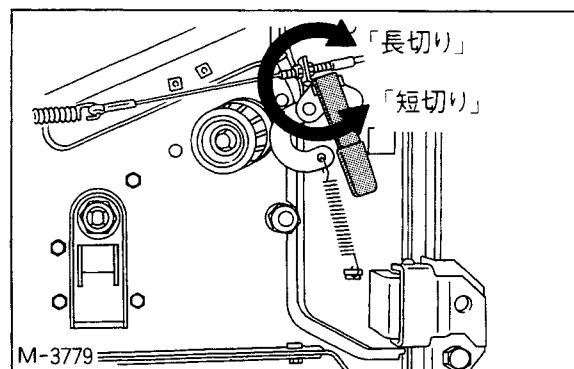
排ワラレール2の出代 (ドロppa作業の位置)	390~410mm
----------------------------	-----------



■切断長切換えのしかた

【SR₁-18C・SSR₁-18C】

サイドカバー内部の切換えレバーを回転させ、「短切り↔長切り」に切断ワラ長さを変えてください。



コンバインの簡単な手入れと処置

各部の点検と交換



注意

*オイル・冷却水の点検・交換と各部への注油及びバッテリーの取扱いについては、必ずエンジンを停止してください。

*** オイル交換中は火気厳禁。**

*刈取り部は上げたまま長時間経過すると下降することがありますので注意してください。

■注・給油(水)一覽表

○：点検・補給 △：交換

項 目 \ 時 期			毎 作 業 前	アワーメータ表示時間													参照 ページ	
				35	50	100	200	300	350	400	500	600	650	700	800	900		1000
エンジン部	燃 料	○															—	
	冷 却 水	○	冬期停止時は排出又は不凍液を入れること															42
	エ ン ジ ン オ イ ル	○	△		△	△	△		△	△	△		△	△	△	△	43	
走行部	トランスミッションケースのオイル			△	○	△	○		△	○	△		○	△	○	△	44	
	油圧オイルタンクのオイル				○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	44	
	バ ッ テ リ 液		作業シーズンの前後に点検・補給															45
刈 取	刈刃ギヤケースのオイル				○	○	○		○	○	○		○	○	○	○	45	
	引 起 し チ ェ ー ン	○															10	
	供 給 チ ェ ー ン (株 元 , 穂 先)	○															47	
り 部	搬 送 レ ー ル ピ ン	○															47	
	刈 刃	○															10	
	刈取りギヤケースのグリース		} 分解時に補給															46
供 給 ギ ヤ ケ ー ス の グ リ ー ス		46																
引 起 し 駆 動 ケ ー ス の グ リ ー ス		46																
脱 着 部	集 中 注 油 タ ン ク の オ イ ル	○															10	
	こ ぎ 胴 ケ ー ス の オ イ ル				○		○			○			○		○		46	
	フイードチェーン駆動ケースのオイル				○		○			○			○		○		46	
こ 脱 着 部	排ワラチェーン (株 元 , 穂 先)	○															47	
	フ ィ ー ド チ ェ ー ン	○															47	
	排ワラチェーンテンション支持部	○															47	
く 部	前 搬 送 チ ェ ー ン	○															47	
	排ワラベベルケースのグリース		} 分解時に補給															46
	縦スクリュベベルケースのグリース																	46
2 番 ベベルケースのグリース		46																
2 番 チェーンケースのグリース		46																

■ラジエータの冷却水の点検と交換

◆冷却水の補給

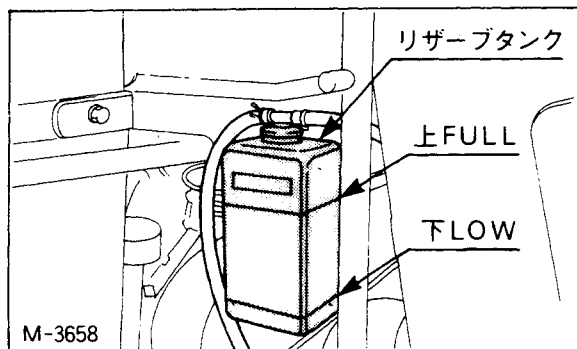
冷却水容量 (リザーブタンクは含まない)	4.0ℓ
リザーブタンク容量	0.6ℓ

ラジエータにはリザーブタンクが付いており、ラジエータ内の冷却水が少なくなると、リザーブタンクから自動的に補給される構造になっています。冷却水の量はリザーブタンク内の量を点検してください。

「FULLからLOWの間」であれば正常です。

通常は補給の必要はありませんが、リザーブタンクの冷却水がLOW以下の場合は、LOWとFULLのレベルの間まで補給が必要です。

FULL以上は入れないでください。



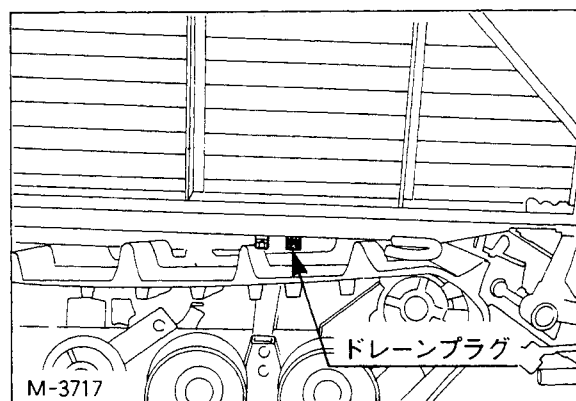
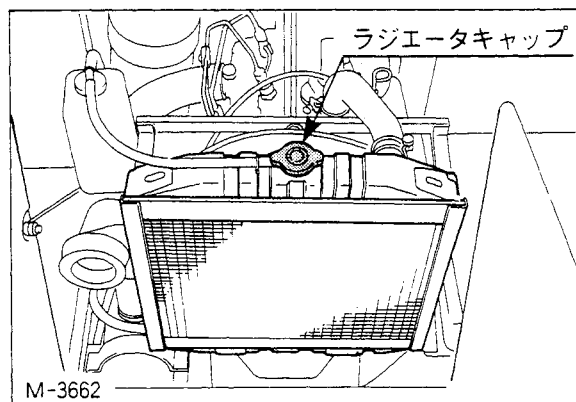
◆交換のしかた



注意

*ラジエータキャップやリザーブタンクは、エンジン運転中及び停止直後に開けると、熱湯が噴出することがありますので、停止後十分冷えてからにしてください。

- (1)ラジエータ下部のドレインプラグとラジエータキャップを開き、冷却水を全部出します。リザーブタンクの排水は、ラジエータキャップのオーバーフローパイプを外し排水します。



- (2)排水・洗浄後、給水するときは、ドレインプラグを閉め、ラジエータをいっぱいにし、リザーブタンクに適量給水してください。

◆不凍液の使い方

不凍液は水の凍結温度を下げる効果をもっており、冷却水凍結によるシリンダやラジエータの損傷を防ぎます。

冬期気温が0℃以下になるようなときは、必ず不凍液(ロングライフクーラント)を清水と混合し、ラジエータに補給するか、又は冷却水を完全に排水してください。

[工場出荷時は、不凍液(ロングライフクーラント)が入っています。]

重要

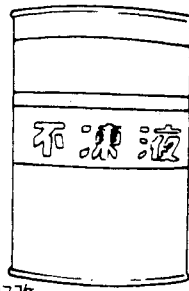
*冷却水には、不凍液(ロングライフクーラント)を35%入れ、よく水と混ぜ合わせてからお使いください。(北海道のみ50%)

*不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはオーバーヒートの原因になります。

*不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。

不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入するとスラッジが生成することがあり、エンジン部品に悪影響を与えます。

Z-1007改

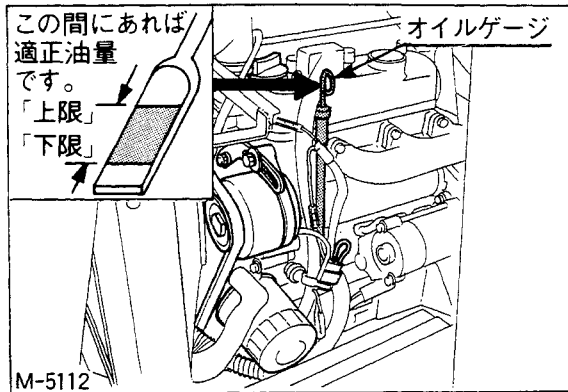


*クボタ不凍液(ロングライフクーラント)の有効使用期間は2年間です。

必ず2年で交換してください。

■エンジンオイルの点検と交換

◆点検とオイルの種類



気温	オイルの種類	オイル量
15℃ 以下の とき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D10W30	● 上限線 約5.1ℓ
15℃ 以上の とき	クボタ純オイル ディーゼルエンジン用 D30又はD10W30 (84ページ参照)	● 下限線 約3.5ℓ

クボタ純オイルの入手が困難な場合は、CC級以上のオイルをお使いください。

この場合は気温により下表のように使いわけてください。

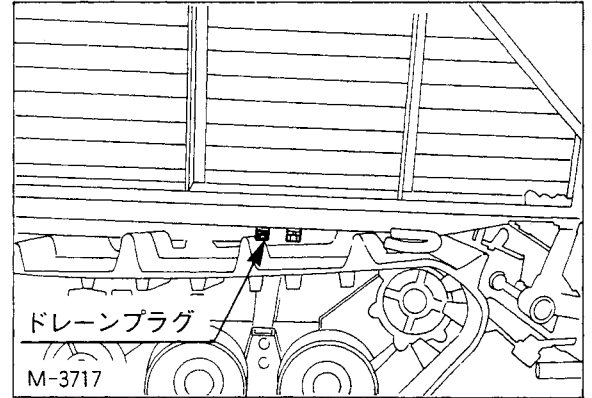
気温	オイルの種類
0℃以下	SAE10W又は10W-30
0～25℃	SAE20又は10W-30
25℃以上	SAE30又は10W-30

10W-30はオールシーズン用です。

◆排油のしかた

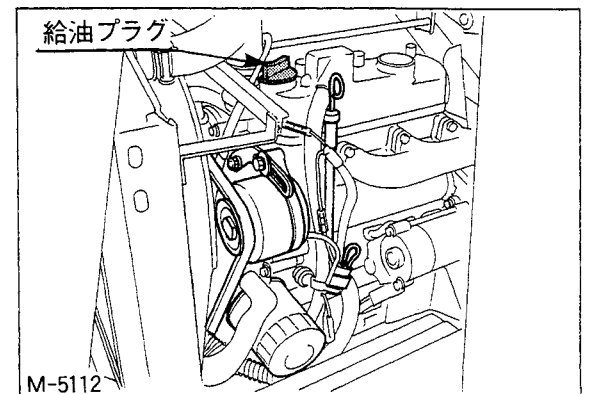
ドレーンプラグを外し、オイルを排出してください。エンジンの暖かいうちに排出しますと、オイルの流動性が良く早く抜取ることができます。

給油プラグを外すと、オイルが抜けやすいです。



◆給油のしかた

ドレーンプラグを締付けて、給油口から適正油量給油した後、給油プラグをきちんと締付けてください。(付属のジョウゴを使用してください)



■トランスミッションケースのオイル

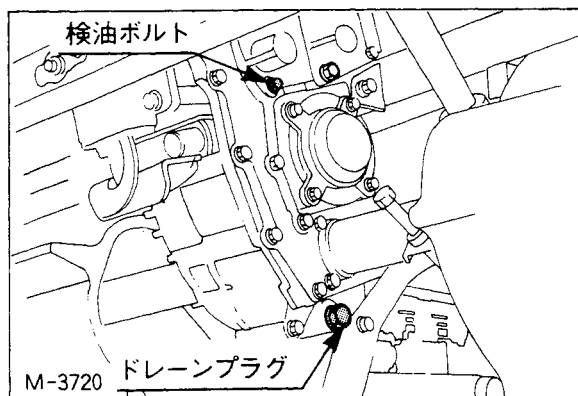


警告

※排油するときは、刈取り部を上げて刈取り部が下がらないように必ずパワーステアリングレバーのロックをし、さらに刈取り部の下に台をかませてください。

◆点検

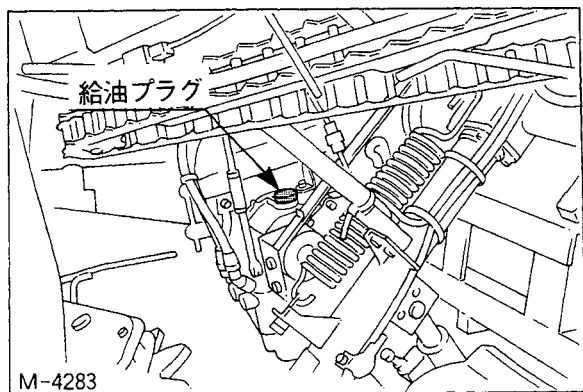
検油ボルトを抜き、オイルが出てくれば適正量です。不足のときは、給油口から付属のジョウゴを使用して補給してください。



◆交換

機体を丈夫なアユミ板の上に乗せて地面から高くし、ドレーンプラグ(M16)を外して古いオイルを排出します。給油は検油ボルト穴からオイルが出てくるまで、給油口から新しいオイルを入れてください。

オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルM80B (メーカー指定なし)又はUDT (コスモ・日石)	3.0ℓ



重要

※ミッションオイルを補給・交換するときは、給油口の回りをきれいにしてください。ミッションケース内にドコなどが混入すると故障の原因になります。

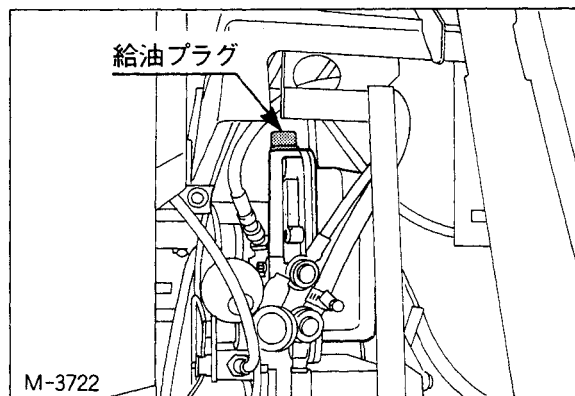
■油圧オイルタンクのオイル

給油プラグを外し、オイルゲージの油をふいてもう一度ねじ込んでから外したとき、オイルゲージの先端に油が付着しておれば適正、不足のときは給油口から補給してください。

オイルの種類	オイル量
クボタ純オイルM80B (メーカー指定なし)又はUDT (コスモ・日石)	1.2ℓ

重要

※刈取り部を下げた状態で検油してください。



■バッテリーの点検と交換



注意

※バッテリー液が身体や衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。

▶もし怠ると…

希硫酸によってヤケドすることがあります。

※バッテリーに火気を近づけたり、ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。

※バッテリーの点検及び取外し時には、エンジンを停止、メインスイッチを「切」にしてください。

◆バッテリー液の点検

バッテリーはMF(メンテナンスフリー)バッテリーを使用しておりますので、従来品に比べ液減りの度合いがきわめて少なくなっています。側面に2本の線(レベル)がありますので、その間に液面があればよく、少ないときは下記要領で上側の線(レベル)まで蒸留水を補給してください。

◆MF(メンテナンスフリー)バッテリーの補水のしかた

(1)バッテリー上フタの補水キャップ(6個)を外します。

2～3mmの丸棒を補水キャップの穴に入れて上に持上げるとキャップが外れます。

(2)6個の補水穴から蒸留水をまんべんなく上側の線(レベル)まで補水します。

(3)キャップを元の穴に押し込みフタをします。

バッテリーのバッテリー液が液面線の間にあるかどうか点検し、不足のときは精製水を補充してください。

重要

*バッテリー液が不足して極板が空气中に露出しますと、バッテリーの寿命は著しく短くなります。

*精製水を多く入れすぎるとこぼれ出て、機体を傷めます。必ず液面線内に入れてください。

*バッテリー液を補充する場合は、必ず精製水を補充してください。希硫酸・井戸水・泥水などは絶対に入れないでください。

*エンジンの始動がしにくくなったり、ライトが暗くなってきましたら、早めに補充電をしてください。

◆バッテリーの補充電

(1)充電は必ず本体からバッテリーを取出して行なってください。電装品や配線を傷めることがあります。

(2)充電は、バッテリーの⊕を充電器の⊕に、バッテリーの⊖を充電器の⊖に接続して、普通充電法で行なってください。

(3)大電流を通して短時間で充電する急速充電法を応急処置として行なったときは、作業後必ず補充電してください。

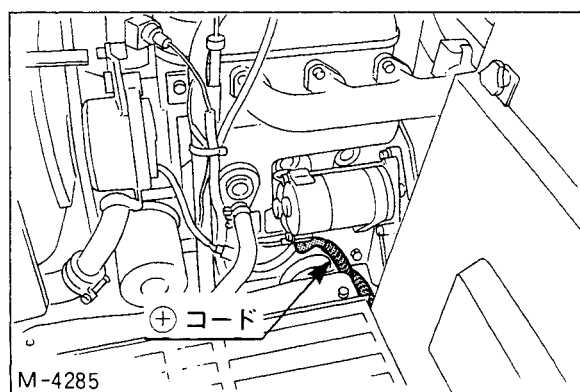
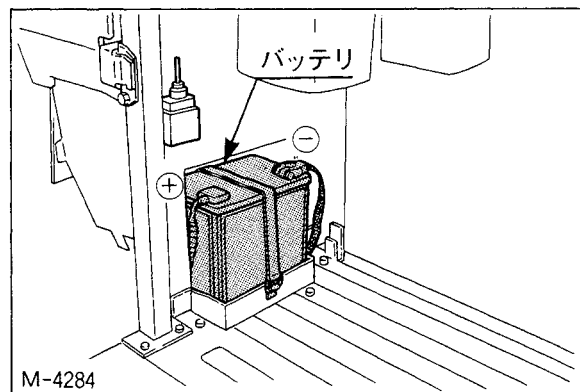
◆バッテリーの取外し、取付け方法

(1)バッテリーからコードを外す場合は、必ず⊖側から外してください。逆にすると、工具などが接触したときショートします。

(2)バッテリーを取付けるときは、⊕側を先に接続し、次に⊖側を接続してください。

(3)バッテリーコードを接続するときは、⊕と⊖を間違わないようにしてください。間違えると、電気系統の故障の原因になります。

(4)使用しているバッテリーの形式は「50B24L-MF」です。指定外のバッテリーは使用しないでください。

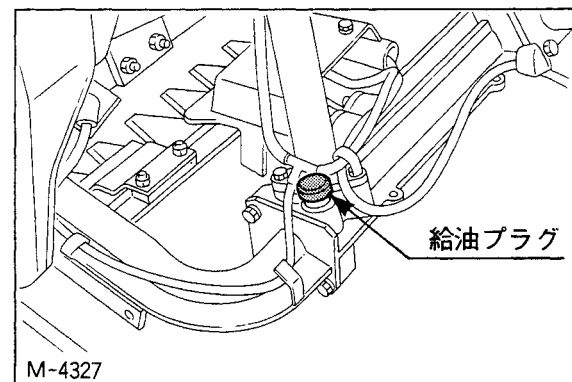


(5)⊕⊖のコードを元どおりの配線にしてください。⊕コードは他部品の鋭利な角に触れないよう、確実に上図に示すように配線して組付けてください。

■刈刃ギヤーケースのオイル

刈取り部の下降位置で給油プラグのオイルゲージに油が付着すれば適正量です。

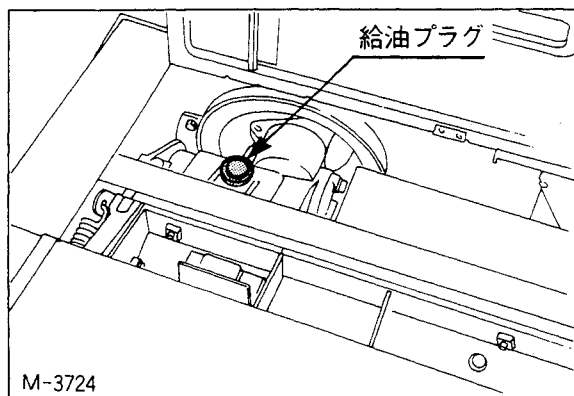
オイルの種類	オイル量
クボタ純オイル M90又はM80B	0.8ℓ



■こぎ胴ケースのオイル

給油プラグを外して、オイルが入っているか点検してください。

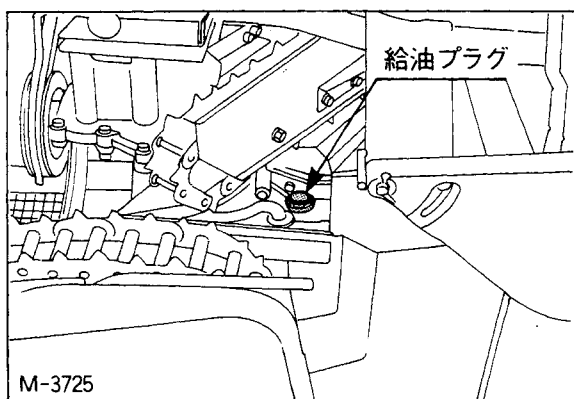
オイルの種類	オイル量
クボタ純オイル M90又はM80B	0.3ℓ



■フィードチェーン駆動ケースのオイル

給油プラグを外して、オイルが入っているか点検してください。

オイルの種類	オイル量
ギヤーオイル M90又はM80B	0.3ℓ



■各部グリースの補給

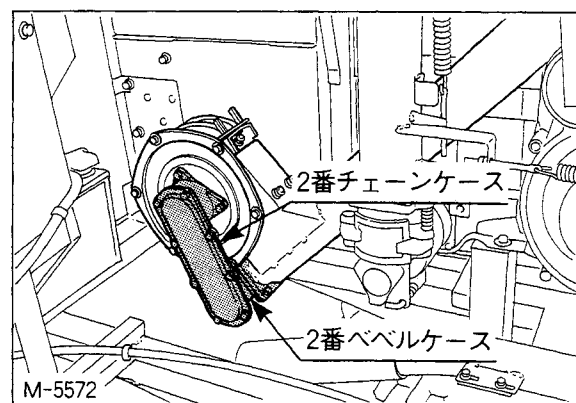
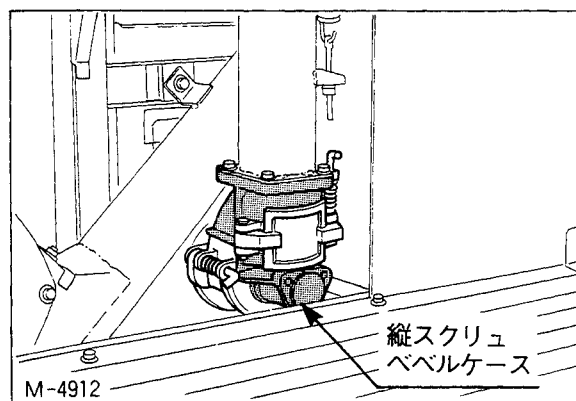
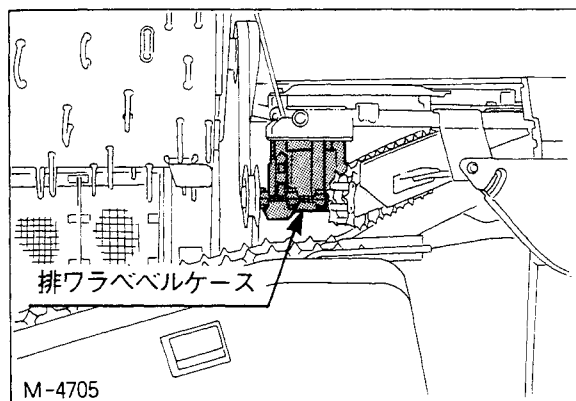
分解時にクボタスベアグリースを補給してください。

◆刈取り部

1. 刈取りギヤーケース (50g)
2. 供給ギヤーケース (150g)
3. 引起し駆動ケース (7カ所) (各50g)

◆脱こく部

1. 縦スクリュベベルケース (50g)
2. 排ワラベベルケース (30g)
3. 2番ベベルケース (15g)
4. 2番チェーンケース (50g)



■毎作業前注油箇所



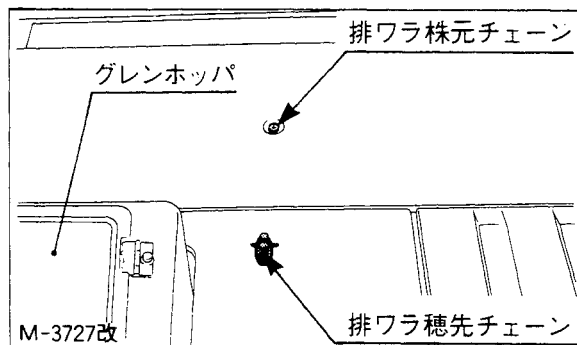
注 意

* 油差しで注意する場合は必ずエンジンを止めて行なってください。

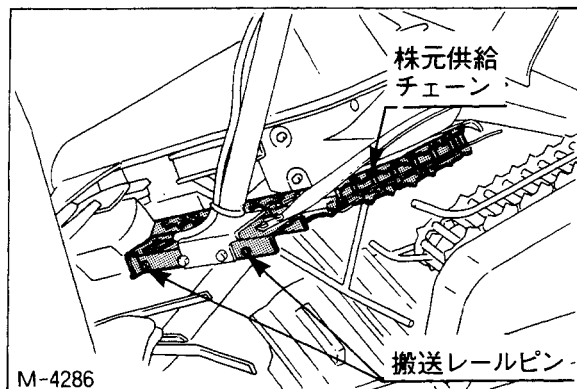
◆排ワラ穂先チェーン、排ワラ株元チェーン

重 要

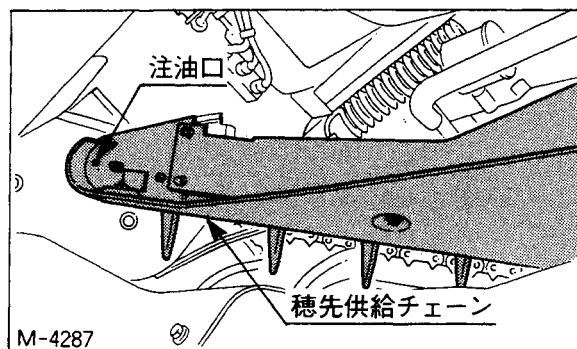
* オイルはディーゼルエンジンオイルD10W30またはD30を使用してください。



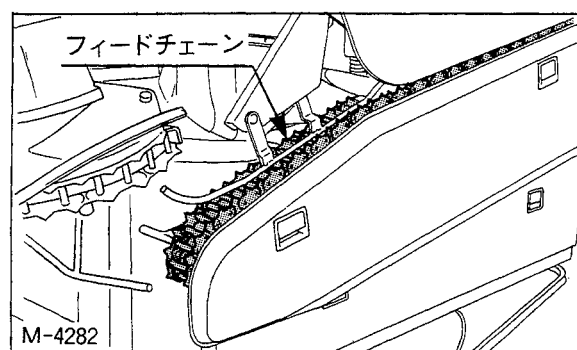
◆株元供給チェーン、搬送レールピン



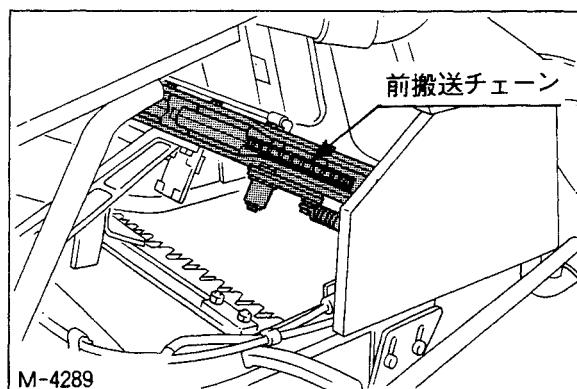
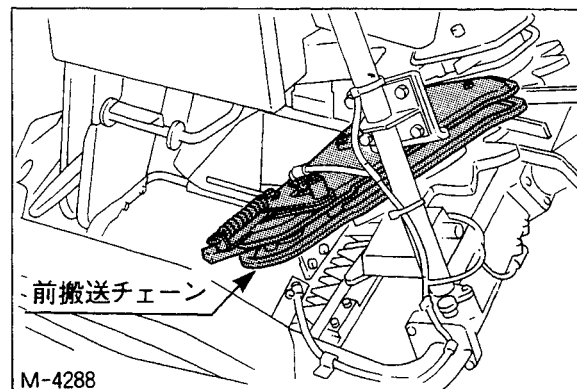
◆穂先供給チェーン



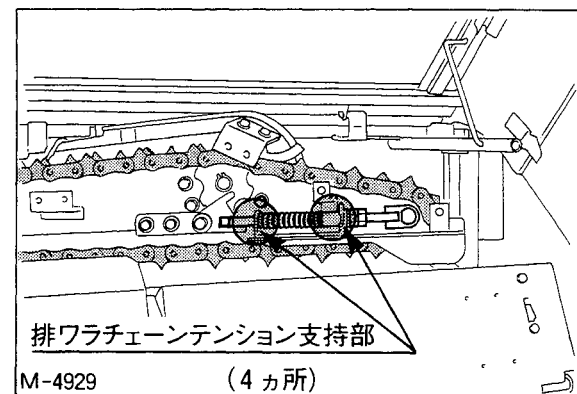
◆フィードチェーン



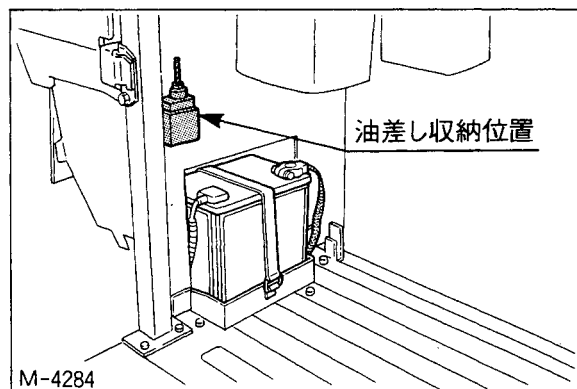
◆前搬送チェーン



◆排ワラチェーンテンション支持部



◆油差し収納位置



補 足

* 注油は、刈取り部および脱穀部をゆっくり回転させて注油してください。

メンテナンス

定期点検と処置



警告

* 取外した回転部のカバー類は、衣服などが巻き込み危険ですので、必ず取付けてから作業をしてください。



注意

* 各部の調整・点検・交換を行なうときは、エンジンを必ず止め、各レバー類を「切」にして、回転部を止めてから作業をしてください。

* 運転中および停止直後は、ラジエータの圧力キャップを絶対に開けないでください。熱湯が吹出してヤケドをすることがあります。

* エンジンルームを開けて点検・整備するときは、次の手順に従ってください。

① エンジンを停止する。

② エンジン停止後30分以上経過してから開ける。

③ 点検・整備で内部に触れるときは、ヤケドの危険性がないことを確認する。

エンジンが冷えていないとき、エンジンルームを開けるとラジエータ部、リザーブタンク部等より熱湯が吹出したり高温部に接触してヤケドする恐れがあります。

* オイル交換中・バッテリー点検・交換中は火気厳禁。

*刈取り部は上げたまま長時間経過すると下降することがありますので注意してください。

重要

* ベルト類は亀裂または帆布のはがれたとき必ず交換してください。

* 専門的な技術や特殊な工具を必要とするときは、販売店・JA農協・弊社支店または(株)クボタアグリにご相談ください。

補足

定期点検は、下記の時間ごと(○, または△印)に整備をしてください。

定期点検一覧表は一般的な目安です。異常を感じたときはその都度、調整をしてください。

下記の項目について処置をしたら、印をつけてください。

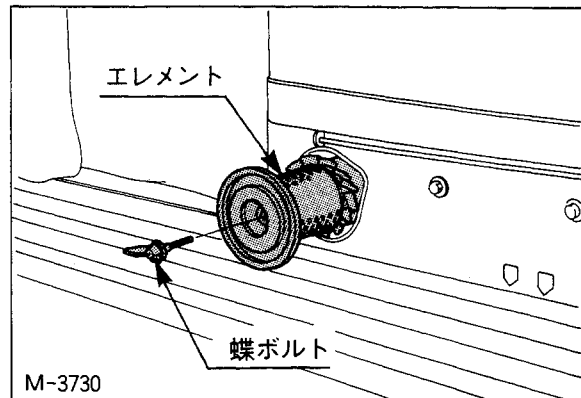
○印は点検, 調整, △印は交換をしてください。

項 目		時 期		アワーメータ表示時間																	2 参照			
		35	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850	900	950	1000	年	ページ
エンジン部	エアークリーナエレメントの清掃と交換		○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	○		50
	燃料系ゴムホースの点検と交換				○			○			○			○			○			○			△	50
	排油チューブの点検と交換				○			△			○			△								△	△	50
	燃料フィルタの清掃と交換			○		△		○		△		○		△		○	△		○	△			51	
	フューエルフィルタアッシ2の交換					△			△					△			△					△	51	
	エンジンオイルフィルタカートリッジの交換					△			△					△			△					△	51	
	ラジエタホースの締付け点検と交換					○			○					○			○					○	△	50
	ラジエタの点検			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		52
	防じん網,ラジエタフィンの清掃		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		52
	アクセルワイヤの調整				○			○			○			○			○			○				53
	ファン駆動ベルトの点検と交換		○		○		△	○		○		△				△						△		55
	燃料コシ網の清掃			○		○		○		○		○		○		○		○		○		○		—
走行・操作部	バッテリーの充電	エンジンの始動が不能となったとき																				44		
	電気配線の点検,ヒューズの交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	52	
	パワーステアリングレバー(サイドクラッチ)の調整,ワイヤの交換		○		○		△		○		○	△		○		△		○		○	△		53	
	パワーステアリングレバー(刈取り昇降)の調整	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○			53	
	ワイヤハーネス,バッテリー⊕コードの点検と交換	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	53	
	駐車ブレーキレバーの調整		○	○		○		○		○		○		○		○		○		○		○	54	
	駐車ブレーキの調整	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	54	
	クローラの張り調整と交換		○		○		○		○		○	△		○		○		○		○		△		54
	刈取り駆動ベルトの調整と交換	○		○		○		○		○		△		○		○		○		○		△		55
	脱こく駆動ベルトの調整と交換	○		○		○		○		○		△		○		○		○		○		△		55
	走行ベルトの張り調整と交換	○		○		○		○		○		△		○		○		○		○		△		55
	ベルトの点検と交換	○		○		○		○		○		△		○		○		○		○		△		56
足回りシールの交換																								

項 目		時 期	アワーメータ表示時間																		2 年	参照 ページ			
			35	50	100	150	200	250	300	350	400	450	500	550	600	650	700	750	800	850			900	950	1000
脱 こ く 部	こぎ胴駆動ベルトの張り調整と交換	○		○		○		○		○		△		○		○		○		○		△		56	
	揺動, 1 番駆動ベルトの張り調整と交換	○		○		○		○		○		△		○		○		○		○		△		56	
	2 番, チェーン駆動ベルトの張り調整と交換	○		○		○		○		○		△		○		○		○		○		△		56	
	排ワラ駆動ベルトの張り調整と交換	○		○		○		○		○		△		○		○		○		○		△		56	
	受網揺動駆動ベルトの張り調整と交換	○		○		○		○		○		△		○		○		○		○		△		55	
	フエードチェーンの張り調整		○		○		○		○	△		○		○		○		△		○		○		57	
	排ワラ株元チェーンの張り調整と交換		○	○		○		△		○		○		△		○		○		△		○		56	
	排ワラ穂先チェーンの張り調整と交換		○	○		○		△		○		○		△		○		○		△		○		58	
	排ワラ穂先搬送爪の交換				△		△		△		△		△		△		△		△		△				—
	ワラ切り刃の交換					△		△		△		△		△		△		△		△		△		60	
カ タ 部	カッタ駆動ベルトの張り調整と交換	○		○		△		○		△		○		△		○		△		○		△		35	
	円板カッタ刃の交換				△		△		△		△		△		△		△		△		△		37		
	排ワラ切換えワイヤの調整と交換		○	○		○		○		○		△		○		○		○		○		△		40	

■エアークリーナの清掃

エレメントの清掃は、エレメントの内側から空気を吹きつけるか、又は軽く振ってゴミを取除いてください。カーボンや油分が付着しているときは、クボタ指定の純正エレメント洗浄剤で洗浄してください。



【参考】

*エレメント洗浄剤
ND-1500(日本ドナルドソン製)

重要

- (1)清掃時は必ずエレメントの注意書を参照してください。
- (2)高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。

■パイプ・ホース類の点検



注意

- * 燃料系ゴムホースが破損していると、燃料漏れを起
します。必ず点検しましょう。**
- ▶もし急ると……**
- 火災など傷害事故を引起します。**
- * 運転作業中ラジエータホースが外れると、熱湯が噴
出して危険です。**
- * 排油チューブが破損していると、エンジンが焼付を
起します。**

燃料系ゴムホースや排油チューブなどのゴム製品は、使わなくても老化する消耗品です。締付けバンドと共に2年ごと又は傷んだときには新品と交換する必要があります。

- (1)パイプ・ホース類が傷んだり締付けバンドがゆるんでいないか常に注意してください。
- (2)排油チューブも忘れずに点検してください。

重要

- *交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。ゴミが入ると、噴射ポンプの作動不良の原因になります。

◆ラジエータホースの点検

(1)ラジエータホースの締付け点検は、200時間運転ごと又は6カ月ごとに行なってください。

1. 締付けバンドがゆるんでいたり、水漏れのある場合はバンドを確実に締付けてください。
2. ラジエータホースが膨れたり、固くなったり、ひび割れしているときにはホースを交換し、バンドを確実に締付けてください。

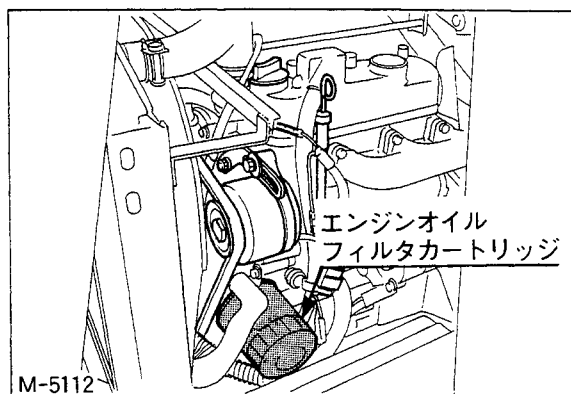
(2)2年ごとにラジエータホース及びバンドを交換してください。

それ以前でもチェックしたとき、ラジエータホースが膨れたり、固くなったり、ひび割れしていれば交換してください。

■エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

(1)200時間ごとに販売店・J A農協で、専用工具で交換してください。

(2)新しいカートリッジはOリングにオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で確実に締付けます。



(3)オイルフィルタカートリッジを交換すると、オイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。

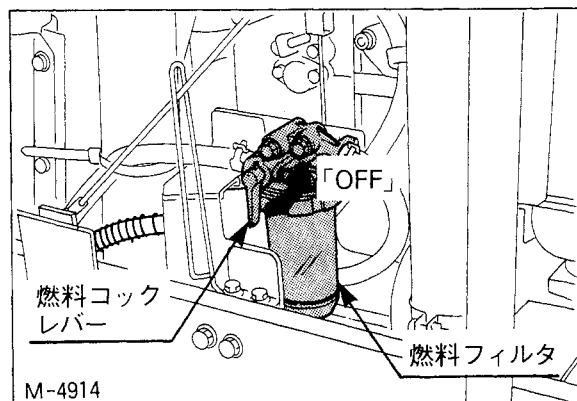
オイルゲージの上の刻線までオイルを補給した後、5分程度エンジンを運転して各部および油圧(オイルランプ)に異常がないことを確認してから、エンジンを止め、再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確かめておいてください。

■燃料フィルタの清掃

運転時間が約100時間ごとに、燃料こし器の洗浄を行なってください。

エンジンルームをオープンして、次の方法で洗浄を行なってください。

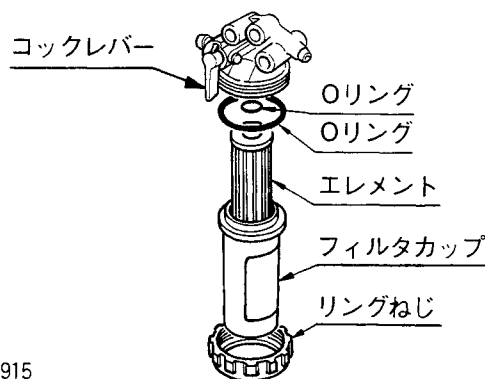
①燃料フィルタのcockレバーを「OFF」にします。



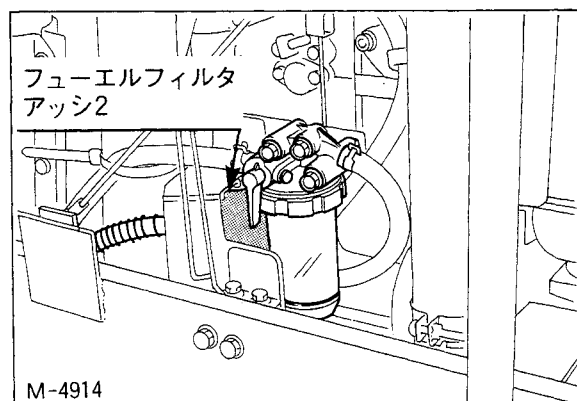
②本体を垂直にして、燃料をこぼさないようリングねじをゆるめ、カップを外し、内部を軽油で洗浄します。

③エレメントを取出し、軽油につけてすすぎ洗いをします。目詰まりがひどい場合は交換してください。

④洗浄がすむと、チリやホコリがつかないようにして、元のように正しく組付けます。



⑤燃料フィルタに燃料がなくなるときは、フューエルフィルタアッシ2が目詰まりしています。新しいものと交換してください。

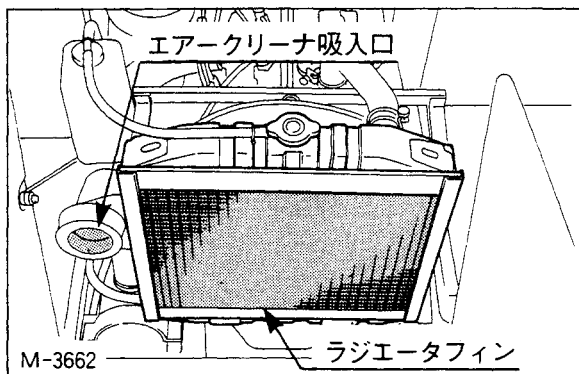
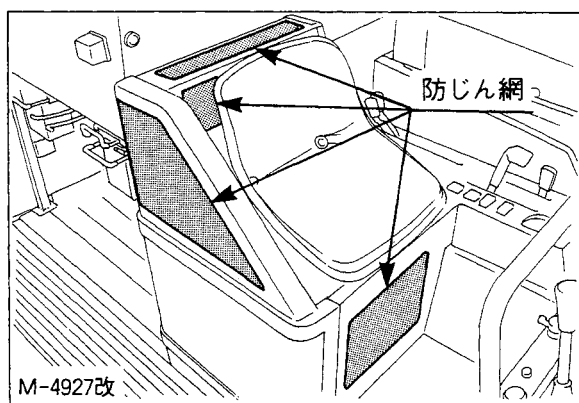


重 要

- *燃料内にチリやホコリなどが混入すると、燃料ポンプや噴射ノズルが摩耗します。
- *清掃は、燃料タンクを満杯にする前に行なってください。
- *燃料フィルタが目詰まりすると、エンジン出力がなくなることがありますので、フィルタを交換してください。(洗浄では短時間しか効果がありません。)

■ラジエータ吸気部の清掃

オーバヒート警報(警笛)が鳴るときは、防じん網とラジエータフィンがワラくずで詰まっていますので、圧縮空気か水道水などで清掃してください。

**重 要**

- *ヘラやドライバなど固いもので清掃しないでください。ラジエータフィンを傷め、ラジエータの機能を低下させる原因になります。
- *エアークリーナの吸入口には絶対水をかけないでください。エンジン不調又は破損の原因となります。

■電気配線の点検、ヒューズの交換

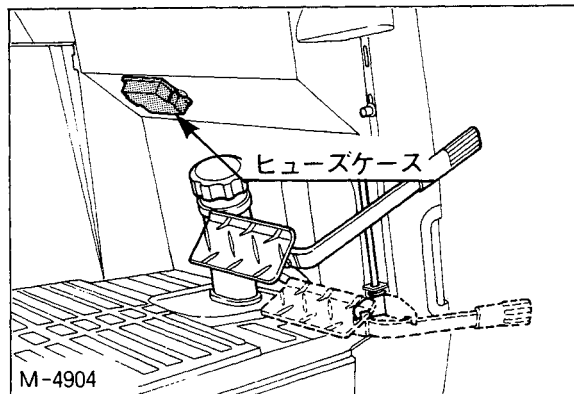
配線のターミナル(端子)部のゆるみは接続不良になり、また配線が損傷していると電気部品の性能を損なうだけでなくショート(短絡)、漏電又は焼損など思わぬ事故になることがあります。傷んだ配線は早めに交換・修理してください。

重 要

- *ヒューズを交換してもすぐ切れてしまう場合は、ショートしているおそれがあり針金や銀紙などで代用せず、販売店かJA農協で点検、修理してください。

◆ヒューズの交換

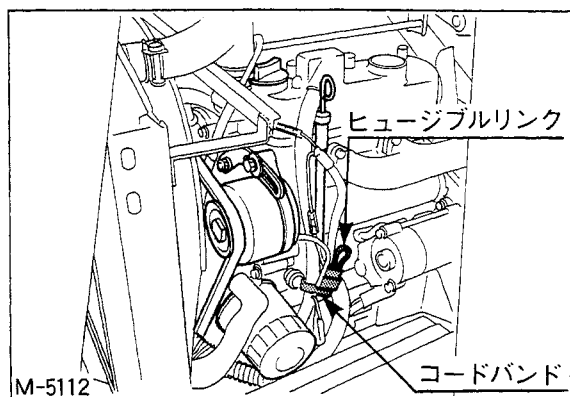
- ①ヒューズケースのふたを外します。
(ヒューズケースのふたは、⊖ドライバなどを差し込んで開いてください)
- ②ヒューズを外します。
- ③切れたものと同容量のヒューズと交換します。



	容 量	受けもっている回路
①	20A	かき込みモータ
②	20A	こぎ深さモータ
③	30A	オプション
④	20A	方向ソレノイド
⑤	10A	マイコン、パネル
⑥	30A	脱穀
⑦	10A	本機
⑧	15A	ライト、フラッシャ
⑨	10A	脱穀制御
⑩	20A	マイコン、AES

予備ヒューズは、30A 1本、20A 1本、10A 1本が入っております。

◆ヒューズブルリンクの交換



ヒューズブルリンクは、コードバンドで確実に組付けて他の部品と当たらないようにしてください。

また、ヒューズブルリンクは、配線を保護するためのものですので、もし切れた場合は、必ず切れた原因を調べ、決して代用品を使用せず、純正部品を使用してください。

■ワイヤハーネス、バッテリー⊕コードの点検・交換



注意

- *点検・交換時はエンジンを止めてください。
- *ワイヤハーネス及びバッテリー⊕コードが損傷していると、ショートを起こすので必ず点検してください。
- ▶もし怠ると……
- 火災、損傷の危険があります。

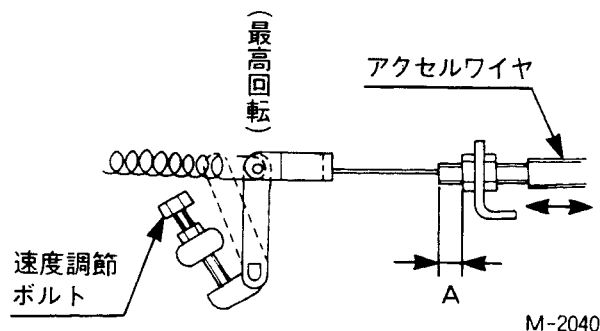
ワイヤハーネス、バッテリー⊕コードの被覆は、各部の角に接触、ネズミのかじりなどにより、損傷したり自然劣化することがありますので、下記項目について定期的に点検してください。

- (1)ワイヤハーネスの損傷およびクランプのゆるみがないこと。
- (2)ターミナル・ブロック(ソケット)の接続部のゆるみがないこと。
- (3)各スイッチが確実に作動すること。

■各部の調整

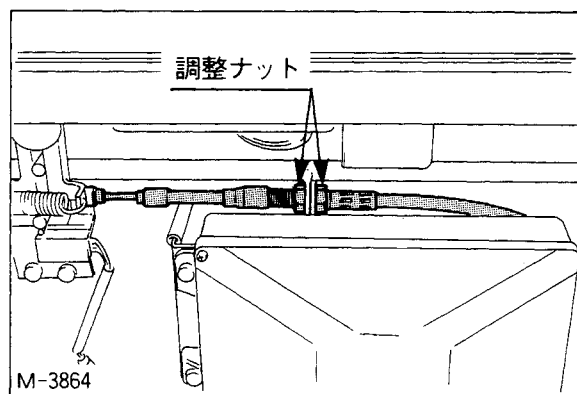
◆アクセルワイヤ

規定の回転数が得られない場合、アクセルレバーが最高回転位置のとき、エンジンの速度調整レバーが、速度調整ボルトの先端に密着し、アクセルレバーが低速位置のとき、エンジンが約1000rpmになるように、ワイヤアジャスト金具で、A寸法を調節してください。



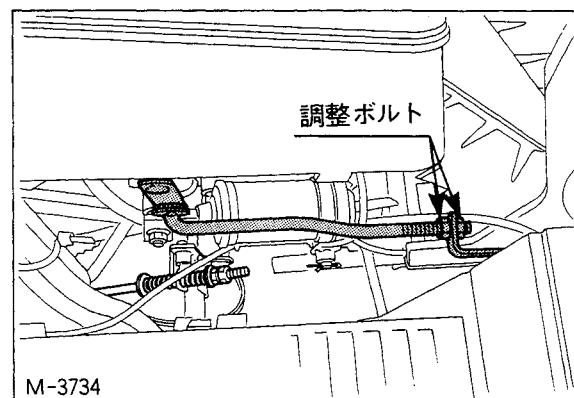
◆パワーステアリングレバー〔サイドクラッチ〕

パワーステアリングレバーが中立のときパルブレバーが中立の位置にくるようワイヤを調整してください。



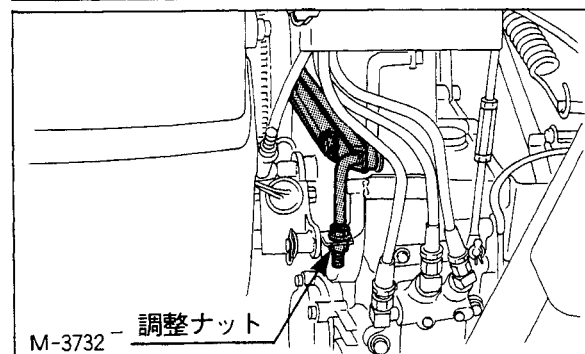
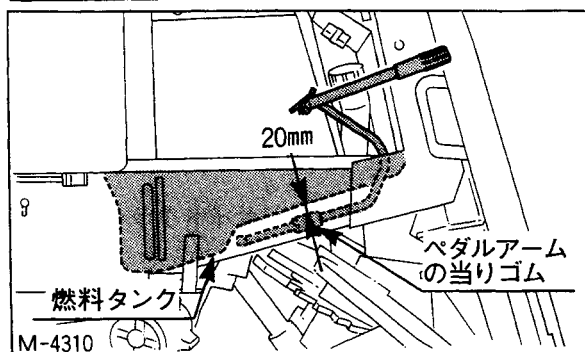
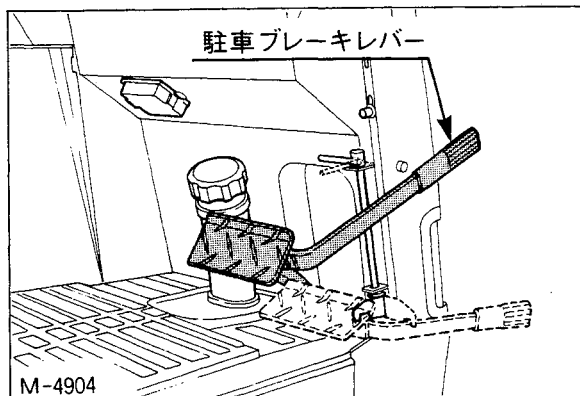
◆パワーステアリングレバー〔刈取り昇降〕

パワーステアリングレバーを操作したとき、昇降スピードが遅いとき、又は昇降できないときは、調整ボルトで調節してください。



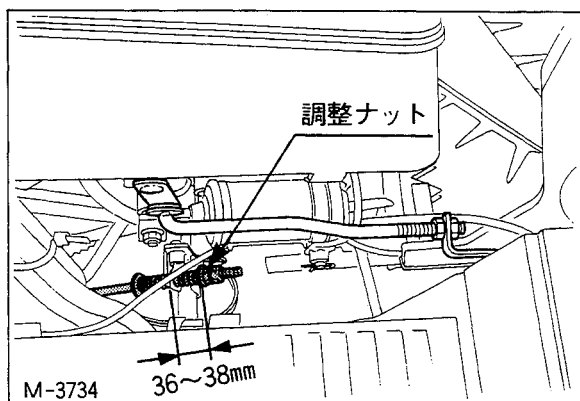
◆駐車ブレーキレバー

ペダルのアームが燃料タンクから20mmはなれるようナット位置を調整してください。



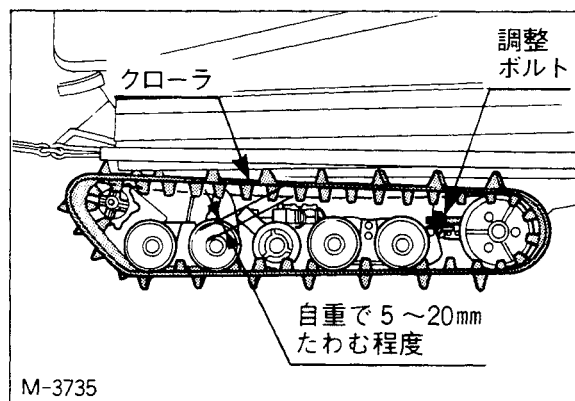
◆駐車ブレーキ

駐車ブレーキレバーをフック部にかけた状態で、下図の寸法になるよう、調整ナットで調整してください。調整後、駐車ブレーキが正常に作動するか再確認してください。



◆クローラの張り

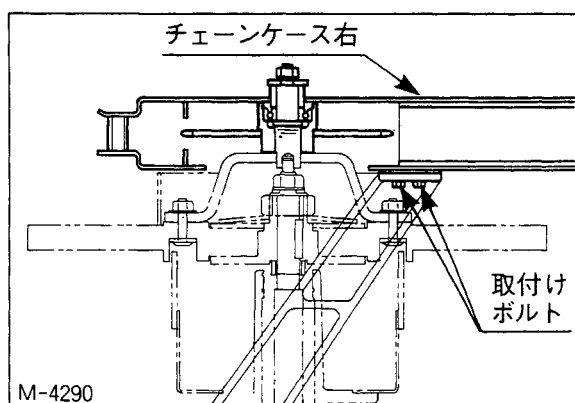
自重で5~20mmたわむ程度が適当です。左右のクローラの張りが同じになるようにしてください。



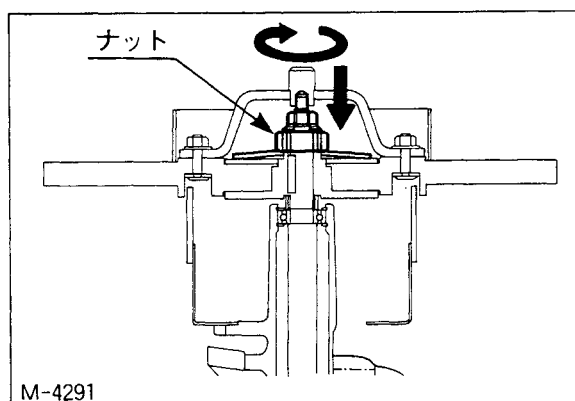
■トルクリミッタの調整

トルクリミッタはパッカ駆動軸1に組付けてあり、パッカに過負荷がかかるとクラッチがスリップし、パッカの回転を止めて機械の破損を防止する安全装置です。パッカのトルク調整は次の要領でトルク10~12kgf・mに設定してください。

①チェーンケース右を外します。



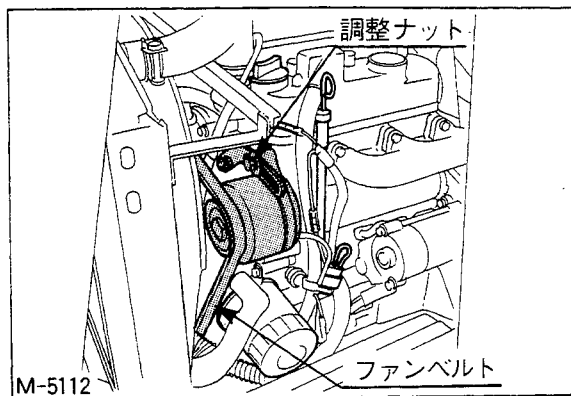
②ナットをゆるんだ状態から手でいっぱいに締め、更に2回転スパナで締め込みます。



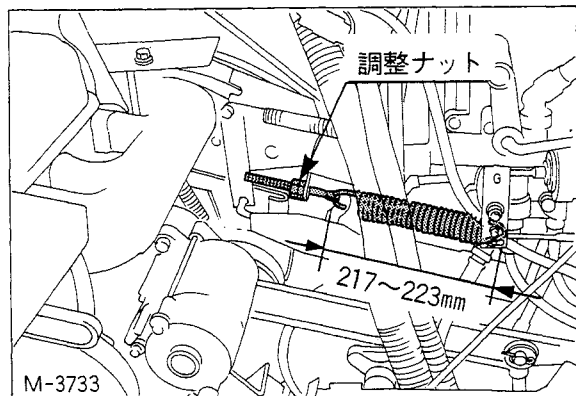
■各部ベルトの張り調整

◆ファン駆動ベルトの張り

ベルトの中央部を指先で押さえ、約7mmたわむのが適正です。たわみが大きい場合は、調整ナットをゆるめて、ベルトを張ってください。

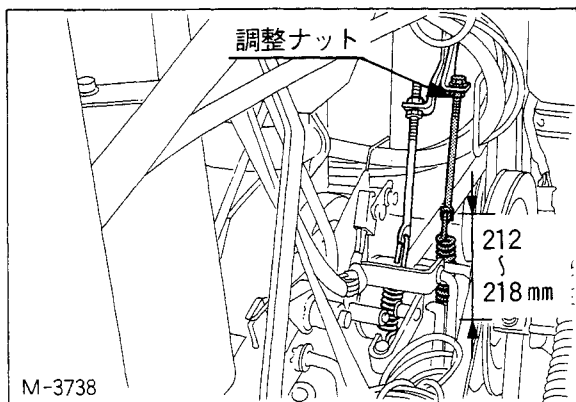


◆走行ベルトの張り



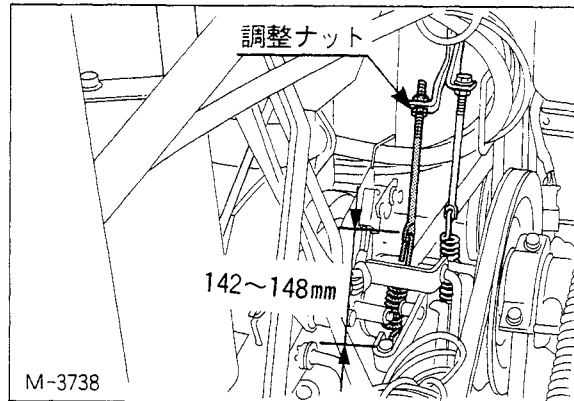
◆脱こく駆動ベルト

脱こく駆動ベルトがスリップするときは、脱こくクラッチレバーを「入」にして、スプリング長さが212～218mmになるよう調整ナットを締めてください。

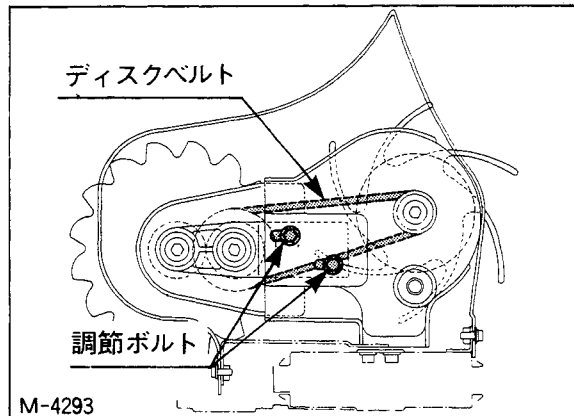


◆刈取り駆動ベルト

刈取り駆動ベルトがスリップするときは、刈取りクラッチレバーを「入」にして、スプリング長さが142～148mmになるよう調整ナットを締めてください。

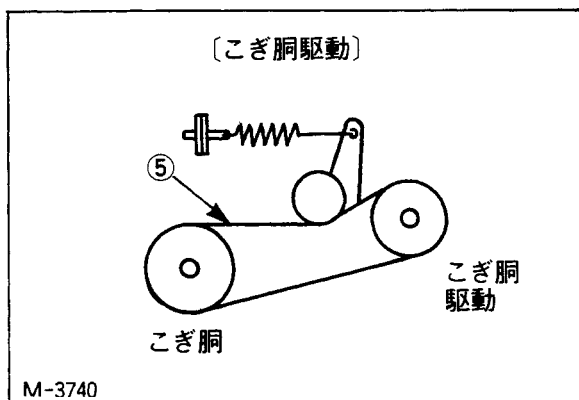
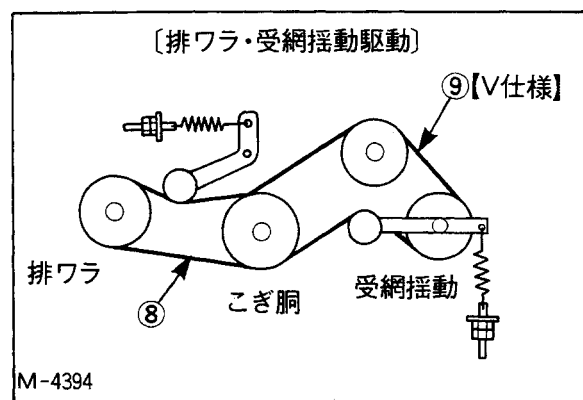
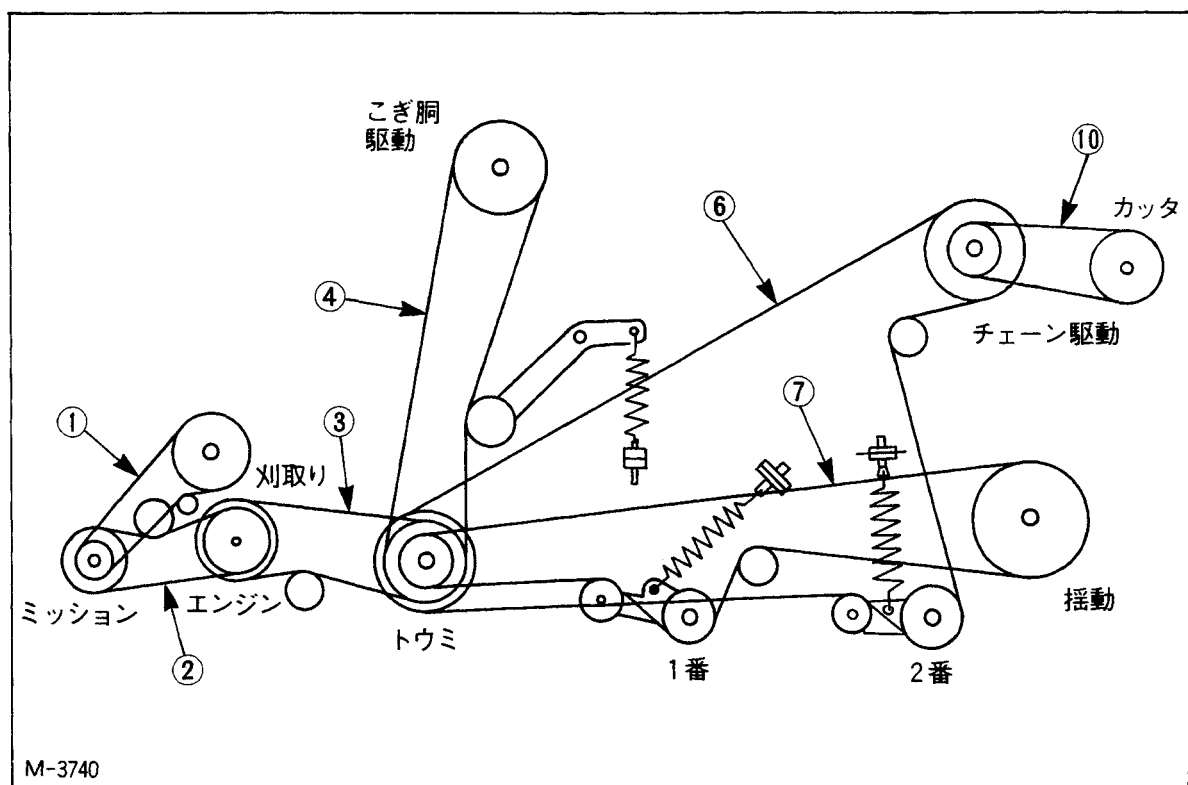


◆ディスクベルト



◆各部のベルトサイズ

No.	ベルトの名称	サ イ ズ		スプリング取付け長さ (寸法はフック内側間)
		R ₁ -211A	R ₁ -211A-V	
エンジン 周辺部	① 刈取り駆動ベルト	特B48.5		142～148mm
	② 走行ベルト	特C46		217～223mm
	③ 脱こく駆動ベルト	特C61.5		212～218mm
脱 こ く 部	④ こぎ胴駆動ベルト	特C81		180～185mm
	⑤ こぎ胴駆動ベルト	特B53×2		150～155mm
	⑥ 2番,チェーン駆動ベルト	特B113		178～183mm
	⑦ 揺動,1番駆動ベルト	特B94		175～180mm
	⑧ 排ワラ駆動ベルト	特B36		150～160mm
	⑨ 受網揺動駆動ベルト【V仕様】	—	特B45.5	114～119mm
カッタ 部	⑩ カッタ駆動ベルト	特B51		スプリングの掛かえ



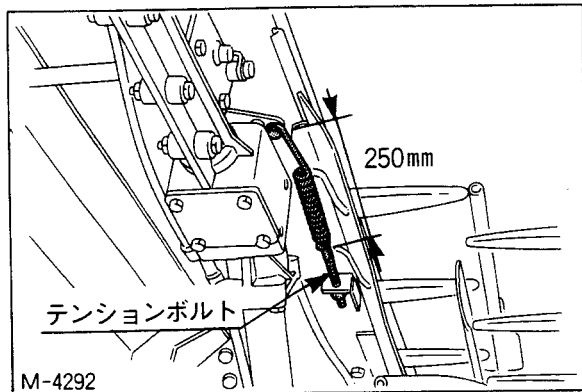
■各部チェーンの張り調整

チェーンの動きが円滑でないときは、駆動スプロケットが飛び越していますので、チェーンを張ってください。

重要

*チェーンが修正限度以上にゆるみますと、チェーン切損の原因になります。

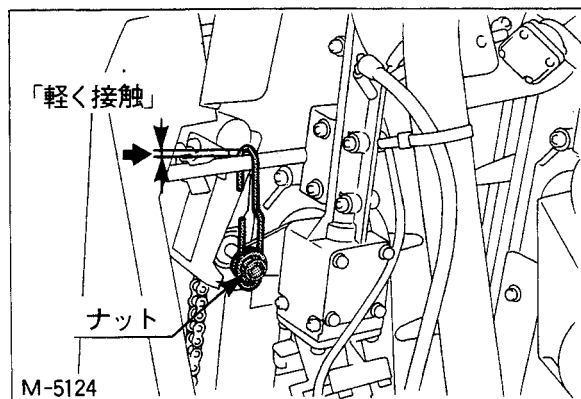
◆引きしチェーン



◆フック(引きし)の調整

引きしチェーンの伸びによって、フック(引きし)と引きしホルダにすき間ができてきます。

8mm以上になったら、ナットをゆるめて、フックをホルダに軽く接触するまで下げてください。

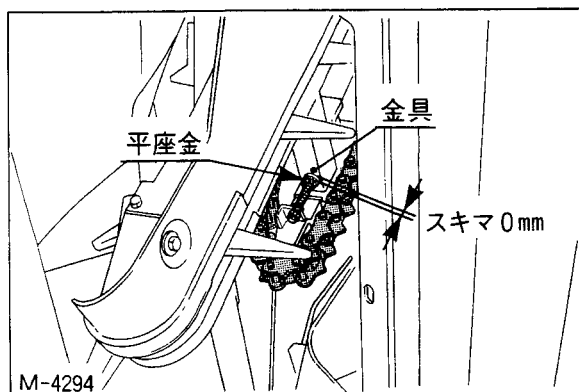


重要

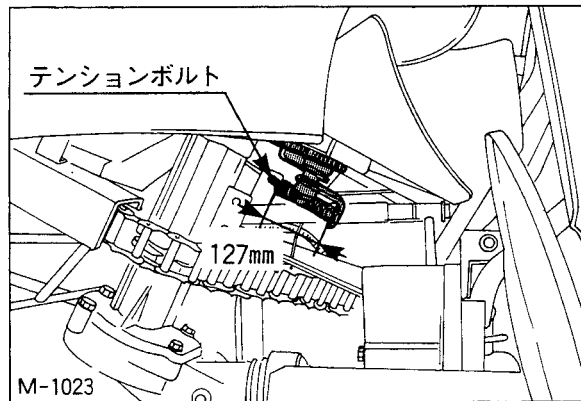
*フックは左右に傾かないようにしてください。

◆株元供給チェーン

平座金が金具に軽く当たるまで調整します。



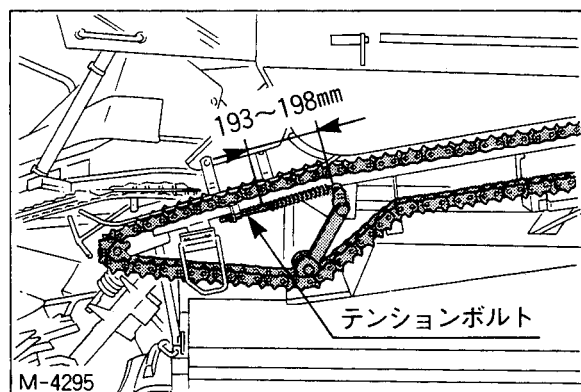
◆穂先供給チェーン



重要

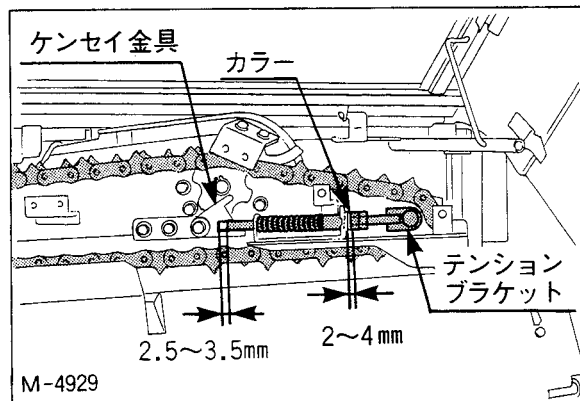
*チェーンが伸びてテンションが効かなくなったときは、チェーンの半コマを抜いてください。

◆フィードチェーン



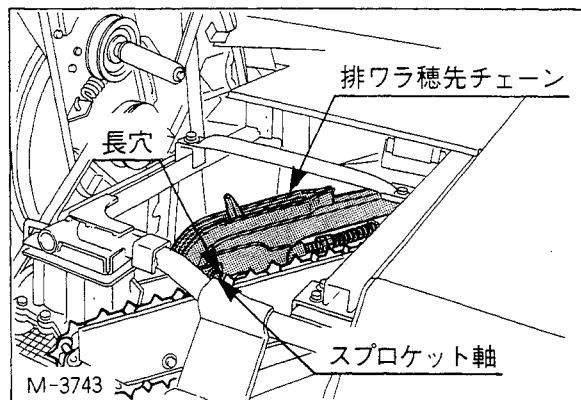
◆排ワラ株元チェーン

カラーの出代を2~4mmに調節後、テンションブラケットとケンセイ金具のすき間を2.5~3.5mmになるように調整してください。



◆排ワラ穂先チェーン

スプロケット軸が長穴の端部まで動いたら自動テンションが効きません。チェーンの半コマを抜いてください。



■カッタ刃の調整・交換

重要

*カッタ刃の調整・交換は販売店又はJ A農協に依頼してください。

◆円板カッタ刃の交換

約150時間使用ごとに交換してください。
交換に際しては37ページを参照してください。

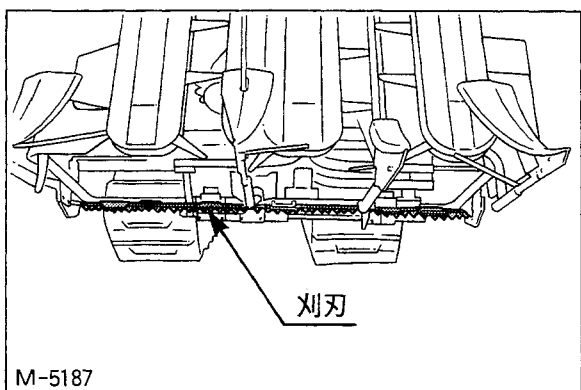
■刈刃の調整・交換



注意

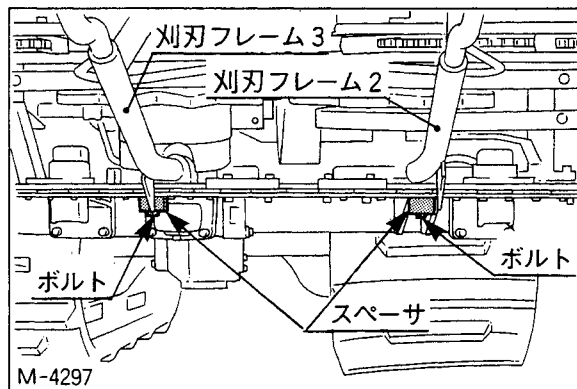
*刃部に手を掛けしないでください。
不用意に刃が動くと危険です。

◆刈刃の調整



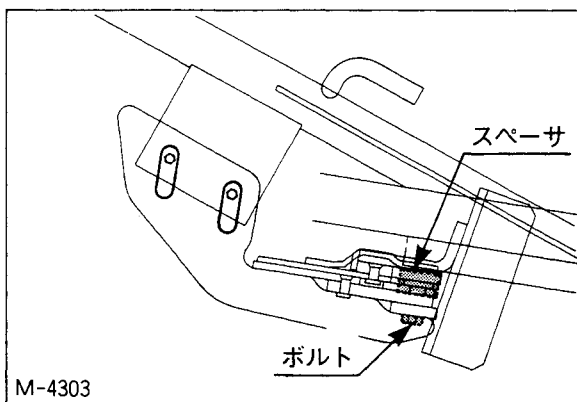
- ① 刈刃フレーム 2・3 に締付けているボルト 2 本を外します。

(※スペーサが 2 個あるため、紛失しないください。)

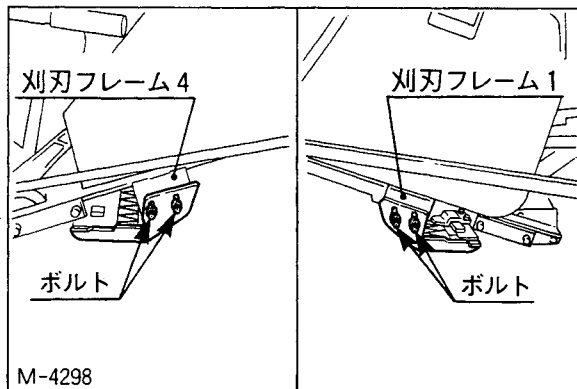


[参考]

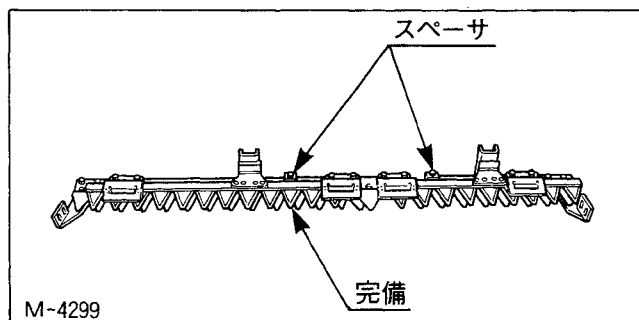
●低刈りをする場合は、スペーサを上位置に付替えてください。(下図参照)



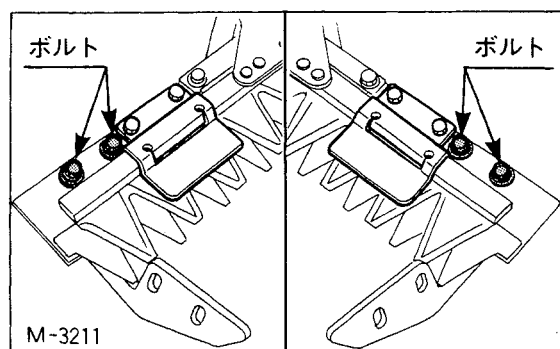
- ② 刈刃フレーム 1・4 に締付けているボルト 4 本を外します。



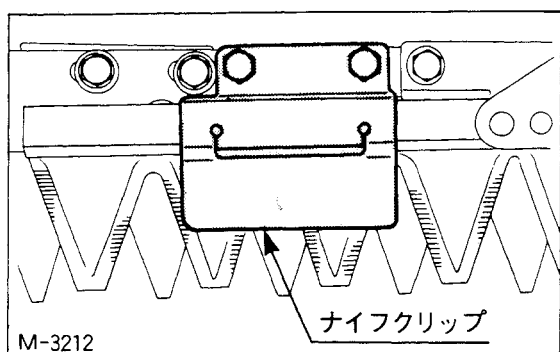
- ③ 刈刃と刈刃サポートが完備で、刈取り部より外れます。



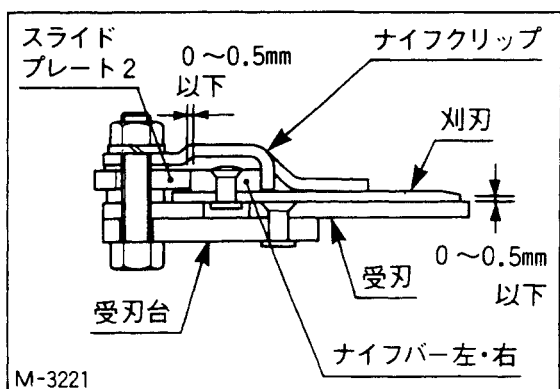
- ④ 刈刃サポート右・左を取付けているボルト各2本を外します。



- ⑤ 受刃台からナイフクリップを外します。

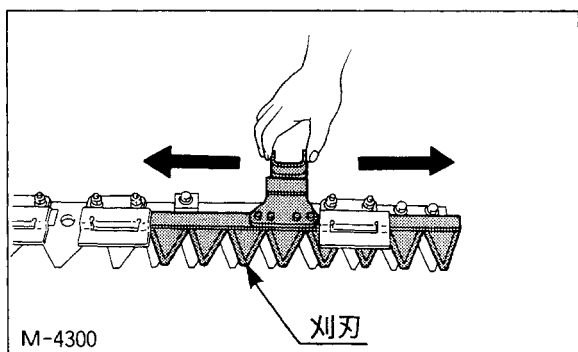


- ⑥ 刈刃と受刃のすき間を調整します。

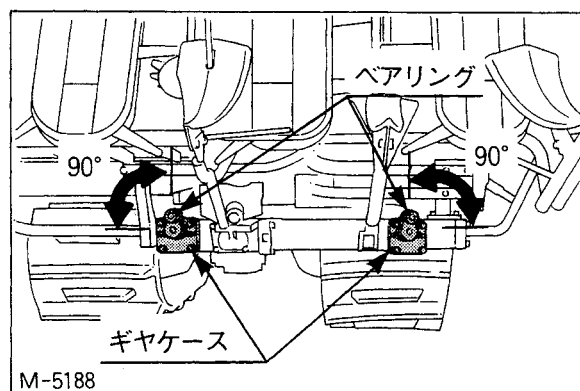


- ・ 刈刃と受刃のすき間 0～0.5mm以下
- ・ スライドプレート2とナイフバー左・右のすき間 0～0.5mm以下

- ⑦ すき間調節が終わったら、左右の刈刃が手で動くことを確認します。

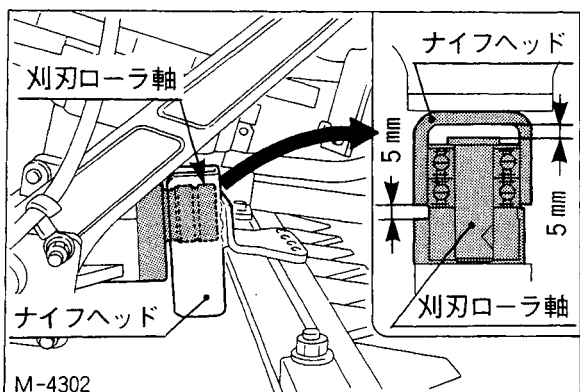


- ⑧ 刈刃駆動部のベアリングが、刈刃ギヤケースに垂直になるように240プーリにて調整します。



- ⑨ 刈刃のナイフヘッドを刈刃駆動部に装着させ、刈刃フレーム2・3にボルトで仮止めします。
〔そのとき、スパーサを受刃台の上もしくは下(標準)に入れてください。(58ページ参照)〕

- ⑩ 左右の刈刃のナイフヘッドと刈刃駆動の刈刃ローラ軸のすき間を均一(約5mm)にして、ボルトを本締めします。



- ⑪ 刈刃サポート左・右を受刃台にボルトにて取付けます。

- ⑫ 刈刃サポート左・右を刈刃フレーム1・4にボルトにて取付けます。

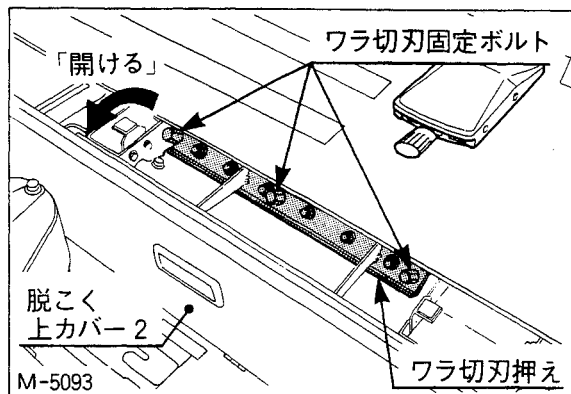
- ⑬ 240プーリを手で回し、刈刃がお互いに中央で打合う動きになっているか、また、刈刃クランクが1回転したとき、ナイフヘッドと接触しないか確認します。

刃が摩耗すると刈跡が見苦しくなったり、刈取り搬送姿勢が悪くなって無駄な動力を費やしますので、刈刃全体を交換してください。

■ワラ切刃の交換

◆ワラ切刃の外し方

- ①脱こく上カバー 2 を開けます。
- ②ワラ切刃押えのワラ切刃固定ボルト (3 コ) を外します。
- ③ワラ切刃押えを取出します。



重 要

*ワラ切刃の取付け方向を確認して確実に取付けてください。

各部開閉のしかた

「エンジンルームのフルオープン」「フルアップこぎ胴」「カッタオープン」が容易にできますので、機械内部の点検・整備がやりやすくなりました。



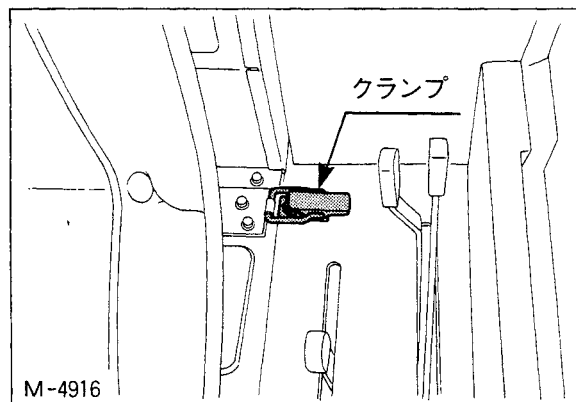
注 意

- *各部の開閉を行なうときは、必ずエンジンを停止してから行なってください。
- *エンジンカバーを開けて点検・整備するときは、次の手順に従ってください。
 - ①エンジンを停止する。
 - ②エンジン停止後30分以上経過してから開ける。
 - ③点検・整備で内部に触れるときは、ヤケドの危険性がないことを確認してください。
 エンジンが冷えてないとき、エンジンカバーを開けるとラジエータ部、リザーブタンク部等より熱湯が吹出し、あるいは高温部に接触してヤケドする恐れがあります。

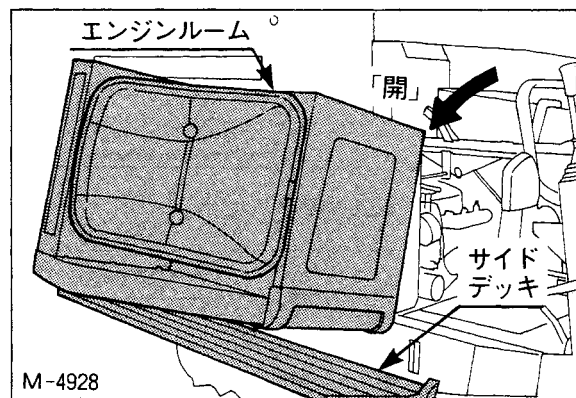
■エンジンルームのフルオープン

◆開け方

- ①サイドデッキを開きます。
- ②エンジンルーム部のクランプを外してください。



- ③エンジンルームをストッパで固定されるまで外側に倒してください。



重 要

- *エンジンを必ず停止してください。
- *閉じたときはクランプでエンジンルームを、確実にロックしてください。

■フルアップこぎ胴



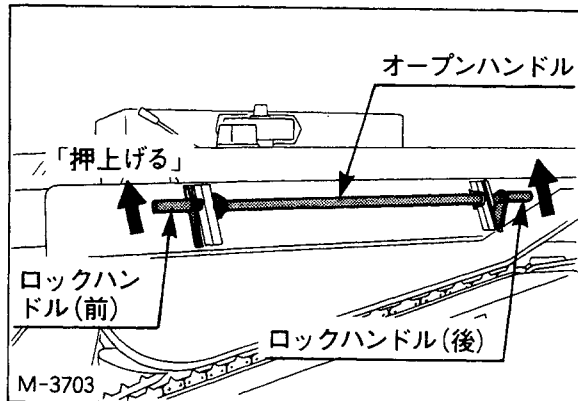
注意

*こぎ胴をフルアップしたときは、必ずオープントッパで固定してください。

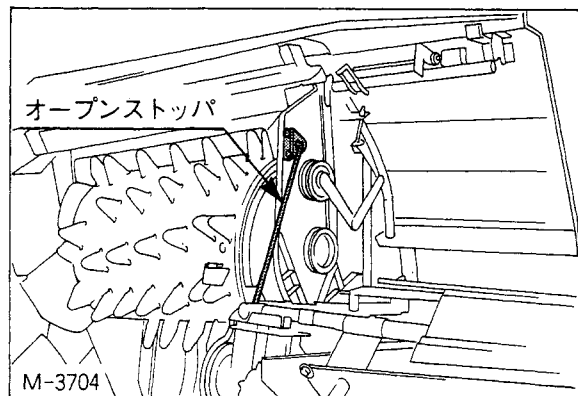
- (1) レールに稈が詰まったときや、こぎ室内にワラくずが詰まったときの解除に、こぎ胴をオープンすると便利です。
- (2) こぎ胴受アミを脱着するときにも、こぎ胴をオープンして行ないます。

◆こぎ胴オープンのしかた

- ① ロックハンドル前・後を上を押上げます。
- ② オープンハンドルを持って、こぎ胴を上を押上げます。



- ③ 排ワラ駆動ベルトを外し、オープントッパをセットします。



◆こぎ胴セットのしかた

- ① オープンストッパを外し、確実に収納してください。
- ② 排ワラ駆動ベルトをプーリにかけます。
- ③ オープンハンドルを両手で持って、こぎ胴を下へ押下げます。
- ④ ロックハンドルが「閉」の位置にあることを確認してください。
- ⑤ ロックハンドルが「閉」の位置になれば、手で押込んで必ず「閉」の位置にセットしてください。

重要

ロックハンドルが「閉」の位置にセットされていない状態で刈取り作業をすると、こぎ室フレームが変形することがあります。

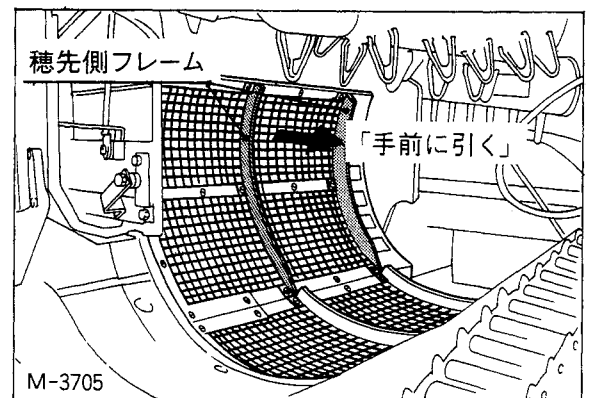
■こぎ胴受アミの脱着

重要

*組付け方向を間違えると故障の原因になりますので、必ず下記の要領に従って組込んでください。

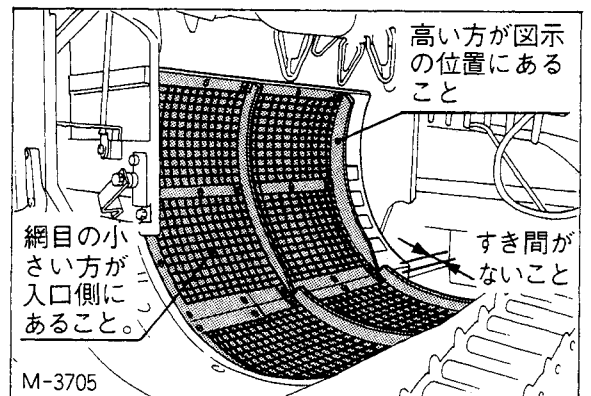
◆外し方

- ① こぎ胴をオープンしてください。
- ② 受アミの穂先側のフレームを持って、手前に引くと外れます。



◆セットのしかた

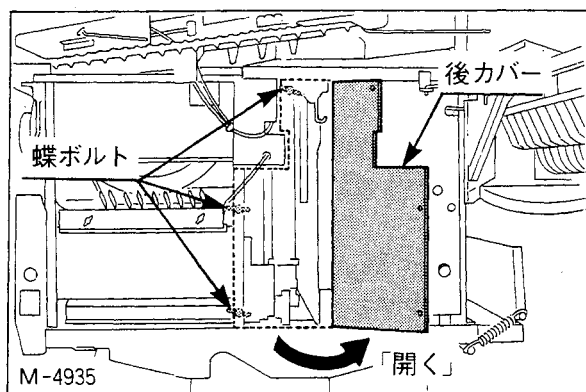
受アミは2枚に分れています。入れる方向をまちがえると故障の原因になります。



■シーブケースの脱着

◆拔出し方

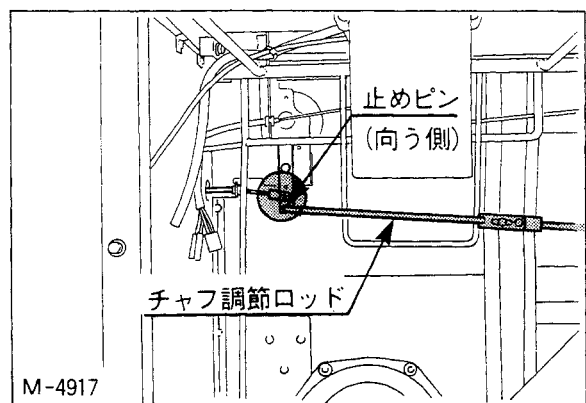
- ①後カバー(蝶ボルト3本)を開きます。



- ②チャフ調節ロッドを外します。(止めピンを抜きます)【K・D仕様】

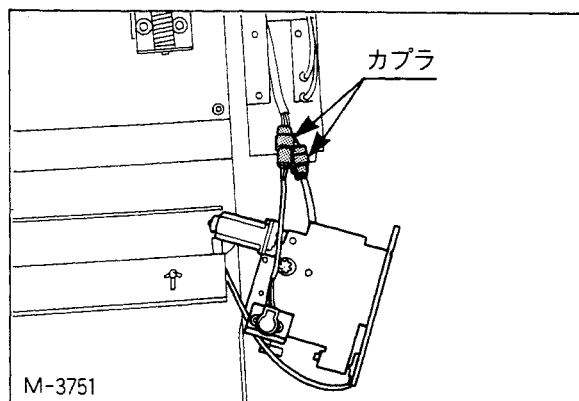
補 足

*HD仕様は外さないでください。

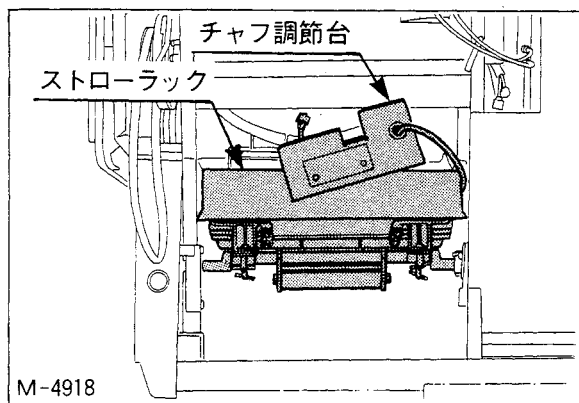


- ③チャフ調節台取付けボルト(蝶ボルト2本)を外して、手前に抜きます。

- ④ハーネスのカプラ(2個)を外します。【HD仕様】

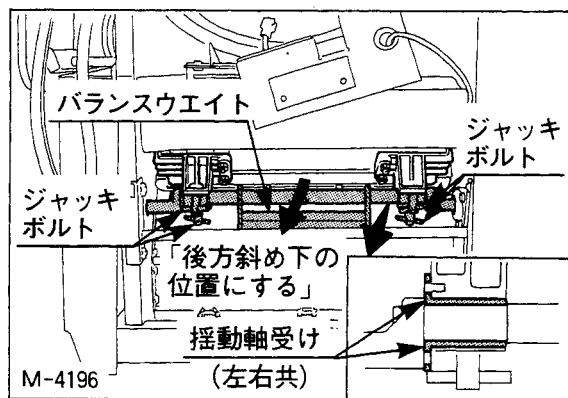


- ⑤チャフ調節台をストローラックの上に載せます。

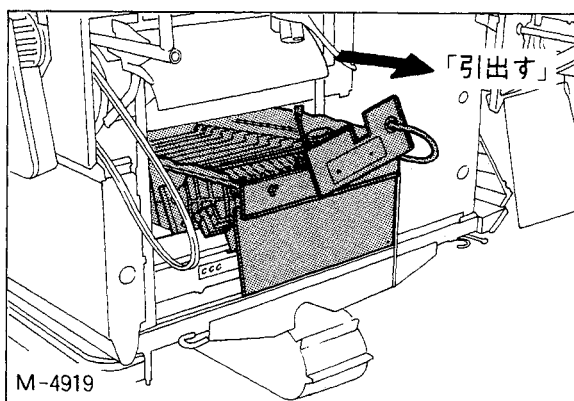


- ⑥揺動ブラケット2取付けジャッキボルト(4本)を外します。(このとき、揺動軸受け(4コ)を落さないように外します。)

- ⑦揺動軸のバランスウエイトは後方斜め下の位置にします。(外しやすい位置にします)

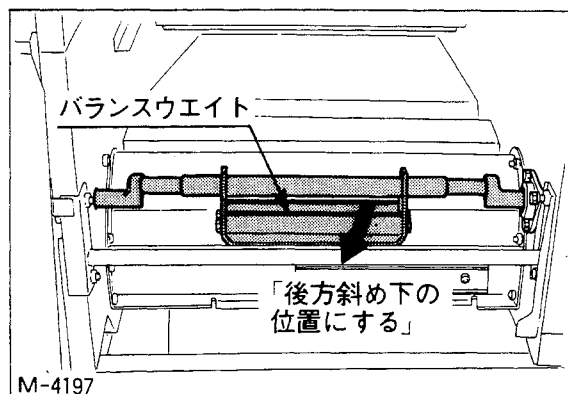


- ⑧シーブケースを取出します。(ストローラックの引っかかりに注意してください)



◆取付け方

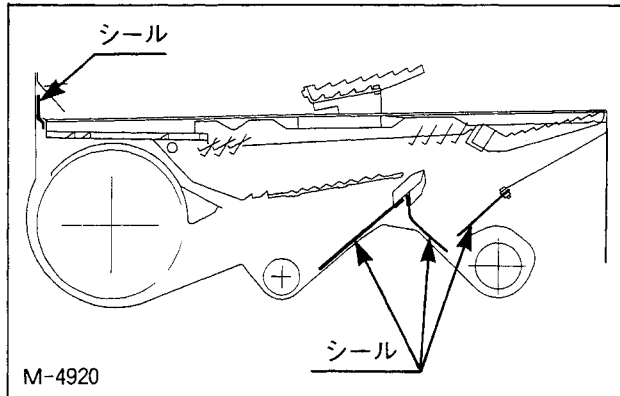
- ① ストローラックの上にチャフ調節台をのせます。
- ② 揺動軸のバランスウエイトを外しやすい位置にします。



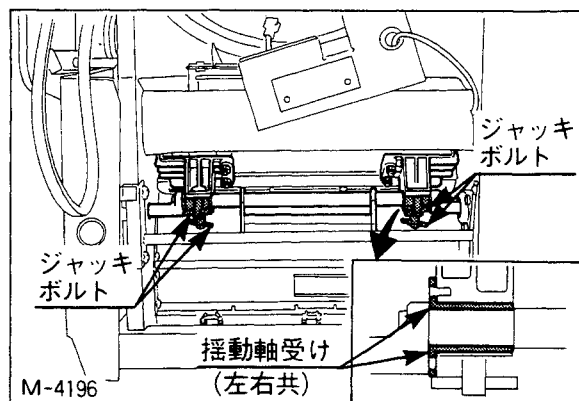
- ③ シーブケースをそう入します。(ストローラックの引っかかりに注意してください)

重 要

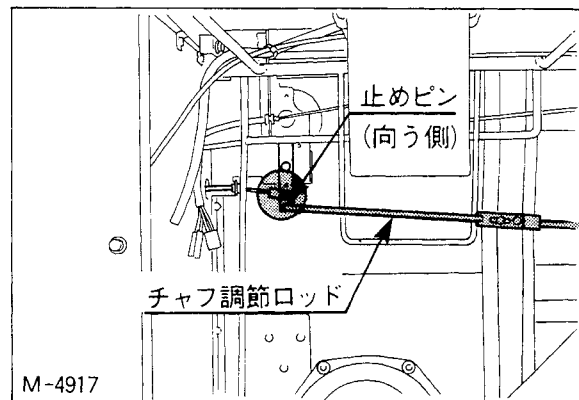
- * シーブケースをそう入した後、シーブケースシールが確実に図のような位置になるように組込んでください。
- * こぎ胴をオープンして、こぎ胴受アミを外し、シーブケース前部のシールを図のように組込んでください。



- ④ 揺動軸受けを図のように確実に組込み、揺動ブラケットをジャッキボルトで確実に締付けてください。(力強く締めてください)



- ⑤ ハーネスのカプラ(2個)をはめます。【HD仕様】
- ⑥ チャフ調節台をガイドに載せて組込み、確実に締付けます。(モータにハーネスがくい込まないように注意してください)
- ⑦ チャフ調節ロッドを組付け、止めピンで止めます。【K・D仕様】



- ⑧ 後カバー(蝶ボルト3本)を閉じます。

機内の掃除のしかた

品種や稲・麦の混合を避けたいときや収穫シーズンが終わったときには、機内の残留穀粒をきれいに取除いておきましょう。



警告

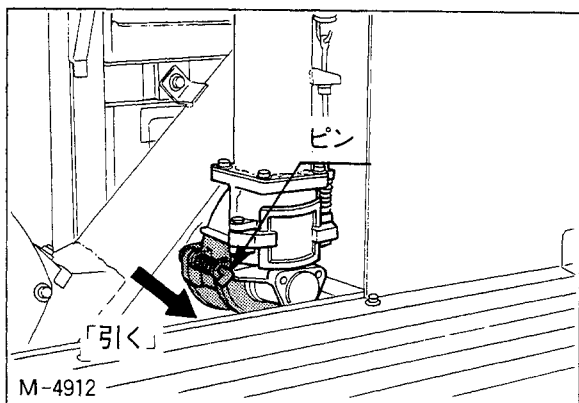
*各部の調整・点検・交換や部品の取外し・取付け、手による掃除は必ず脱こくクラッチを切り、必ずエンジンを停止してから行なってください。



注意

*空運転するときには必ずこぎ胴をセットして、カッタを閉じてください。

- ① 3分間空運転します。
- ② こぎ胴をオープンし、受網を外します。
(61ページ参照)
- ③ カッタを開きます。(37ページ参照)
- ④ 脱こく入口部、脱こく機内、排ワラ部、ホッパ内部の穀粒を取除きます。
- ⑤ 1番スクリュ、2番スクリュの掃除口を開きます。
- ⑥ 縦スクリュ、接続ケースの掃除口を開きます。



- ⑦ こぎ胴オープンを閉じて、1～3分間の空運転の後、カッタを開き、お手持ちの動力散布機やコンプレッサ、ブロワを使ってきれいに掃除してください。他の掃除口も開いて掃除すると、より効果があります。

- ⑧ 更に1分間の空運転を3～4回繰返すと、機内の残留穀粒が取除けます。

- ⑨ ブロワなどを使ってもう一度機内を掃除してください。

重要

*掃除口を閉じるときは、レバーを2～3回動かして、掃除口に穀粒の付着がないことを確認してから閉じてください。

*機内はよく乾燥させてから掃除してください。濡れていると、穀粒が機内に付着して、残留穀粒が多くなります。

*掃除の後、掃除口には確実にフタをしておいてください。フタを忘れると、穀粒が飛散します。

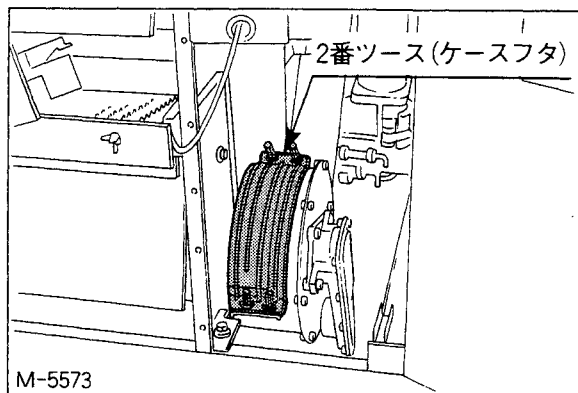
*湿田で作業したあとは、必ずクローラ部分の泥を取除いてからレバーを動かしてください。

*スクリュ掃除口レバーを「開」位置のままで、走行しないでください。「開」位置のままで走行するとクローラに接触し、フタが変形することがあります。

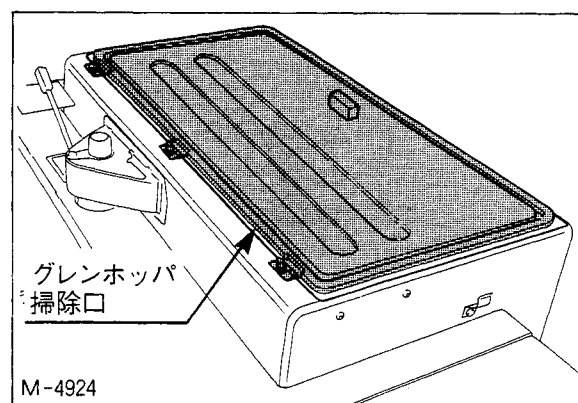
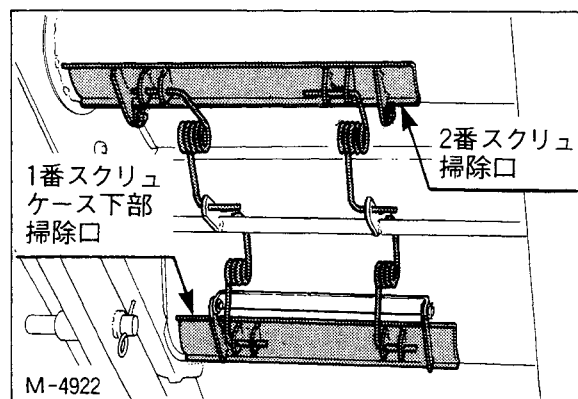
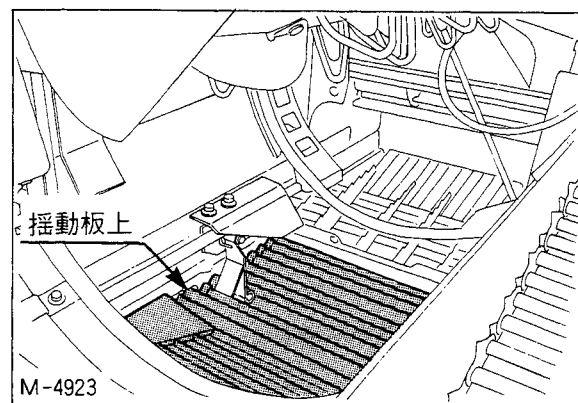
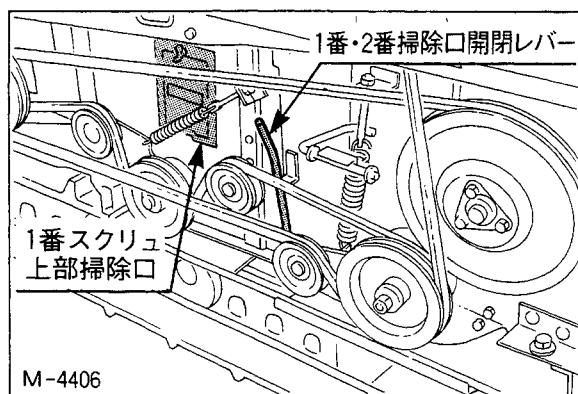
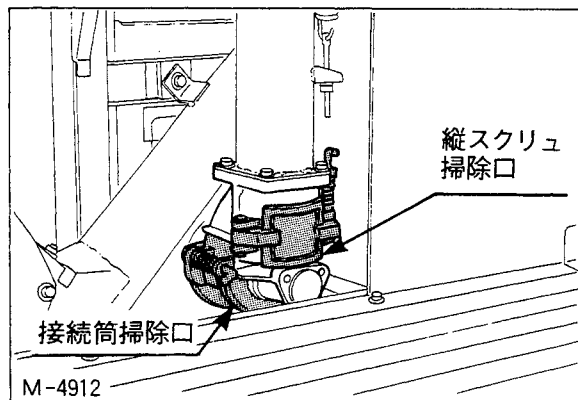
*トウミ軸や排じんファン巻付き防止板部のワラくずなども取除いてください。

◆ 2番処理ケースの掃除のしかた

2番処理ケースが詰まったとき、2番ツース(ケースフタ)を外して掃除しますが、異物が混入した場合には、ツース(回転歯)や2番ツースに変形がないか確認してください。



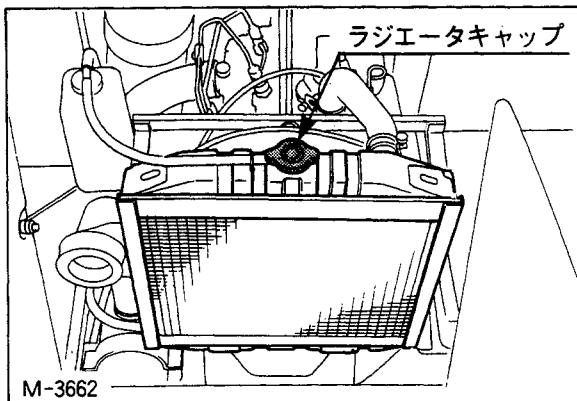
■ 掃除口の箇所



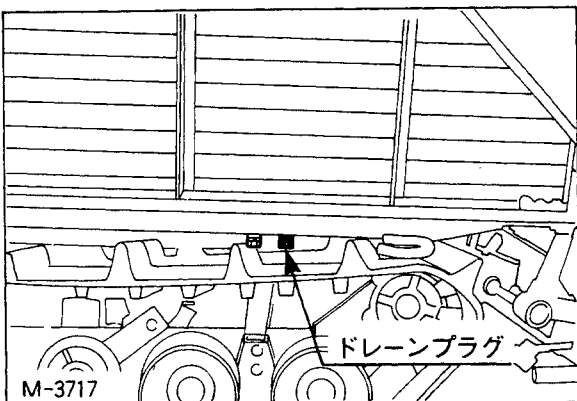
長期格納のしかた

- (1)各部に付着した泥などの汚れをきれいに水洗いし、乾いた布で水分をふき取ってください。
- (2)各回転部分や切刃部・ベルト・チェーンなどに巻付いた雑草やワラくずを、完全に取除いてください。
- (3)各回転部分や摩擦しゅう動部には、十分注油し、さびないように配慮してください。
- (4)各チェーンにも十分注油して、さびないように配慮してください。
- (5)各部に穀粒やワラくずが残っていると、ネズミの巣になったり配線部をかじられて、次の年の作業にさしつかえますからきれいに取除いてください。
〔クボタ純正部品ラットガードを配線にスプレーすると効果的です。(85ページ参照)〕
- (6)塗料のはげた所には補修塗料を塗って、さびがでないようにしてください。
- (7)ラジエータの冷却水は冬期の凍結割れ防止のため、排水するか、不凍液(ロングライフクーラント)を水に混ぜて入れてください。
冷却水を抜取るときは、次の要領で行なってください。

①ラジエータのキャップを開きます。



②排水用ドレインプラグを開きます。



- ③ドレインプラグは開いたままにし、キャップに「水なし」と書いた札を掛けておきます。
- (8)エンジンは、必ずアクセルレバーをいっぱいに戻して止めておいてください。
- (9)メインスイッチのキーは、必ず抜取って保管してください。
- (10)バッテリーは機体から取外して、液を規定量にしてから充電し、直射日光の当たらない乾燥したところに保存してください。
バッテリーは保存中でも自然放電するので、夏は1ヵ月に1回、冬は2ヵ月に1回補充電する必要があります。また本機に取付けたまま保管するときは必ずアース側(⊖側)を外してください。
- (11)刈取りクラッチレバー・脱こくクラッチレバーは「切」にしてください。
- (12)戸外に置く場合は、雨水がかからないようにシートでおおっておいてください。
- (13)マフラ・エンジンが冷えてからシートをかけてください。
- (14)制御調節ダイヤルを「稲2」又は「麦1」【HD仕様】、トウミ調節を「標準」・チャフ調節を「高能率」側【K, D仕様】にして脱こく機を回し、エンジン回転数2700回転/分で脱こく機を止めてください。

重 要

*機体を洗う場合は、電装部品に水がかからないようにしてください。

使用者が行なってはいけない修理

下記部分に異常があるときはお買上げのJA農協や販売店の修理工場に依頼してください。

エンジン本体・トランスミッションケース・ギヤー(ベベルギヤを含む)を内蔵したケース類・油圧系統・電気部品と電気系統・刈取部の動力伝達系統・カッタ刃の交換

使用済の資材の処分について

交換した廃油・バッテリー・ゴム・プラスチック類は、公害源になることがありますので処分の注意が必要です。

下記を参考にして実施してください。

廃油・バッテリー…ガソリンスタンドに持ち込んで廃棄を依頼する。

ゴム・プラスチック類…市町村の実施している公害物収集に出すか専門の廃棄業者に依頼する。

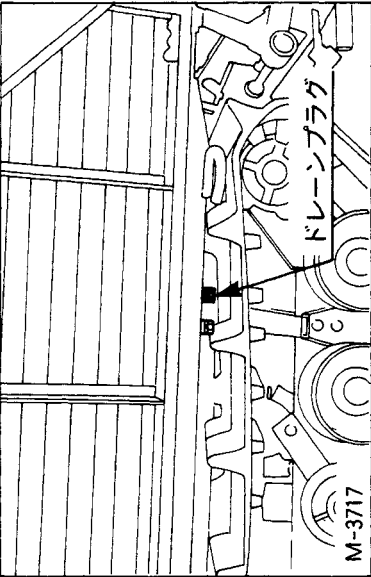
コンバインの不調と処置

次のようなトラブルが起ったら！

	ページ
水温ランプが点灯しブザーが鳴った	68
エンジンがかからない	69
作物を刈取らずに押倒していく	70
株の引抜きがある	70
ビービーと断続ブザーが鳴る	71
ビービーと断続ブザーが鳴ってエンジンが止まる	71
こぎ残りがでる	72
モミの飛散が多い	72
選別が悪くなった	72
カッタの切れワラが長くなった	74

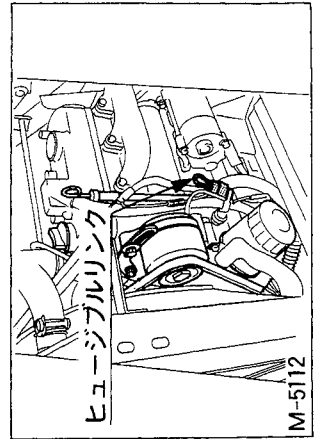
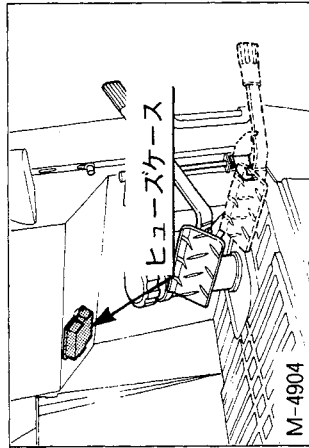
水温ランプが点灯しブザーが鳴った

●エンジンがオーバーヒート(過熱)している。

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
●刈取り作業を中止して、エンジンを止める。	防じん網、又はラジエータフィンがワラくずなどで目詰まりしている。	防じん網	●防じん網をブラシなどで清掃する。	52ページ
		ラジエータフィン	●圧縮空気か水道水で、フィンを傷つけないように清掃する。	52ページ
	冷却水が不足している。	ラジエータ リザーブタンク	●清水をラジエータ給水口まで補給する。 (ラジエータが熱いときは危険です。 30分程度冷却してからリザーブタンクの「FULL」まで補給する。 ●ドレーンプラグから洩れていないか点検する。 	16ページ 42ページ
エンジンオイルが不足している。	エンジンオイルが不足している。	オイルゲージ	●上限近くまで、補給する。	16・43ページ
		エンジンオイル フィルタカートリッジ	●エンジンオイルフィルタカートリッジの交換時期になっていれば交換してください。	51ページ
	ファンベルトがゆるんでいる。	ファンベルトのたわみ	●ダイナモの取付けボルトをゆるめ、ダイナモを手で引張りながらベルトの増張りを行なう。 ●ベルトが損傷しているときは新品と交換する。	55ページ

エンジンがかからない

すぐにあること	原因		点検箇所	処置	参照ページ
	セルモーターは回る	セルモーターが回らない			
●メインスイッチを「切」の位置にする。	燃料がない。	燃料がない。	燃料タンク	●燃料があるか点検し、ない場合は補給する。(火気厳禁です)	16ページ
	燃料がある。	燃料がある。	燃料フィルタ	●燃料フィルタの目詰まりがないか点検し、洗浄する。 ●燃料パイプの折れ、破損を点検し、異常があれば交換する。	51ページ
			燃料の種類	●クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油を補給する。	16ページ
	走行クラッチペダルを踏込んでいない。	走行クラッチペダルを踏込んでいない。	走行クラッチペダル	●走行クラッチペダルを踏込む。 (走行クラッチペダルを踏込まないと安全スイッチが作動してエンジンは始動しない構造になっています。)	18ページ
セルモーターが回らない	バッテリーが上がっている。	バッテリーが上がっている。	バッテリー (ホーンの音が小さい)	●充電をする。 ●バッテリー液を点検し、不足の場合は市販のバッテリー精製水を補給する。	45ページ
	ヒューズ又はヒューズブリンクが切れている。	ヒューズ又はヒューズブリンクが切れている。	ヒューズケース	●点検し、切れている場合は、予備ヒューズと取替える。(アンペア数に注意) (予備ヒューズはヒューズケース内にあります。)	52ページ
			ヒューズブリンク	●取替える。 (エンジンルーム内のステッパ側にあります。) (予備ヒューズブリンクは付属品袋に入っています。)	53ページ



作物を刈取らずに押倒していく

すぐにすること	原 因	点 検 箇 所	処 置	参照ページ
●刈取りクラッチレバーを切って、エンジンを止める。	刈刃や搬送部に根株・泥・石や木片などの異物がかみ込んでいる。	刈刃部	●刈刃部を点検し、異物があれば取除く。	—
		搬送部	●搬送部を点検し、異物があれば取除く。	—
		刈取り駆動ベルト	●刈取りクラッチテンションスプリングを調整する。	55ページ

株の引抜きがある

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
●刈取り作業を中止して、エンジンを止める。 ●株の抜けた作物は根をカマで切り、直接脱こく機のフィードチェーンに供給してください。	デバイダが株の根元に突っ込んでいる。	刈高さ調節ボルト	●刈高さ調節ボルトでデバイダが土中に突込まないように、刈高さを調節するか、少し高刈りをする。	29ページ
	作業速度が速すぎる。	副変速レバー	●倒伏ほ場での作業速度は「低速」で行なう。	31ページ
	引起し爪で株を引抜く。	デバイダ	●倒伏作物の場合、左デバイダを前に出す。	29ページ
		刈取り変速レバー	●刈取り変速レバーを「高速」にする。	7ページ
		搬送ガイド	●搬送ガイドを外す。	29ページ
刈刃が切れない。	刈刃	●刈刃と受刃のスキマを調節する。 ●刈刃・受刃の研磨。	58・59ページ	

ビービーと断続ブザーが鳴る

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
刈取り作業を中止して、イージージェットカをみる。	モミランブがついている。	もみ袋	●もみ袋を交換する。	33ページ
	2番警報ランブがついている。	自己診断警報の項参照。(自動の場合)		9ページ
	負荷がかかりすぎている。	微調節レバー	●こぎ深さ調節位置が適正か確認する。	13ページ
		副変速レバー	●作業速度を一段落す。	31ページ
		処理調節	●処理調節を「標準」又は「開」にする。	30ページ
注意 ●ブザーが鳴ったまままで作業を続けるとトラブルの原因になります。	こぎ室, 処理胴, 1番スクリュ, 2番処理ケースなどに詰まりがある。	こぎ室 処理胴 1番スクリュ 2番処理ケース	●こぎ室, 処理胴, 1番スクリュ, 2番処理ケースなどに詰まりがないか点検し, 詰まりがあれば取除く。	64・65ページ
	チェッカランブ, こぎ深さ自動ランブがついている。	こぎ深さセンサ	浮きワラ, 雑草を除去してください。	9ページ
	シーブモニタに「シーブケイホウ」の文字が表示されている。	シーブケース	●ストローラックなどに目詰まりがないか点検し, 詰まりがあれば取除き, そのあと脱こく機を空回しをして, 機内のワラくずを排出する。	12ページ

ビービーと断続ブザーが鳴ってエンジンが止まる

●エンジン自動停止装置が働いている。

すぐにすること	原因	点検箇所	処置	参照ページ
- 刈取り, 脱こくクラッチレバーを「切」にする。 - 主変速レバーを「N」(中立)にする。 - メインスイッチを「切」にする。	排ワラ搬送チェーンが詰まっている。	搬送部	●搬送部 (フィードチェーン・排ワラチェーンのバトナッチ部) カッタの入口部にワラが詰まっていらないか点検し, 詰まりがあれば取除く。フィードチェーンの詰まりは, こぎ胴をオープンして取除く。	—
	カッタ部が詰まっている。	カッタ部	●カッタの刃が摩耗していないか点検し, 摩耗している場合は研磨するか交換する。	37ページ
	結束作業においてビルにひもが巻付いているか, 又はひも切れ, ひもの消費。	結節部 結束ひも	●結節部にひも, ワラなどが巻付いていないか点検し, 巻付いていれば取除く。 ●ひもがなければ補充する。	—

こぎ残りがでる

すぐにくること	原 因	点 検 箇 所	処 置	参照ページ
●刈取り作業を中止し、搬送部にある作物を流しきる。	こぎ深さ調節が浅い。	微調節レバー	●微調節レバーの調節で、脱こく機入口の「こぎ深さ指示ラベル」の指示の位置に穂先を合わせる。	13ページ
	脱こくくの回転数が低い。	回転計	●回転計を見ながら、アクセルレバーで正規回転にする。	30ページ

モミの飛散が多い

すぐにくること	原 因	点 検 箇 所	処 置	参照ページ
●刈取り作業を中止して、搬送部にある作物を流しきる。	脱こくく回転数が高い。	回転計	●回転計を見ながら、アクセルレバーで正規回転にする。	30ページ
	トウミ調節が強すぎる。	トウミ調節	●制御調節ダイヤルを「稲3」か「稲4」又は「麦2」の方へ調節する。 【HD仕様】	11・12ページ
			●トウミ調節を「標準」又は「弱」の方に調節する。【K・D仕様】	
	排じん調節板が「下」になっている。	排じん調節板	●排じん調節板を「標準」又は「上」の位置に調節する。	30ページ

選別が悪くなった

現 象	原 因	点 検 箇 所	処 置	参照ページ
[稲] ● 小枝梗が多い。 ● 穂切が多い。 [麦] ● のげが取れない。 ● 稃が取れない。 (脱皮しない)	● エンジン回転数が低い。 ● 処理調節が開きすぎ。 【K・D仕様の場合】 ● チャフ調節が開きすぎ。 【HD仕様の場合】 ● 制御調節が開きすぎ。	回転計 処理調節 チャフ調節 制御調節ダイヤル	● 回転計をみながら、アクセルレバーで正規回転にする。 ● 処理調節を「標準」又は「閉」の方へ調節する。 (この場合、少し能率が下がる。) ● チャフ調節を「標準」又は「高能率」の反対側の方へ調節する。 ● 制御調節ダイヤルを「稲 1」又は「麦 1」か「麦 0」の方へ調節する	30ページ 12ページ 11ページ
[稲・麦] 切ワラ・ゴミが入る。	● エンジン回転数が低い。 ● トウミの風路にワラくずが詰まっている。 【K・D仕様の場合】 ● トウミ調節が弱すぎる。 ● チャフ調節が開きすぎ。 【HD仕様の場合】 ● 制御調節が開きすぎ。	回転計 トウミ風路 トウミ調節 チャフ調節 制御調節ダイヤル	● 回転計をみながら、アクセルレバーで正規回転にする。 ● ワラくずを排除く。 ● トウミ調節を「標準」又は「強」の方へ調節する。 ● チャフ調節を「標準」又は「高能率」の反対側の方へ調節する。 ● 制御調節ダイヤルを「稲 1」又は「麦 1」か「麦 0」の方へ調節する。	30ページ ——— 12ページ 11ページ
[稲・麦] 穀粒の傷みが多い。	● エンジン回転数が高い。 ● 処理調節が閉めすぎ。 【K,D仕様の場合】 ● トウミ調節が強すぎる。 ● チャフ調節が閉めすぎ。 【HD仕様の場合】 ● 制御調節が閉めすぎ。	回転計 処理調節 トウミ調節 チャフ調節 制御調節ダイヤル	● 回転計をみながらアクセルレバーで、正規回転にする。 ● 処理調節を「標準」又は「開」の方へ調節する。 ● トウミ調節を「標準」又は「弱」の方へ調節する。 ● チャフ調節を「標準」又は「高能率」側の方へ調節する。 ● 制御調節ダイヤルを「稲 3」か「稲 4」又は「麦 2」の方へ調節する。	29ページ 12ページ 11ページ

カッタの切れワラが長くなった

すぐに行うこと	原因	点検箇所	処置	参照ページ
●刈取り作業をやめ、エンジン止めを止める。	カッタの刃が摩耗している。	カッタの刃	●新しい刃と交換する。	37ページ
	こぎ深さが深くなりすぎている。	手動こぎ深さスイッチ	●手動こぎ深さスイッチで脱こく機入口の「こぎ深さ指示ラベル」の指示の位置に穂先を合わせる。	13ページ

付 表

主要諸元表

農 機 型 式 名			クボタR9001			
商 品 名			R1-211A			
区 分			K(W)	D(W)	HD(W)	HD(W)-V
機 体 寸 法	全 長(mm)	3400				
	全 幅(mm)	1680				
	全 高(mm)	1600				
	重 量(kg)	1200(1210)				
エ ン ジ ン	名 称		D1005-C-1			
	形 式		水冷4サイクル3気筒立形ディーゼル			
	総 排 気 量(cc)		1001			
	出力/回転速度(PS/rpm)		21/3000			
	使 用 燃 料		クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油			
走 行 部	クローラ中心距離(mm)		775(805)			
	クローラ幅×接地長(mm)		330×1030(360×1030)			
	平 均 接 地 圧(kg/cm ²)		0.177(0.163)			
	最 低 地 上 高(mm)		175			
	変 速 方 式		油圧シフト			
	走 行 速 度 (m/sec)	前 進	(低) 0.27 0.37 0.48			
			(中) 0.45 0.63 0.81			
			(高) 1.05 1.45 1.88			
後 進			0.27 0.45 1.05			
刈 取 部	刈 幅(mm)		1150～1200			
	刈 取 り 条 数(条)		3			
	刈 幅(mm)		1150			
	適応作物範囲(全長)(mm)		600～1300			
	倒 伏 適 応 性(度)		追刈り：85°以下,向刈り：70°以下			
	変速段数(刈取り・引起し)		2			
	脱 こ く 部	脱 こ く 方 式		下こぎ軸流式		
こ ぎ 胴		径×幅(mm)	424×600			
		回転数(rpm)	480			
処 理 胴 径 × 幅 (mm)		250×106(ツースパー処理方式)				
2 番 還 元 方 式		スクリュウ方式				
選 別 方 式		揺動,圧風,全幅吸引				
出 入 部	ホ ッ パ	ホ ッ パ 容 量 (袋)	2			
		こ く 粒 取 出 方 式	ホッパ袋詰方式 4			
ワ ラ 処 理 部	カ ッ タ (切断長とオープン有無)		○(50mm切断)カッタオープン			
	カッタ結束機(切断長とオープン有無)		○(50mm切断)カッタ結束機オープン			
	ド ロ ッ パ		△			
	立 体 放 出		△			
	集 束 ド ロ ッ パ		△			
作 業 能 率(分/10a)			27～45			

●この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

△……オプション

農 機 型 式 名			クボタR9001			
商 品 名			R ₁ -211A			
区	分		K(W)	D(W)	HD(W)	HD(W)-V
諸	自動制御	自動こぎ深さ制御	○	○	○	○
		自動方向制御	×	○	○	○
		自動脱こく制御	×	×	○	○
		自動エンジン停止	○	○	○	○
		ホッパ自動シャッター	×	○	○	×
	警報装置	負 荷 表 示	×	○	○	○
		油 圧 ・ チ ャ ー ジ			○	
		2 番 詰 ま り			○	
		モ ミ 満 杯			○	
		排 ワ ラ 詰 ま り			○	
装	置	結 束 ひ も 切 れ			○	
		水 温 警 報			○	
		グラフィックモニタ			○	
		防 じ ん カ バ ー	×	×	○	○
		集 中 注 油			○(手動)	
	置	バ ッ ク ブ ザ ー			○	
		作業灯(供給・モミ処理)			○	
		モミブザー停止スイッチ			○	
		速 熱 式 グ ロ ー			○	
		パワーステ(クラッチ、ブレーキ)			○	
置	置	可 動 転 輪			○	
		引起爪作用高さ調節			○	
		エンジンルームオープン			○	
		ス イ ス イ デ バ イ ダ			△	
		洗 車 ポ ン プ			×	

●この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

△……オプション

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

- サービスブック(保証書, 愛用者カード) 1
- 取扱説明書 1
- ボディカバー 1
- 小物部品 1セット

●工具

- 10-12スパナ 1
- 12-14スパナ 1
- 14-17スパナ 1
- ⊕⊖ドライバ 1
- プライヤ 1
- 油差し 1
- ジョウゴ 1
- 工具袋 1

特別付属品(別売)

■スイスイデバイダ

倒伏した作物が能率よく刈取りできます。

品 番	品 名
58110-00000	RM-20スイスイデバイダ

■50mm・35mm切断カッタ

品 番	品 名
57783-02000	SR ₁ -18N標準カッタ (50mm切断)
57793-02000	SSR ₁ -18Nスーパカッタ (35mm切断)

■50mm↔150mm・35mm↔150mm 切断長切換えカッタ

切断長がレバー 1 本で簡単に約50mmと約150mm, 約35mmと約150mmに切換えができます。

品 番	品 名
57784-02000	SR ₁ -18CN切換えカッタ (50mm↔150mm切断)
57794-02000	SSR ₁ -18CNスーパ切換えカッタ (35mm↔150mm切断)

■カッタ後部装着用標準結束機

稈長・こぎ深さが変化しても、結束位置は株元よりほぼ一定の位置を結びます。また、株揃い寄せ装置もついています。

品 番	品 名
57972-02000	KR ₁ -18SYN標準結束機

■キャノピ

品 番	品 名
52000-38000	CP261キャノピ

■フィードチェーン継手

フィードチェーンの継手部品です。

品 番	品 名
53650-9121-0	ツギテリンク
53650-9122-0	オフセットリンク

■カッタ後部装着用ストンパ結束機

自動スライド、株揃い装置もついたストンパ専用の結束機です。

品 番	品 名
57982-02000	KR ₁ -18SRNストンパ結束機

■単体標準結束機

稈長・こぎ深さが変化しても、結束位置は株元よりほぼ一定の位置を結びます。また、株揃い寄せ装置もついています。

品 番	品 名
57172-02000	KR ₁ -18YN単体標準結束機

■単体ストンパ結束機

自動スライド、株揃い装置もついたストンパ専用の単体結束機です。

品 番	品 名
57182-02000	KR ₁ -18RN単体ストンパ結束機

■ドロツパ

品 番	品 名
57288-00000	DR ₁ -18ドロツパ

■単体ドロツパ

本機直付ドロツパです。

品 番	品 名
57236-00000	PR ₁ -18単体ドロツパ

■標準結束機用集束ドロツパ

結束した束を3, 4束ずつまとめて落しますので、回収が楽になります。

品 番	品 名
57877-00000	D3-DS集束ドロツパ

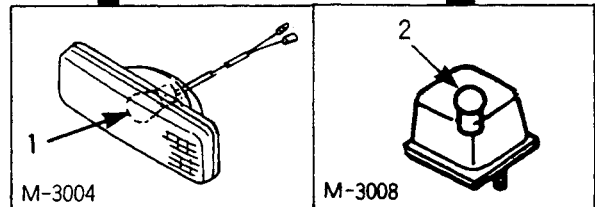
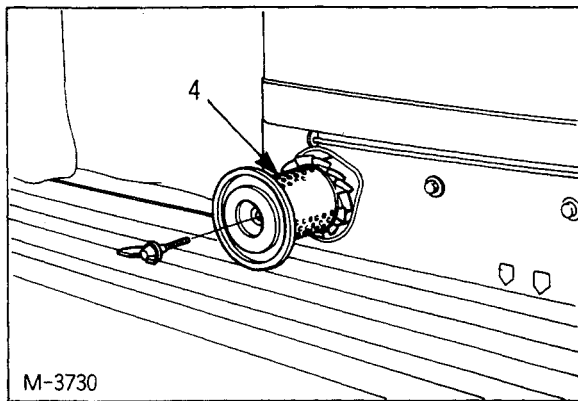
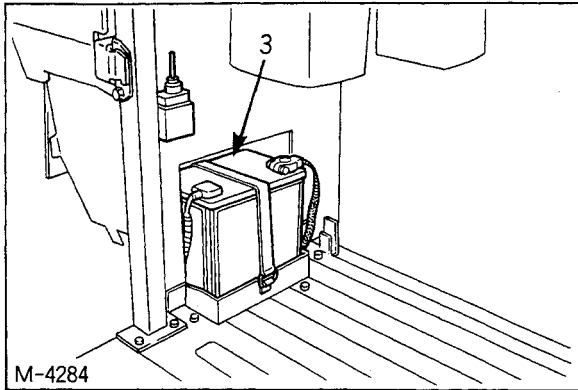
■種子用交換部品

品 番	品 名
53680-9330-0	241, アッシ(シュシヨウ)

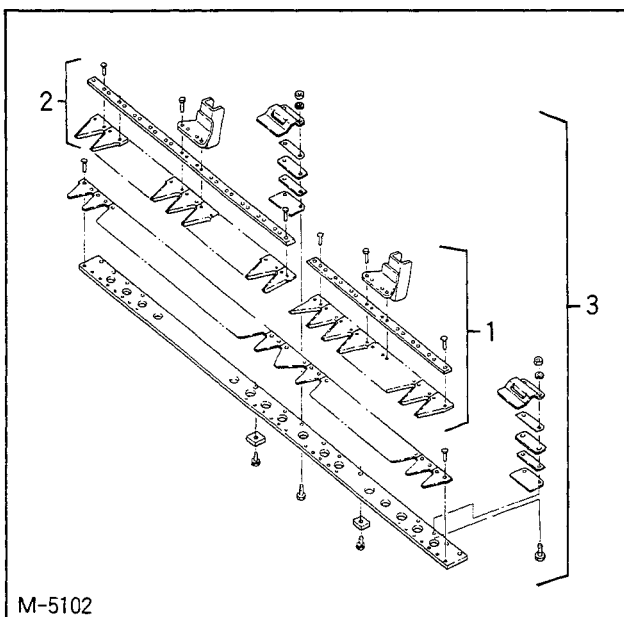
主な消耗部品一覧表

■本機部

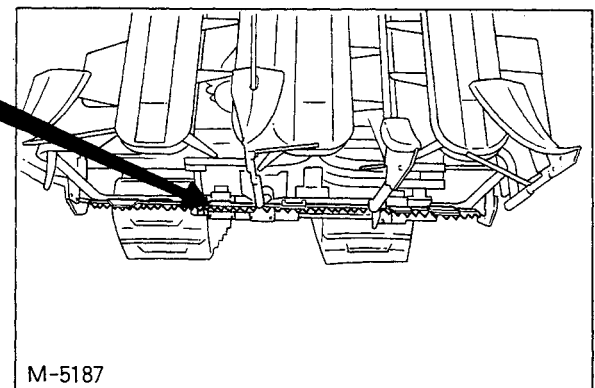
図番	品名	品番	個数/台
3	バッテリー	67950-5545-0	1
4	エレメント	52300-2578-0	1



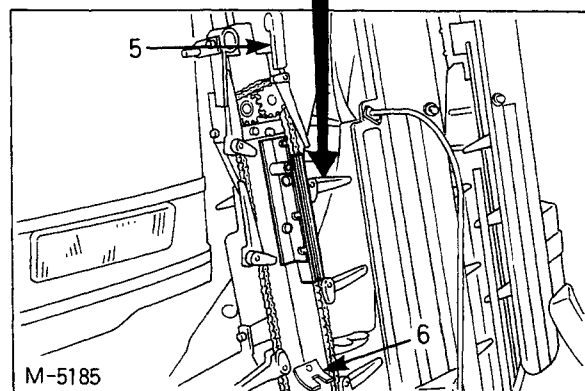
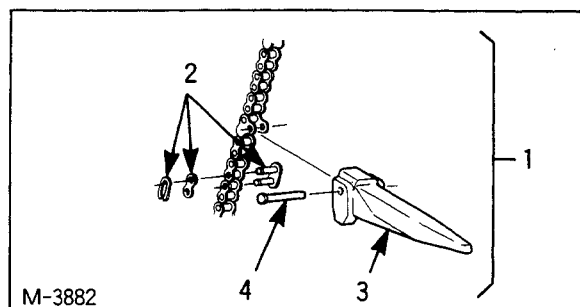
図番	品名	品番	個数/台
1	ランプバルブ (ヘッドランプ用)	56713-4172-0	1
2	ランプバルブ (ウィンカランプ用)	36200-7517-0	2



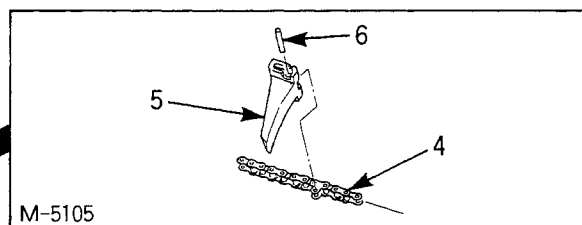
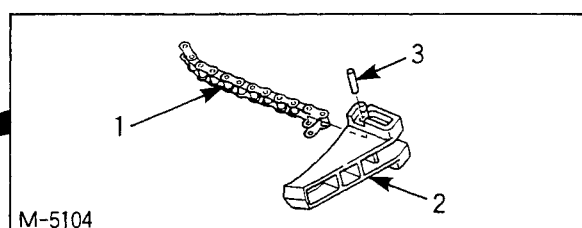
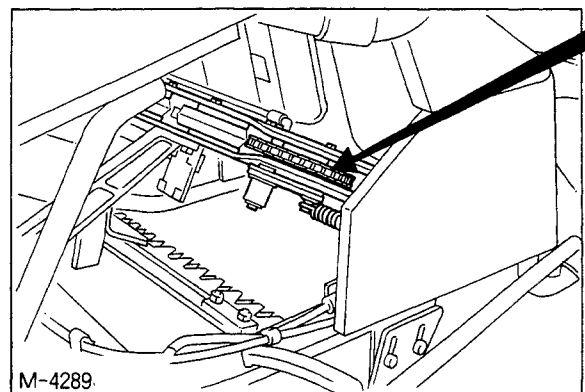
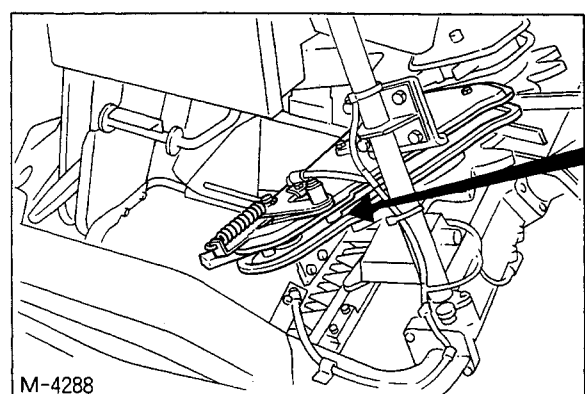
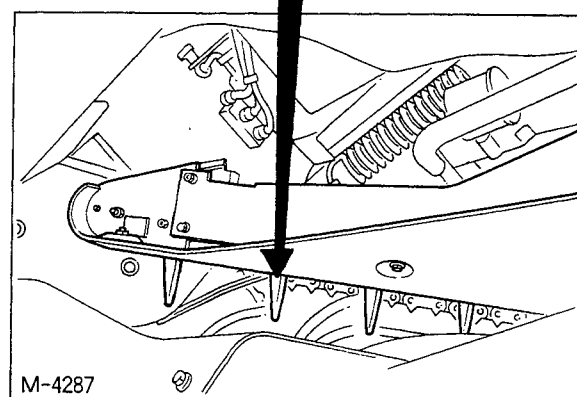
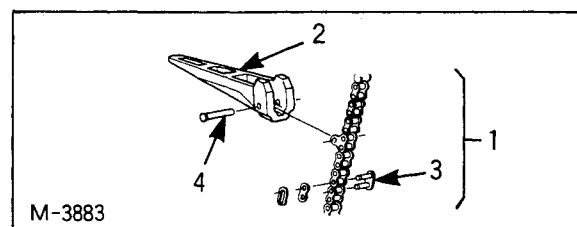
図番	品名	品番	個数/台
1	刈刃コンプ左	52400-5810-0	1
2	刈刃コンプ右	52400-5820-0	1
3	刈刃アッシ	52400-5801-0	1



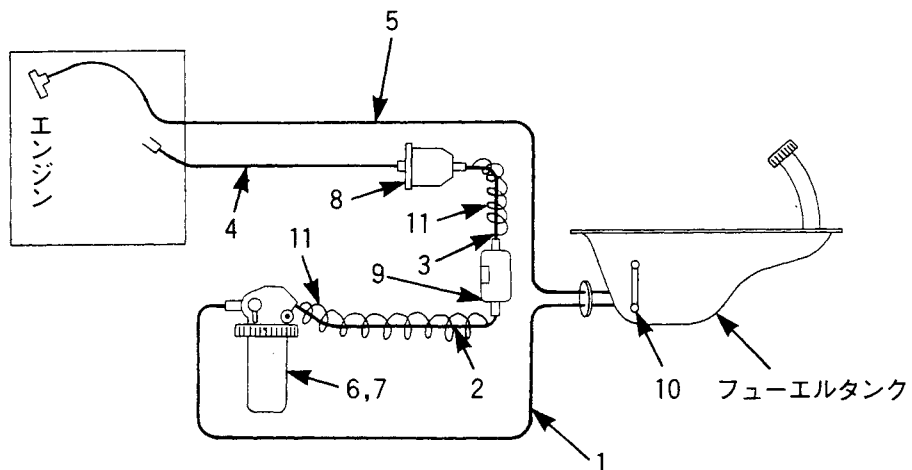
図番	品名	品番	個数/台
1	引起しチェーンコンブ	52300-5401-0	3
2	415エスチェーンツギテ	50400-9112-0	3
3	引起し爪	56713-5422-0	27
4	爪取付けピン	56713-5431-0	27
5	緩衝ゴム	52300-5315-0	3
6	爪起しゴム	52300-5314-0	3



図番	品名	品番	個数/台
1	穂先チェーンコンブ	59650-6660-0	1
2	搬送爪	59240-6665-0	15
3	415チェーンツギテ	55411-4644-0	1
4	穂先爪ピン	55411-6363-0	15



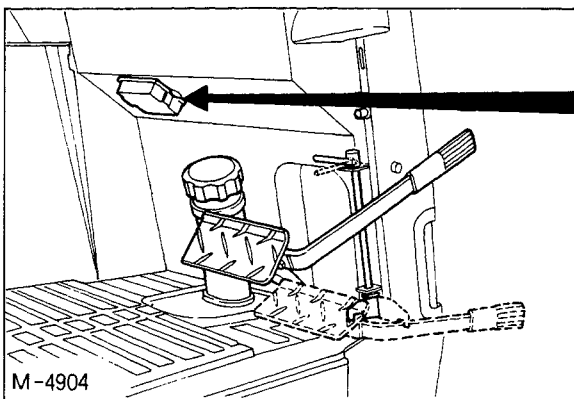
図番	品名	品番	個数/台
1	チェーン(前搬送左)	52400-6231-0	1
2	ツメ(前搬送)	52400-6291-0	8
3	穂先爪ピン	55411-6363-0	8
4	チェーン(前搬送右)	52400-6281-0	1
5	ツメ(前搬送)	52400-6291-0	11
6	穂先爪ピン	55411-6363-0	11



M-4032

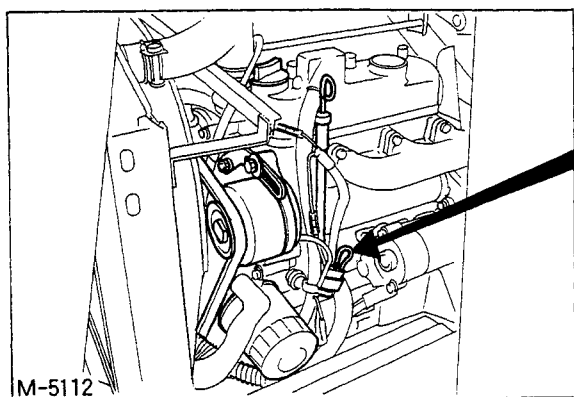
図番	品 名	品 番	個数/台
1	フューエルパイプ	09661-71000	1
2	フューエルパイプ	09661-70220	1
3	フューエルパイプ	09661-70150	1
4	フューエルパイプ	09661-70300	1
5	フューエルパイプ	09661-41100	1
6	フューエルフィルタアッ シ	15261-4301-3	1

図番	品 名	品 番	個数/台
7	エレメント	15231-4356-3	1
8	フューエルフィルタアッ シ(プレフィルタ)	12581-4301-2	1
9	フューエルポンプ	16875-5203-1	1
10	燃料ゲージアッ シ	52300-2572-3	1
11	ホゴスプリング	56900-2582-0	2

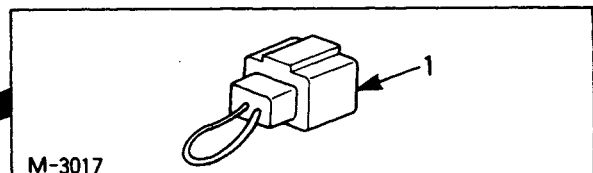


M-4904

図番	品 名	品 番	個数/台
1	20A オートヒューズ	48100-5589-0	4
2	15A オートヒューズ	52200-4162-0	1
3	10A オートヒューズ	48100-5588-0	3
4	30A オートヒューズ	52300-4163-0	2



M-5112



M-3017

図番	品 名	品 番	個数/台
1	ヒューズブルリンク	59460-4171-0	1

D, HD仕様

M-3664

3

M-3011

2

1

M-3884

図番	品 名	品 番	個数/台
1	メータケーブル	52300-4159-0	1
2	バルブ (イージーチェッカ用)	52300-4142-0	14
3	ランプバルブ (ランプ付スイッチ用)	56713-9516-0	※2

※ D, HD仕様… 2 個, K仕様… 1 個

■脱こく部

図番	品 名	品 番	個数/台
1	ソース(2パン)	53656-3123-0	1
2	ソース(1)	53652-3214-0	2
3	ソース(2)	53652-3215-0	2

2

3

M-4926

1

M-5571

M-5573

M-37433

4

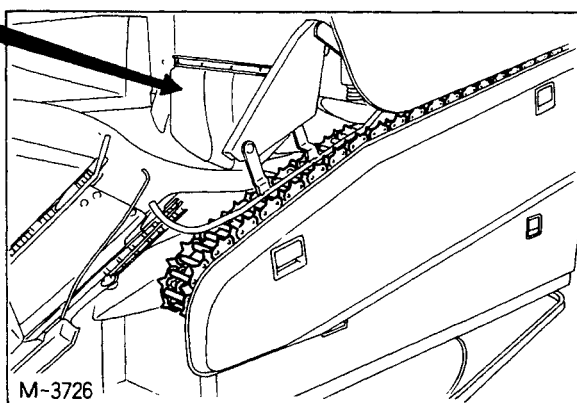
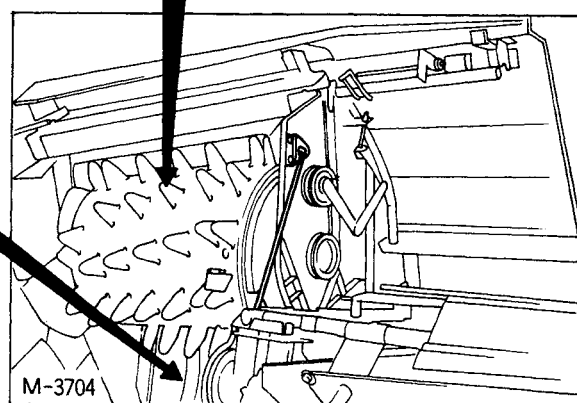
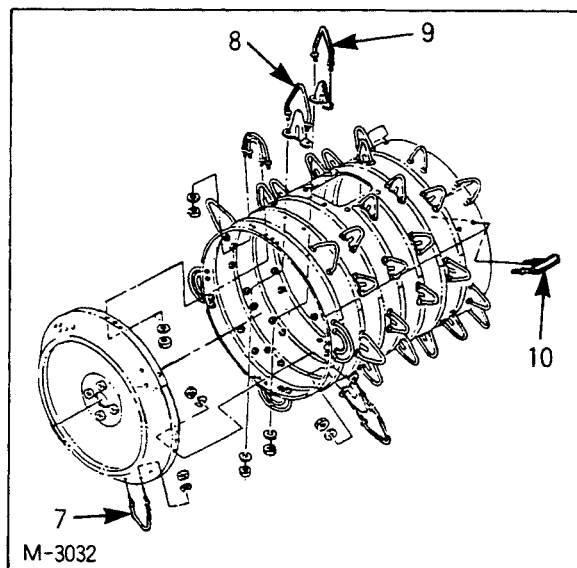
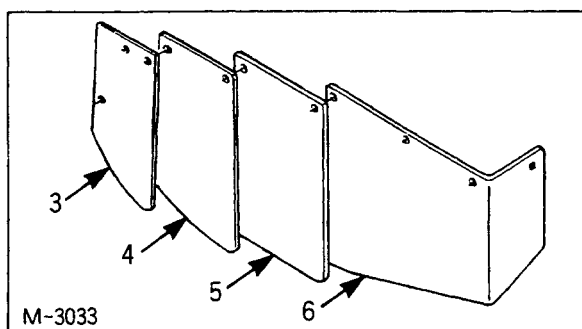
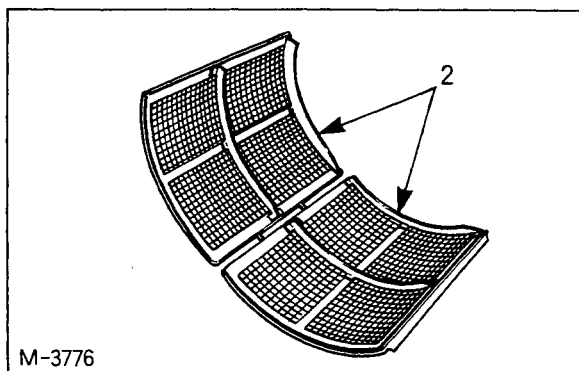
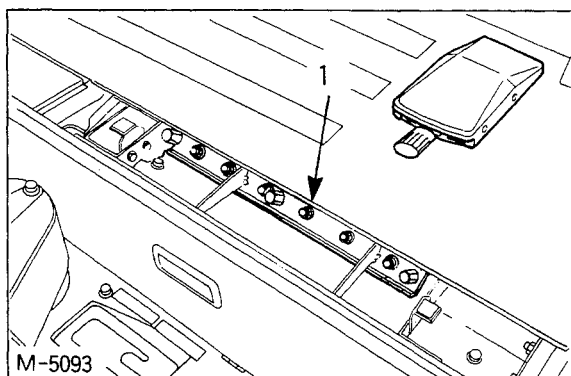
3

2

1

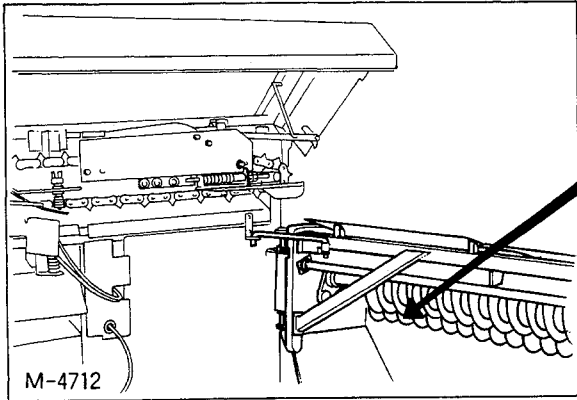
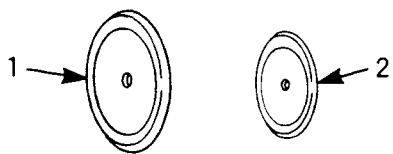
M-5106

図番	品 名	品 番	個数/台
1	排ワラ穂先チェーンアッシ	53931-4440-2	1
2	排ワラ穂先チェーン	53931-4441-2	1
3	搬送爪	53961-4421-0	16
4	穂先爪ピン	55411-6363-2	16

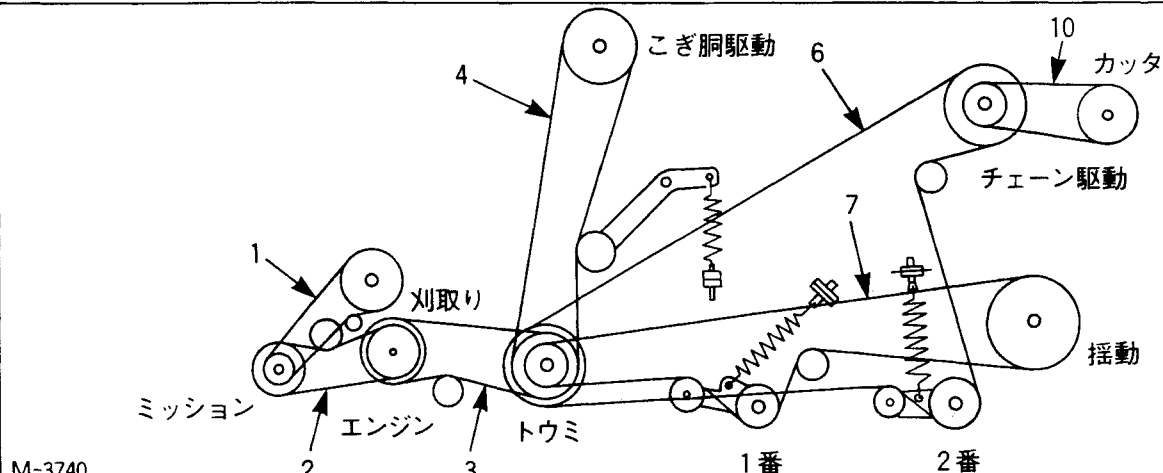


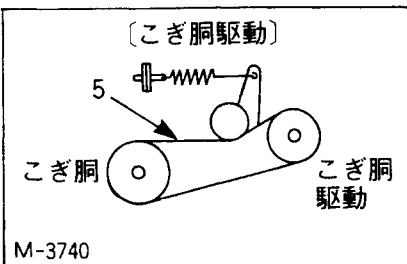
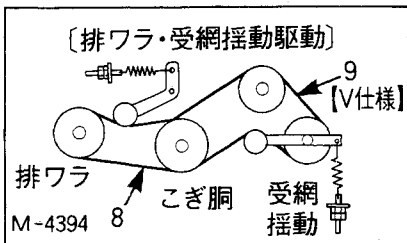
図番	品 名	品 番	個数/台
1	ワラ切刃	53567-1319-0	6
2	9+11受アミ	53650-2114-0	2
3	入口飛散防止 1	53650-6115-0	1
4	入口飛散防止 2	53650-6116-0	1
5	入口飛散防止 3	53650-6117-0	1
6	入口飛散防止 4	53650-6118-0	1
7	ダイ 1 セイソシ	53582-7212-2	4
8	ダイ 2 ホキョウシ	53582-7217-2	12
9	ナミハ	53582-7219-0	64
10	コキドウハネ	53591-2127-2	4

■カッタ部

 M-4712		 M-3034	
図番	品名・品番	機種名	個数/台
1	150セツダンバ 57783-2121-0	SR ₁ -18	16
		SR ₁ -18C	5
		SSR ₁ -18	26
		SSR ₁ -18C	6
2	セツダンバ(130) 57784-2223-0	SR ₁ -18	0
		SR ₁ -18C	11
		SSR ₁ -18	0
		SSR ₁ -18C	20

■ベルト関係

 M-3740			
図番	品名	品番	個数/台
本機	1 B48.5ベルト	52400-1274-0	1
	2 C46ベルト	52400-1145-0	1
	3 C61.5ベルト	52350-1241-0	1
脱こく	4 ブイベルト特C81	53671-1581-3	1
	5 ブイベルト特B53×2	53671-1588-0	2
	6 ブイベルト特B113	53652-2591-0	1
	7 ブイベルト特B94	53671-2592-2	1
	8 ブイベルト特B36	53650-4318-0	1
	9 ブイベルト特B45.5 【V仕様】	53656-2317-0	1
カッタ	10 ブイベルト特B51	57612-1116-0	1



クボタ純オイル

■オイルは**クボタ純オイル**をお使いください。

オイルは、コンバインの開発研究から生まれたクボタ純オイルを、必ずお使いください。市販のオイルをご使用になりますと、あなたの大切なコンバインの寿命を縮めることがあります。

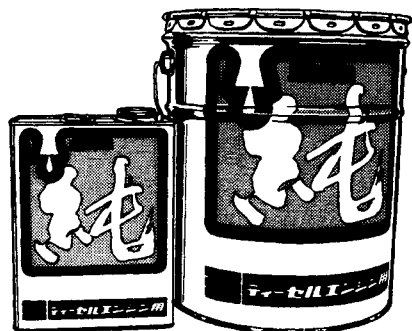
お買い求めは、販売店またはJA農協へご用命ください。

●エンジンには……

■**クボタ純オイル**

D30又はD10W30(4ℓ・20ℓ)

(ディーゼルエンジン用)

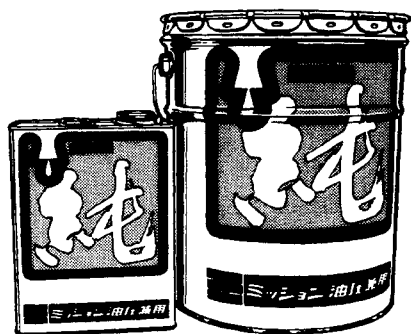


Z-1002改

■**クボタ純オイル**

M80B

(ミッション・各ギヤーケース用)

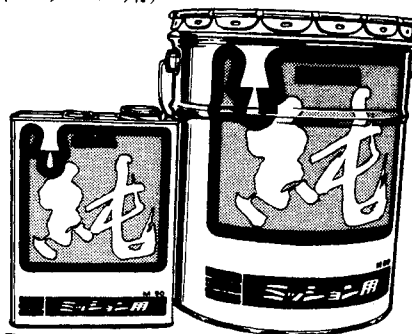


Z-1003改

■**クボタ純オイル**

M90(4ℓ・20ℓ)

(各ギヤーケース用)

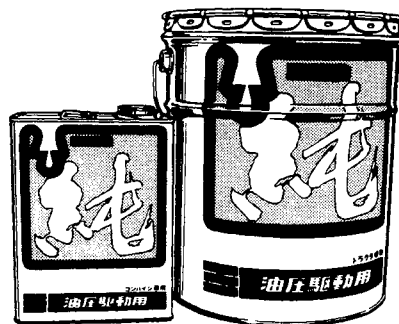


Z-1004改

■**クボタ純オイル**

UDT

(ミッション・油圧タンク用)

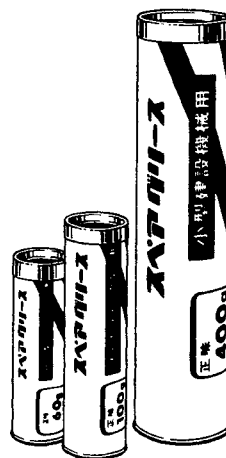


Z-1013改

●グリースアップには……

■**クボタスペアグリース**

60・100・400



Z-1005改

ラットガード

ラットガード のぼり純正品

ネズミよけスプレー塗料

■ネズミよけ塗料は…

- 機械の配線コード、ベルト、管、ホースなどへ
- ネズミの巣となりそうなところへ
- かじられたくないものを保管するカバー・袋・箱・ケースなどへ
- 家具・建具・調度品などへ

■ネズミよけ塗料の効果的なご使用は…

- ネズミが物を噛む場合の習性は、かどの部分から噛み始めます。決して平面部分から噛み始めることはありませんので、かどの部分を重点的にネズミよけ塗料を塗布してください。
- 電線・管などの断面積の円形のもの、又は細いものは2～3cmの距離からノズルを軽く押えながら全体的に塗布してください。
- ネズミの通路を防ぐ場合は、ウエス・紙などでフタをし、その上からネズミよけ塗料を塗布してください。
- ネズミの巣となりそうなところへは、その周辺から中心に向かって、厚めにネズミよけ塗料を塗布してください。

■ネズミよけ塗料の適用範囲は…

- ネズミはもちろんのこと、モグラ、イタチ、ウサギ、鹿などの動物にも効果があります。

品 番	品 名
07909-24590	ラットガード

■塗布後の有効期間は…

- 塗布する厚み、場所などの条件により有効期間は異なりますが、容器に表示の量(1カンで2.8㎡)を使用した場合、次の効果があります。

	条件の良いところ	標準	条件の悪いところ
味覚効果	1.5年～2年	1年～1.5年	6ヵ月～1年
臭気効果	8ヵ月～1年	6～8ヵ月	3～6ヵ月

※条件の悪いところは、

直射日光の当たるところ。風雨にさらされやすいところ。湿気の多いところなどです。

※条件の悪いところでは、容器に表示の量より厚めに塗布してください。有効期間が長くなります。



M-1027改

420 ml



注 意

*ネズミよけ塗料は、殺鼠剤ではありません。ネズミにかじられそうなところへ塗布することにより、ネズミの害から守るための製品です。

*ご使用に際しては、製品に記載の注意事項を守ってください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年といたします。

ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

株式会社クボタ

本 社	社：大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号	〒556	電(06)	648-2111
京 都 支 店	社：東京都中央区日本橋室町3丁目1番3号	〒103	電(03)	3245-3111
北 海 道 支 店	社：札幌市中央区北3条西3丁目1番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011)	214-3111
東 北 支 店	社：仙台市青葉区本町2丁目15番11号	〒980	電(022)	267-9000
中 部 支 店	社：名古屋市中村区名駅3丁目22番8号(大東海ビル)	〒450	電(052)	564-5111
九 州 支 店	社：福岡市博多区博多駅前3丁目2番8号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092)	473-2401
札 幌 支 店	店：札幌市西区西町北16丁目1番1号	〒063	電(011)	662-2121
仙 台 支 店	店：名取市田高字原182番地の1	〒981-12	電(022)	384-5151
東 京 支 店	店：浦和市西堀5丁目2番36号	〒338	電(048)	862-1121
大 阪 支 店	店：大阪府堺市緑ヶ丘北町1丁目1番36号	〒590	電(0722)	41-8506
岡 山 支 店	店：岡山市栄275番地	〒703	電(0862)	79-4511
福 岡 支 店	店：福岡市東区和白丘2丁目2番76号	〒811-02	電(092)	606-3161
堺 製 造 所	所：堺市石津北町64番地	〒590	電(0722)	41-1121
宇 都 宮 工 場	場：宇都宮市平出工業団地22番地2	〒321	電(0286)	61-1111
筑 波 工 場	場：茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	5112
枚 方 製 造 所	所：枚方市中宮大池1丁目1番1号	〒573	電(0720)	40-1121
堺 部 品 セ ン タ ー	ー：堺市築港新町3丁8番	〒592	電(0722)	45-8601
宇 都 宮 部 品 セ ン タ ー	ー：宇都宮市平出工業団地38-16	〒321	電(0286)	63-6336
筑 波 部 品 セ ン タ ー	ー：茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752)	2293
枚 方 部 品 セ ン タ ー	ー：枚方市中宮大池1丁目1番1号	〒573	電(0720)	40-1797
北 海 道 部 品 セ ン タ ー	ー：北海道札幌郡広島町大曲工業団地3丁目1番地	〒061-12	電(011)	376-2335
株式会社クボタアグリ東北				
秋 田 事 業 所	所：秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188)	45-1601
仙 台 事 業 所	所：宮城県名取市田高字原182-1	〒981-12	電(022)	384-5151
株式会社クボタアグリ東京				
東 京 事 業 所	所：浦和市西堀5-2-36	〒338	電(048)	862-1121
新 潟 事 業 所	所：新潟市上所上1-14-15	〒950	電(025)	285-1261
株式会社クボタアグリ大阪				
金 沢 事 業 所	所：石川県松任市下柏野町956-1	〒924	電(0762)	75-1121
名 古 屋 事 業 所	所：愛知県一宮市観音町1-1	〒491	電(0586)	24-5111
大 阪 事 業 所	所：大阪府堺市緑ヶ丘北町1丁目1番36号	〒590	電(0722)	41-8550
株式会社クボタアグリ中四国				
米 子 事 業 所	所：米子市米原7丁目1番1号	〒683	電(0859)	33-5011
岡 山 事 業 所	所：岡山市栄275	〒703	電(0862)	79-4511
高 松 事 業 所	所：香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-3	〒769-01	電(0878)	74-5091
株式会社クボタアグリ九州				
福 岡 事 業 所	所：福岡市東区和白丘2-2-76	〒811-02	電(092)	606-3161
熊 本 事 業 所	所：熊本県下益城郡富合町大字廻江846-1	〒861-41	電(096)	357-6181

品番 52420-8542-2

Kubota